

南条遺跡群

青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ

—長野県埴科郡坂城町ベシア店舗建設に係る緊急発掘調査報告書—

2007.3

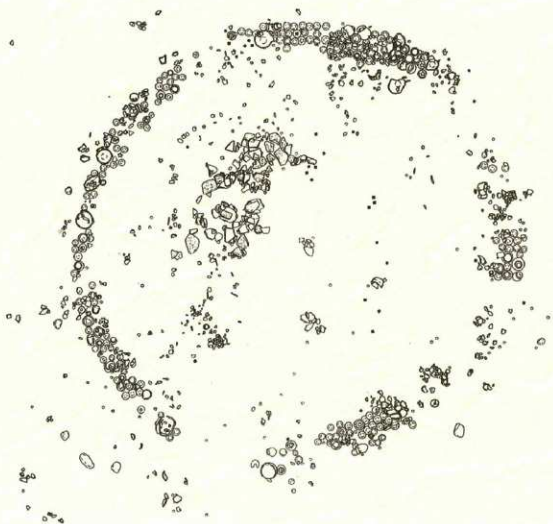
株式会社 いせやコーポレーション
坂城町教育委員会

青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ正誤表

ページ	行	誤	正
序	20	祭祀遺跡として注目され	祭祀遺跡として注目され
例言	14	本書第Ⅴ章第2節	本書第Ⅳ章第8節
凡例	8	H→竪穴住居址 D→土坑址 F→掘立柱建物址 P→ピット	H→竪穴住居址 D→土坑址 F→掘立柱建物址 P→ピット M→溝状遺構
凡例	22	表1 №1	表1-1
1	第1図	青木下遺跡Ⅱ位置図(1:25,000)	第1図 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ位置図(1:25,000)
4	31	横吹き	横吹
6	20	北面街道(80)	北面街道(90)
10・11	第4図	D1(N14・N15グリッド)	D1
13	7	掘立柱建物址 4基	掘立柱建物址 3基
13	10	土坑址 12基	土坑址 11基
13	13	(追加)	溝 5条
13	下から9	4条(青木下遺跡Ⅱ検出同一遺構1条)	4条(青木下遺跡Ⅱ検出同一遺構2条)
18	17	竪穴住居址が合計11棟検出されている。	竪穴住居址が合計12棟検出されている。
37・38	第19図	20-18(茶色・帯)	20-24
178	第134図	第134図 H2号住居址カマド掘り方実測図	第134図 H2号住居址出土土器実測図
179	第135図	3黒褐色土(10YR2/3)粘質土。P1覆土。	3黒褐色土(10YR2/3)粘質土。
179	第135図	1暗赤褐色土(5YR3/4)カマド覆土。	1暗赤褐色土(5YR3/4)カマド焼土。
182	第140図	<←1	227-1
182	第140図	6赤褐色土(5YR4/6)粘質土。カマド覆土	6赤褐色土(5YR4/6)粘質土。カマド焼土
182	第140図	9暗褐色土(7.5YR3/4)粘質土。カマド掘り方埋土。被熱により黄色	9暗褐色土(7.5YR3/4)粘質土。
182	第140図	12暗褐色土(10YR3/3)粘質土。カマド覆土。住居址掘り方埋土。	12暗褐色土(10YR3/3)粘質土。住居址掘り方埋土。
184	第144図	E-F	E-E
184	第144図	1	11
184	第144図	12	7
184	第144図	7	12
189	第153図	6黒褐色土(10YR3/2)粘質土。P5・6覆土。	6黒褐色土(10YR3/2)粘質土。P5・7覆土。
190	第155図	7黒褐色土(10YR3/2)粘質土。住居掘り方埋土。	7黒褐色土(10YR3/2)粘質土。カマド掘り方埋土。
193	第1表 H2住	北壁22 南壁33	北壁22 東壁33
195	第1表 H8住	M3、D2に切られる	(削除)
195	第1表 H9住	東壁10.0 西壁14.0	(削除)
195	第1表 H12住	北壁13.0 東壁26.0 西壁24.0 南壁35.0	北壁16.0 東壁60.0
195	第1表 H12住	カマド東壁中央	(削除)
201	2	合計5基の溝状遺構	合計6条の溝状遺構
231	第3表		P4の滑石片の欄に3を記入
231	第3表		グリッドの滑石片の欄の3を削除
231	第3表		グリッドの有孔円板の欄に1を記入
281	第7表	写真図版 80(全て)	写真図版 84
282	第7表	写真図版 81(全て)	写真図版 85
303	39-15(外面)	黒色処理 口縁部:ヨコナデ 体~底部:ヘラケズリ	口縁部:ヨコナデ 体~底部:ヘラケズリ
303	39-15(内面)	黒色処理、ヘラミガキ	ヘラミガキ
309	43-21(内面)	坏部:黒色処理 脚部:カキメ、ヘラケズリ 裾:ナデ	脚部:カキメ、ヘラケズリ、 裾:ナデ
340	108-1	ナデ	ナデ 坏部:黒色処理
358	冒頭	青木下遺跡Ⅱ・東裏遺跡Ⅳ・試掘出土陶器土器観察表	青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ・東裏遺跡Ⅳ・試掘出土陶器土器観察表
358	233-3	M1	M5
358	233-5	M1	M6
358	233-6	M5	M6
359	第12表	実測図№.205(全て)	実測図№.222
359	第12表	実測図№.206(全て)	実測図№.223
360	№.77		(項目全て削除)
360	№.78		(項目全て削除)
362	第229図	6号トレンチ(図面上部)	6号トレンチa
362	第229図	1号トレンチ(図面上部)	6号トレンチb
写真図版84	222-54		キャプション削除
写真図版87	上段	188-63	188-66
写真図版87	上段	188-64	188-67
写真図版87	上段	188-65	188-68
写真図版87	上段	188-66	188-69
写真図版87	上段	188-67	188-70
写真図版87	上段	188-68	188-71
写真図版87	上段	188-69	188-72
写真図版87	上段	188-70	188-73
写真図版87	上段	188-71	188-63
写真図版87	上段	188-72	188-64
写真図版87	上段	188-73	188-65
写真図版90	U t 12-77		削除
写真図版90	U t 12-78		削除
抄録	調査名	長野県埴科郡坂城町店舗建設事業に伴う緊急発掘調査報告書	長野県埴科郡坂城町ベイシア店舗建設事業に係る緊急発掘調査報告書
抄録	シリーズ名	坂城町埋蔵文化財発掘調査報告書	坂城町埋蔵文化財調査報告書

南条遺跡群

青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ

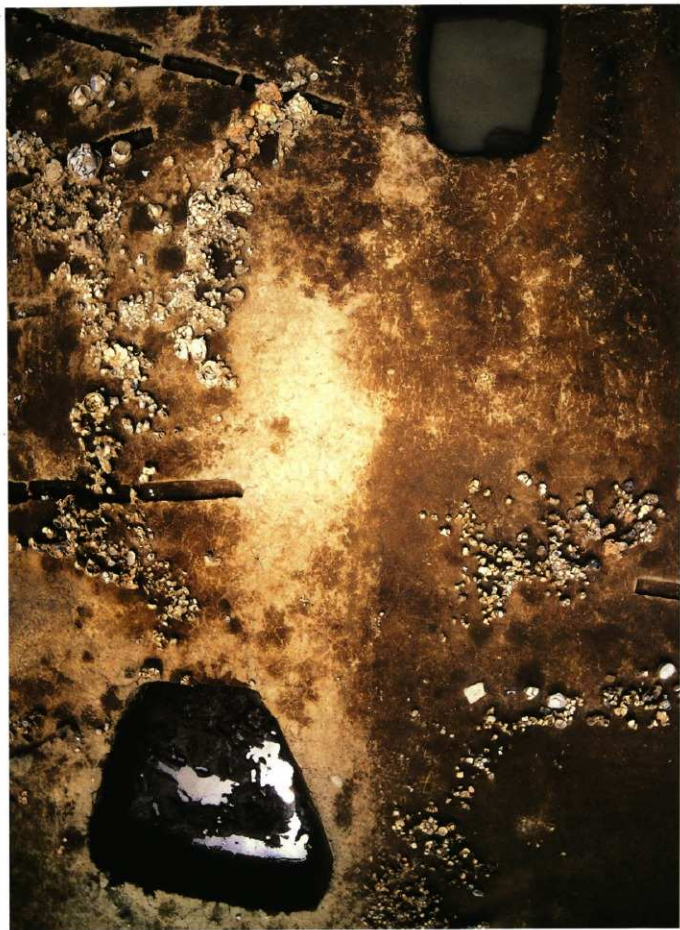


2007.3

株式会社いせやコーポレーション
坂城町教育委員会



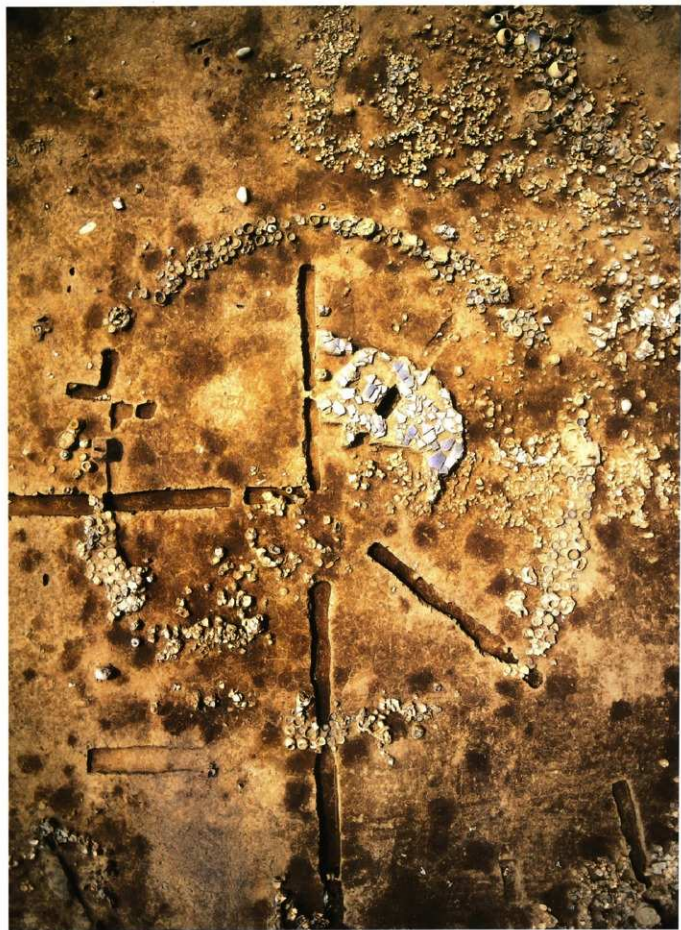
U12号土器集積址



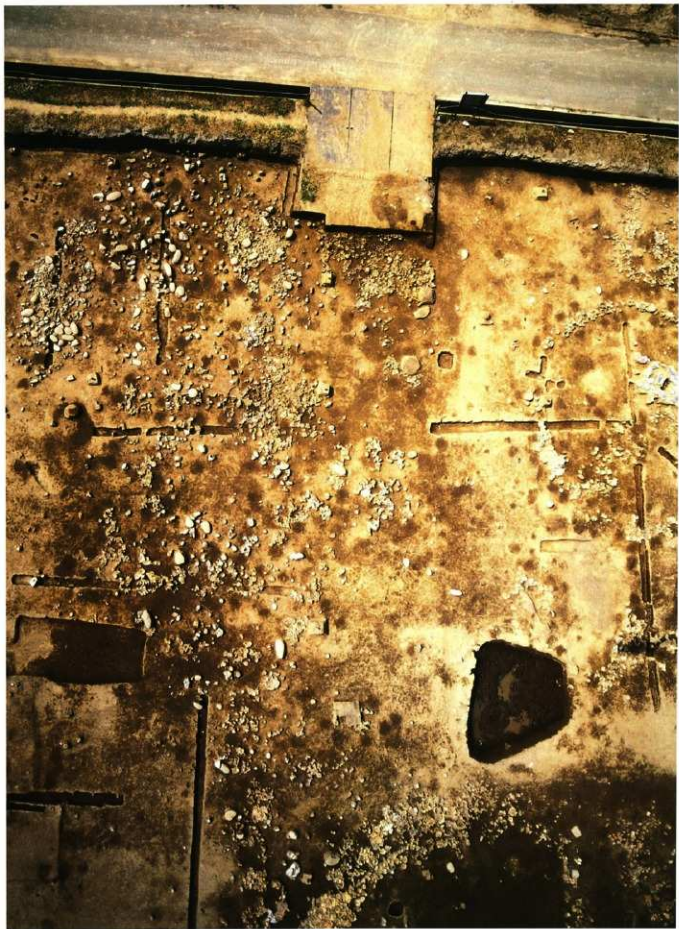
Ut 3 号土器基址



Ur 4 号土器集積址



U15 号土器集積址



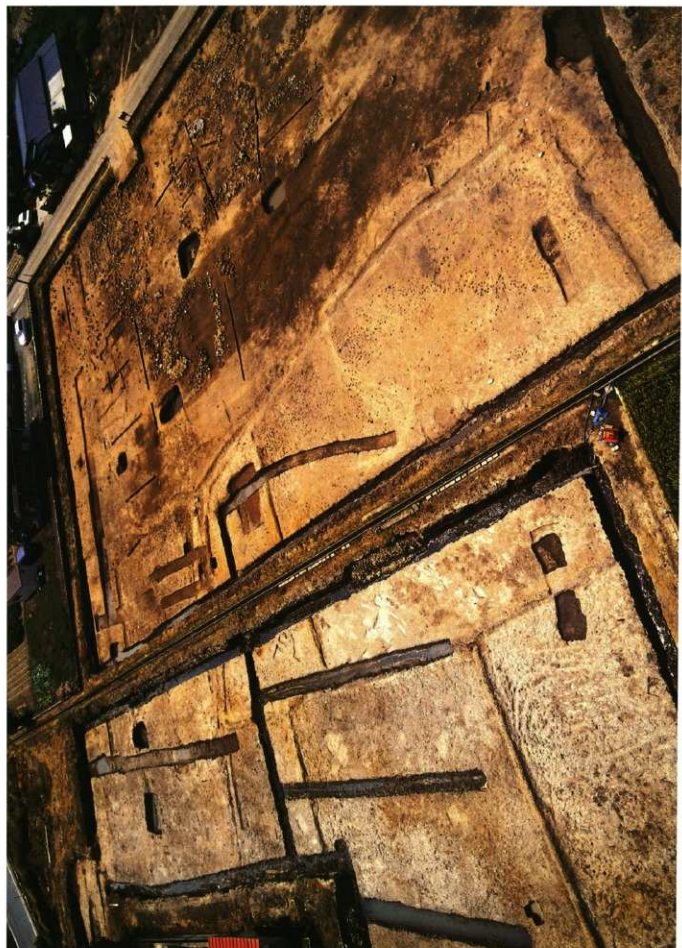
UR4・7・11号土器集積址



Ut 2·3·5·9·12·21号土器集積址



Ur2·6·9·21号土器集積址



土器集積址および水田址

序

坂城町教育委員会教育長 柳澤 哲

坂城南条鼠宿に位置する青木下遺跡Ⅱの祭祀遺構は、平成8年6月下旬、各新聞紙上に「わが国初の環状祭祀遺構の発見」と題して大きく掲載されました。この発見は、株式会社いせやコーポレーションの店舗建設にともなう緊急発掘調査によるものでした。現地説明会では650余名が参加し、それをまのあたりにした見学者は、環状に散乱する膨大な大小の土器類に目が奪われるとともに、そのすごさ、みごとに圧倒される思いをいただいたと思います。

類稀なる遺跡ということで、出土品や写真などは報告書刊行前から各地の展覧会で活用いただきました。地元長野県内の展覧会をはじめ、文化庁主催の「発掘された日本列島 '98考古速報展」にも展示され、とくに速報展は東京国立博物館をはじめ、全国7会場を巡回したことから、遺跡の重要性、特異性がいっそう宣伝されることになり、古墳時代の祭祀遺跡として今日なお全国各地から注目を集める遺跡となっております。

こうしたなか、町では平成17年には合併50周年を迎え、その記念イベント事業のなかで、「古代の祈り・願い」の企画展をおこない、環状の状態で見発見された祭祀遺構及び出土品を出土した状態に再現し、多くの方々に遺跡の状態を改めて紹介しました。また、講演会もおこない、調査に際して終始ご指導をいただいている國學院大學教授相山林維先生から「青木下遺跡から見た日本の祭祀」という演題で、青木下遺跡Ⅱの特殊性についてお話していただきました。

ところで、発掘調査以来、その重要性が注目されたまま、約10年が経過しました。しかし、この間、そして今なお、青木下遺跡Ⅱのような環状に土器を配列した遺跡がみつかったという話は耳にすることはありません。青木下遺跡Ⅱは、千曲川の自然堤防上から後背湿地における当時の祭祀のあり方を考える上で非常に重要な遺跡です。今後も国内唯一の祭祀遺跡として注目され続けるかと思われます。本報告書がこれからの古墳時代の祭祀研究をはじめとする考古学研究の進展に寄与できれば幸いと考えております。遺跡の詳細は、本報告書中に記載してありますので、参照いただきたいと思います。

最後になり、恐縮ですが、株式会社いせやコーポレーション様には発掘調査から報告書作成に係る費用負担をいただき、また、発掘調査でも期間の延長など種々ご理解ご協力いただきました。また、作業にあられた方々の献身的な努力によって本報告書が完了することができました。その他関係機関、各位のご理解ご協力を得まして、本書刊行の運びとなりましたことに心から御礼申し上げます。

例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における店舗建設に伴う青木下遺跡Ⅱ・Ⅲの発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は株式会社いせやコーポレーションより委託を受け、坂城町教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査所在地及び面積

青木下遺跡Ⅱ 長野県埴科郡坂城町大字南条637-7 他	1区 2,342.1㎡	2区 1,304㎡
	合計 3,646.1㎡	

青木下遺跡Ⅲ 長野県埴科郡坂城町大字南条639-1 他	732.36㎡
-----------------------------	---------

4 調査期間

青木下遺跡Ⅱ（現地調査）平成8年4月8日～11月13日

青木下遺跡Ⅲ（現地調査）平成9年12月11日～平成10年3月6日

- 5 本書の執筆は助川・時信が行い、編集は助川、田中、萩野が行った。
 - 6 本書の作成にあたり、土器分類については齋藤の分類を基に時信が再検討した。実測・トレースについては朝倉、天田、齋藤、坂巻、田中、塚田、萩野が行い、関、谷川、千野、中沢が基本台帳入力を行った。
 - 7 本書第Ⅴ章第2節については櫻井秀雄氏に石製模造品の実測・計測及びトレースをお願いし、玉稿を賜り掲載した。
 - 8 青木下遺跡Ⅲの発掘調査における動機と経緯、地理的環境、歴史的環境については青木下遺跡Ⅱと重複するため割愛した。
 - 9 航空写真撮影及び一部の遺物・遺構図化作業について、株式会社写真測図研究所に委託した。
 - 10 遺物の写真撮影については信毎書籍印刷、（有）大川プロセスで行い、一部を助川が行った。
 - 11 本書及び調査に関する資料は、一部を除き坂城町教育委員会の責任下において保管されている。
 - 12 発掘調査は店舗建設部分のみ行い、駐車場等の造成地は立会い調査とした。店舗部分の縄文時代面については発掘調査期間が少なかったことや遺構保護上の面から発掘調査を行わず、保存という保護措置を執った。したがって、本調査によって報告された店舗部分の下面にも依然として縄文時代の包含層が埋蔵されている。更に現在の駐車場等においては全く記録保存のための発掘調査は実施されていない。今後は当該地においても縄文時代～古代に係る遺跡が埋蔵されていることから、今後新たな開発が行われる場合は必ず適切な保護措置が執られなくてはならない。
 - 13 土器集積地の遺構名については、現地調査時に順次命名したわけであるが、本報告書内では整理段階での再検討を加えた結果、欠番になっているものもある。また、青木下遺跡Ⅲの遺構名については、青木下遺跡Ⅱからの通し番号とした。
 - 14 本遺跡の遺物実測については、須恵器についてはでき得る限り実測を行い、土師器については全資料中から分類基準を基に抽出したものを掲載した。その選別の方法は器種を推察できるものの中から、遺跡の概要を窺い知れる器種を抽出した。
 - 15 本調査や本書作成にあたって、多くの方や機関からご配慮を得た。記して感謝の意を表したい。（敬称略、五十音順）特に長野県教育委員会（当時市村勝巳指導主事、原明芳指導主事他）からは発掘調査を早期に終了させる目的で、遺物の取り上げ方法等調査に際し多々ご指導頂き、坂城町教育委員会ではそれに基ついて調査を行った。
- 青木一男、青木正洋、赤松 茂、飯島哲也、石野博信、泉森 皎、市川桂子、岩崎卓也、岩崎重子、上田

典男、宇賀神 誠司、白田武正、内川 隆、尾見智志、風間栄一、桐原 健、小林真寿、小林秀雄、小山岳夫、小出義治、坂本和俊、櫻井秀雄、笹沢 浩、佐藤信之、篠原祐一、白沢勝彦、桐山林継、鈴木敏弘、塚本敏夫、土屋 積、寺島孝典、冨沢一明、西山克己、橋本英将、服部敬史、林 幸彦、廣瀬昭弘、福田健司、藤井章徳、藤沢平治、宮下健司、矢島宏雄、和根崎 剛、(財)長野県埋蔵文化財センター、(社)更埴地域シルバー人材センター

凡 例

- 1 遺構の略号は、下記のとおりである。

H → 竪穴住居址 D → 土坑址 F → 掘立柱建物址 P → ビット

Ut → 土器集積址(祭祀遺構) Pa → 水田址

- 2 遺構名は時代別ではなく、発掘調査時における命名順である。

- 3 挿図の縮尺は、下記を基本としたが、挿図の中に異なるものもあり、各図ごとに縮尺を明記した。

祭祀遺構・竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑址・溝状遺構 → 1/80

カマド → 1/40

遺構配置図 → 1/400 土器 → 1/4

- 4 挿図中におけるスクリーントーンは下記を示す。

遺構

遺構構築土 → 斜線 カマド → 網点(太) 焼土 → 網点(細)

遺物

須恵器土器断面 → 網点 土師器黒色処理 → 網点 弥生赤色塗彩 → 網点(細)

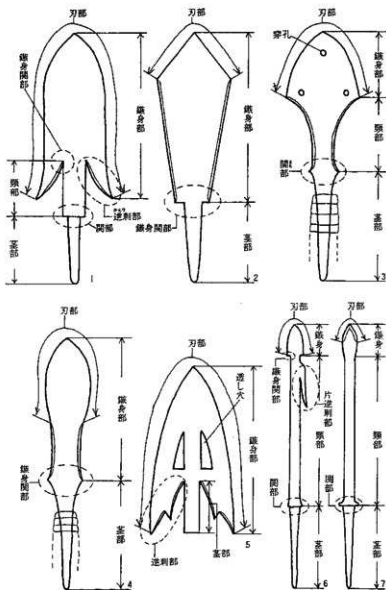
- 5 遺物写真図版の縮尺は実測図とほぼ同様の縮尺で掲載した。

- 6 遺物の挿図中での表記は、本書の掲載遺物について第1図1は1-1とし、表のみ掲載した遺物は第1表のNo.1の遺物は表1 No.1と表記した。遺物写真において木実測のものについては遺構名を表記した。

- 7 土層の色調は『新版 標準土色帖』の表記に基づいて記載した。

- 8 土器の観察表は本文の後に掲載し、法量は口径・器高・底径の順に記載し、一は不明、()は残存値、< >は推定値、< - >は丸底等のため計測できないもの、()がない場合は完存値を示している。単位はcmである。

9 鉄鎌の部位名称については、藤吉川弘文館発行、榎原考古学研究所論集第8 杉山秀宏氏の「古墳時代の鉄鎌について」の名称を参考としたため下図に示した。



目次

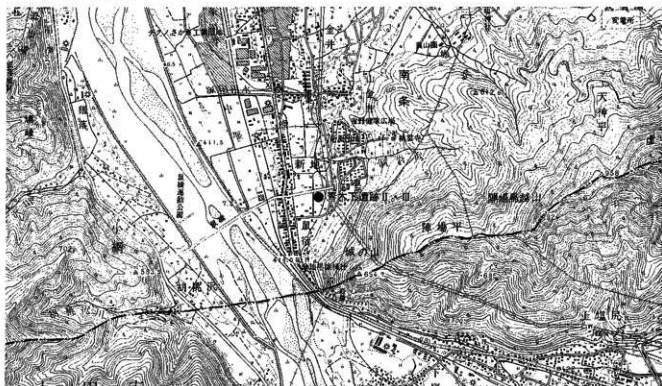
序・例言・凡例	
第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至る動機と経緯	1
第2節 調査の構成	2
第3節 調査日誌	3
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第Ⅲ章 調査の概要	9
第1節 調査の方法	9
第2節 基本順序	12
第3節 検出された遺構・遺物	13
第Ⅳ章 青木下遺跡Ⅱの調査の結果	14
第1節 土器集積址	15
第2節 竪穴住居址	18
第3節 掘立柱建物址	196
第4節 土坑址	198
第5節 溝状遺構	201
第6節 水田址	201
第7節 土器の分類基準	202
第8節 玉類・石製模造品	229
第9節 祭祀遺構の組成	249
第10節 その他の遺構・遺物	270
第Ⅴ章 青木下遺跡Ⅲの調査の結果	363
第1節 掘立柱建物址	363
第2節 土坑址	363
第3節 溝状遺構	364
第4節 水田址	365
第5節 その他の遺物	365
第Ⅵ章 総括	367
第1節 祭祀遺構と出土遺物	367
第2節 古墳時代集落と祭祀	370
出土遺物観察表	
写真図版	
報告書抄録	

第I章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る動機と経緯

南条遺跡群は坂城町南条に所在し、標高405m～413mを測る千曲川によって形成された自然堤防から後背湿地に立地する遺跡である。平成元年度に作成された「坂城町遺跡分布図」によると、東裏遺跡、御殿裏遺跡、百々目利遺跡、中町遺跡、田町遺跡、廻り目遺跡、塚田遺跡が所在し、青木下遺跡は命名されていない。平成5年度実施のA01号線道路改良事業に伴い、当遺跡より水田域を主とする遺構が発見され、「東裏」に隣接している当該地の「青木下」の字名をとって青木下遺跡と命名した。

今回、株式会社いせやコーポレーションによる店舗建設が計画され、東裏遺跡、青木下遺跡に店舗及び駐車場建設が予定され、同遺跡の破壊が余儀なくされることになり、株式会社いせやコーポレーションと坂城町教育委員会生涯学習課による保護協議の結果、遺跡の状況を確認するための試掘調査が行われた。試掘調査の結果から多くの上器を出土する区域と集落址及び水田址が検出され、再度保護協議が実施された。その結果長野県教育委員会からの指導を受け、店舗建設部分にあたる青木下遺跡のみ記録保存を前提とした発掘調査を実施した。調査は古墳時代の面までの調査として、基礎が達しない縄文時代の生活面の調査は実施せず保存という措置を執った。駐車場となる東裏遺跡については盛土保存する事となり、立会い調査を実施することとなった。発掘調査は株式会社いせやコーポレーションからの委託を受け、坂城町教育委員会が実施した。しかし、平成8年度の発掘調査中に同店舗の建設計画が変更されたことに伴い、店舗建設位置が北方向に移動したことを受け、平成9年度再度発掘調査を実施した。整理作業においては、株式会社いせやコーポレーションから数ヶ年度にわたり実施して欲しいといった要望及び、当方の発掘調査計画も過密な状況であったため、数年時にわたって整理作業を実施する方針であった。平成14年度からは整理作業方針の決定のため、調査指導委員会を組織し、報告書の基本方針等の検討を続け、報告書作成に努めた。



第1図 青木下遺跡Ⅱ位置図 (1:25,000)

第2節 調査の構成

発掘調査の体制

- 調査指導 森嶋 稔（千曲川古代文化研究所主幹、日本考古学協会員、平成8年6月16日逝去）
塩入 秀敏（土田女子短期大学教授、日本考古学協会員、平成8年9月1日～、平成19年3月18日逝去）
- 指導委員 飯島 哲也（長野市教育委員会）、風間 栄一（長野市教育委員会）、櫻井 秀雄（長野県埋蔵文化財センター）、塩入 秀敏（前出）、富沢 一明（佐久市教育委員会）、西山 克己（当時長野県埋蔵文化財センター、平成14年度のみ）
- 現場担当者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）、小平 光一（坂城町教育委員会学芸員）
- 整理担当者 助川 朋広（前出）
- 調査員 齋藤 達也（坂城町教育委員会学芸員）、時信 武史（坂城町教育委員会学芸員）
- 協力者 朝倉 妙子、天田 澄子、小林 啓子、坂巻 ケン子、塩野入 早苗、春原 かずい、高木 和子、田中 浩江、塚田 さゆり、中村 久子、萩野 れい子、宮尾 美代子（以上、町臨時職員）
青木 徳子、青山 園子、朝倉 今朝男、五十嵐 信男、石井 和美、池上 幾代、池上 武人、池田 てる子、池田 初栄、池田 義勝、伊藤 篤、上野 かず江、白井 かね、大柴 はつひ、北沢 昭二、窪田 盛次、栗林 初恵、小島 光子、小林 澄枝、小林 靖彦、近藤 金子、齋藤 義治、沢崎 茂子、島谷 久、清水 よ志、鈴木 裕雄、諏訪 孝雄、滝沢 かつ子、滝沢 袈裟夫、滝沢 恒男、竹内 清江、竹内 今朝人、竹内 達、竹鼻 茂、逢家 みきえ、田中 勉、塚田 智子、塚田 典男、中島 功、中島 金子、中島 千津子、中村 静枝、中村 容民、羽毛田 とし子、松本 よし子、丸橋 智子、三井 重子、三橋 義人、宮沢 淑夫、宮下 かよ子、柳沢 黠夫、柳沢 良子、山口 隆央、山崎 文子、山田 武敏、山辺 久雄、山本 優（以上、シルバー人材センター派遣）
金井 豊、木戸 一臣、長尾 佑樹、前沢 良行、宮尾 裕之、山崎 公一（以上高校生）

事務局の構成

- 教育長 西沢 民雄（～平成9年6月30日）
大橋 幸文（平成9年7月1日～平成17年6月30日）
柳澤 哲（平成17年7月1日～）
- 教育次長 宮原 健一（平成11年7月1日～平成13年3月31日、生涯学習課長兼務）
- 生涯学習課長 塩野入 猛（～平成9年3月31日）
赤池 利博（平成9年4月1日～平成11年6月30日）
塚田 好一（平成14年4月1日～、平成15年4月～文化財センター所長兼務）
- 文化財係長 青木 昌也（～平成9年3月31日）
池田 美智康（平成9年4月1日～平成12年3月31日）
池田 弥惣（平成12年4月1日～平成14年3月31日）
坂口 ふみ江（平成14年4月1日～平成15年3月31日、文化財センター所長兼務）

- 助川 朋広（平成15年4月1日～）
- 文化財係 助川 朋広（～平成15年3月31日）
- 小平 光一（～平成9年度）
- 齋藤 達也（平成11年4月1日～平成16年度）
- 宮入 正代（平成17年4月1日～平成18年3月31日）
- 時信 武史（平成18年4月1日～）
- 朝倉 妙子、天田 澄子、小林 啓子、坂巻 ケン子、塩野入 早苗、春原 かずい、関
貴子、瀬在 貴子、高木 和子、田中 浩江、谷川 直和、千野 美樹、塚田 さゆり、塚
田 千代、中沢 あつみ、中村 久子、萩野 れい子、宮尾 美代子（以上、臨時職員）

第3節 調査日誌

平成8年度（青木下遺跡Ⅱ）発掘調査

- 4月8日 本日よりバックホーによる表土剥ぎを1区から開始する。
- 4月10日 発掘機材の搬入を行う。
- 4月11日 調査関係者及び開発関係者にて発掘調査の開始式を行う。遺構の検出作業を実施する。
- 4月19日 1区表土剥ぎを一時中止し、2区表土剥ぎを開始する。
- 4月25日 土器の集積址（Ut2、Ut4、Ut6）が検出される。
- 4月27日 本日をもって表土剥ぎを終了する。
- 5月1日 1区UT2検出作業、2区水田址検出作業を実施する。
- 5月2日 調査区内の基準点測量開始する。引き続き1区集積址の検出、2区水田址の検出を行う。
- 5月13日 Ut5がUt1の下のレベルから検出される。
- 5月17日 Ut5の坏内及びその周辺から白玉が発見される。
- 6月3日 Ut5のトレンチ調査により環状に土器が配列されている事が判明する。
- 6月7日 現段階で8基の環状、弧状の土器集積址が検出される。
- 6月11日 Ut7の検出作業を実施する。周辺のプロック状の土器集積址検出する。
- 6月21日 読売新聞、朝日新聞、信濃毎日新聞等に掲載される。
その前後日々研究者、一般見学者の対応に追われる。
- 7月14日 現地説明会を開催する。約650名来跡する。
- 7月18日 Ut7実測を開始する。各土器集積址の精査及び実測作業を実施する。
- 8月8日 Ut5実測終了。土器集積址内の白玉、鉄製品の取り上げを行う。
- 9月2日 航空撮影のための精査開始する。
- 9月4日 航空写真撮影を行う。
- 9月6日 Ut3遺物取り上げを開始する。
- 9月18日 本日より長野県教育委員会の指導によりUt4遺物取り上げ開始する。
- 9月19日 Ut4、Ut6、Ut13、Ut14、Ut15、Ut20、Ut28等順次遺物取り上げ開始する。
- 9月27日 すべての土器集積址の遺物取り上げ完了する。
- 10月1日 本日よりバックホーによる掘り下げを開始し、住居址の検出を行う。約10棟住居が検出。
- 10月4日 H4住の先行トレンチ調査開始する。

- 10月7日 H1・2・3・5・8・11号往先行トレンチ調査開始する。
- 10月9日 上記住居址ほか掘り下げを行う。
- 10月29日 航空写真撮影のための精査を開始する。
- 10月30日 航空写真撮影を行う。本日発掘調査の終了式を行う。
- 11月11日 本日を持って現地での発掘調査を終了する。

平成9年度（青木下遺跡Ⅲ）発掘調査

- 12月11日 開始式を行う。表土剥ぎを実施する。
- 12月15日 表土剥ぎを終了する。
- 12月18日 水田域の検出作業を開始する。
- 12月22日 水田域の砂屑除去を終了する。
- 12月24日 基準点測量を実施する。
- 12月25日 年内の作業を終了。溝の掘り下げを実施する。
- 1月8日 大雪により雪かきを実施。（1月22日まで雪かき継続）
- 2月6日 溝の掘り下げを実施。写真撮影を実施する。
- 3月5日 本日をもって現地での調査を終了する。

整理作業

- 平成14年度 土器洗浄・注記作業、接合作業を実施する。報告書作成指導委員会を組織し、以後ご指導いただく。
- 平成15年度 土器注記作業、接合作業、図面修正作業を実施する。
- 平成16年度 土器・金属器実測作業、遺構図トレース作業、土器分類作業を実施する。
- 平成17年度 遺物のトレース作業、遺構の仮版組み、台帳整備を行う。
- 平成18年度 遺物の分類、遺物の仮版組み、台帳整備を行い、報告書の作成となる。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接合点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置し、県の東部に源流を発し、町の中央部を貫流する千曲川によって、右岸地域と左岸地域とに分断されている。この千曲川は坂城盆地と呼ばれる沖積地を形成し、この千曲川に流れ込むいくつかの小河川がつくりだした扇状地によって形づくられている複合扇状地が発達している点に坂城町の特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が屏風のように連なり、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ッ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。北は千曲川右岸の横吹きと左岸の自在山による岩壁がネックとなり、南では千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域は南北に開けた小盆地状をなし、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域

の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第2節 歴史的環境

千曲川や小河川によって形成された自然堤防や扇状地には、いくつもの遺跡が存在し、その遺跡の性格も多種多様である。ここでは、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について触れておきたい。(括弧内の数字は7、8ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す。)

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡(3-1)より採集されたものであるが、本出土品以外には坂城地区の込山D遺跡での槍先型尖頭器の出土がある。本遺物及び保地遺跡の採集遺物についても詳細が不明であるため、今後の調査に委ねるところが多い。

縄文時代の遺跡では正直なところ発掘調査遺跡数が少なく、詳細に欠けるところが多いが、『坂城町誌』では早期押形文系の土器や前期諸磯系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡から採集され、遺物が掲載されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡(30-3)からも押形文系の土器片が少量出土している。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土しているが、これらは現在整理中である。南条地区の塚田遺跡や東裏遺跡Ⅱから縄文前期や中期の土器、石器が出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられ、保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の出土が『考古学雑誌』に報告されている(関 1966)。後者については、縄文時代晩期に位置づけられると考えられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が目玉され、再葬のあり方とコーラゲン分析の結果から見られた縄文人の食性についても課題を残している。その他、坂城地区の込山D遺跡(30-4)から昭和初期に採集された遮光器上偶の頭部がある。遺跡の立地を見ると千曲川沖積地と扇状地の扇尖部付近、扇端部付近に立地している。

弥生時代では、中期以前の調査例が少ないため状況は不明であるが、込山B遺跡(未報告)や込山C遺跡Ⅱ・Ⅲ、込山D遺跡から当該期の遺物・遺構が検出されている。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡(1-7)で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品(鉄斧)が出土しているほか、中之条地区の宮上遺跡Ⅲがある。これらは千曲川の自然堤防上に立地する遺跡と扇状地の扇尖部に立地する遺跡である。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる(註1)。これらは、平成5年度に(財)長野県埋蔵文化財センターにより実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた(若林 1999)。後期古墳では、町内でもいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。内部施設に千曲川水系最大の横穴式石室を持ち、室全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落は町内の南条地区や中之条地区において多く検出されている。祭祀遺跡として、特に環状に土器を配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡Ⅱ(1-8)が注目される。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群(8)とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡(8-1)、上

町遺跡(8-2)、東町遺跡(8-3)、宮上遺跡(8-5)、北川原遺跡(8-6)、豊饗堂遺跡(20)、開
 敵遺跡(21)で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時
 代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡(32)があり、昭和41年発掘調査が実施され、瓦の生産が行わ
 れていたことが実証され、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に
 存在していたとされる込山廃寺(54)に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法庵寺の
 補修用の差し瓦として使用されていたことなどが判明している。また、千曲川右岸及び左岸の後背湿地では、
 仁和4年(888)に起きたとされる千曲川大洪水の被害を受け、氾濫砂層によって被覆された状態で発見さ
 れた埋没水田址が塚田遺跡(1-7)、青木下遺跡(1-8)、上五明条里水田址(78)にて検出されている。

平安時代後期、寛治8年(嘉保元)(1094)に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力
 を持つようになり、村上貞信、村上満信などの活躍や戦国時代での村上義清の活躍が挙げられる。義清の頃、
 村上氏の館は現在の坂城地区の溝泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清
 が使用した葛尾城跡があるが城自体は現存していない。この館跡及び山城をセットとして、村上氏城館跡と
 して長野県史跡に指定されている。このほか、中世の遺跡では坂城地区の北日名経塚(40)及び観音平経塚
 (55)を始めとする経塚と中之条地区の開敵製鉄遺跡(53)がある。北日名経塚は明治29年に発見され、鉚
 鋼製経筒や青白磁輪花小皿、和鏡等の出土品が見られたが、現在東京国立博物館に所蔵されている。観音平経
 塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、
 その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている(若林 1999)。
 開敵製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基
 が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置づけられるものであった。

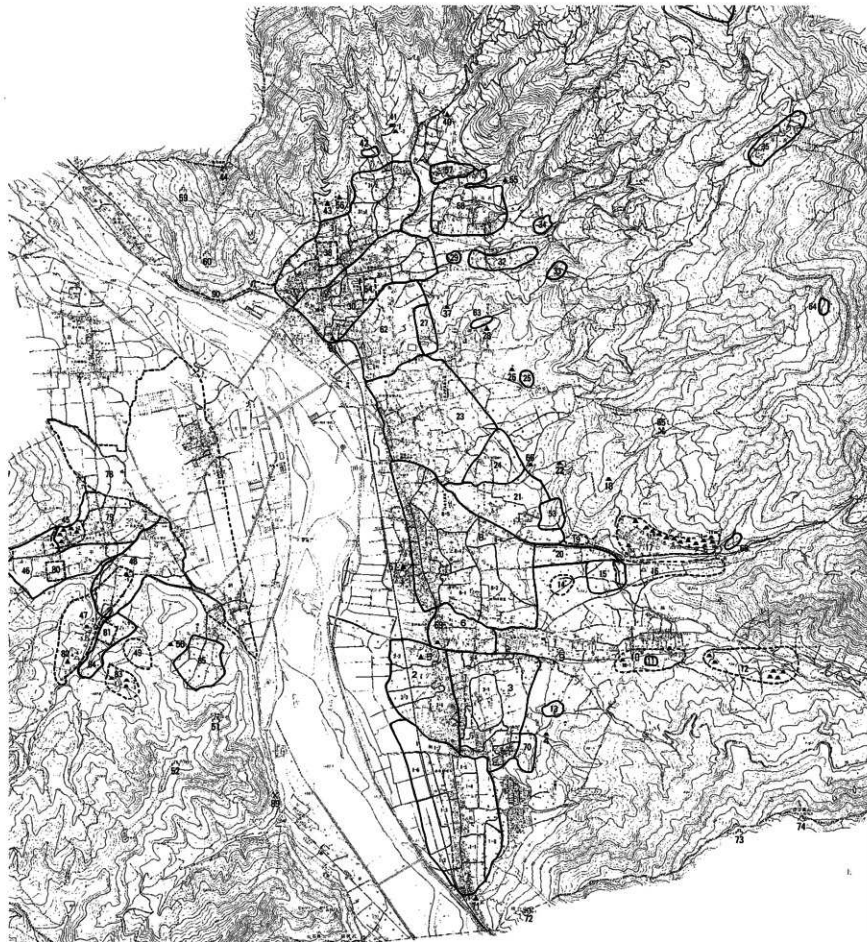
江戸時代に入ると、北国街道(80)の制定により、坂木宿が宿駅として発展した。元和8年(1622)に現
 在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村は幕府の直轄地である天領となり、重
 要な場所として位置づけられた。代官所は最初、坂木(61)に置かれたが、明和4年(1767)に焼失し、そ
 の後、安永8年(1779)には中之条に代官所(67)が置かれるようになった。北国街道も当時の幹線道路と
 して賑わいを見せていたとされている。

以上、簡単ではあるが近世までの坂城町の歴史を概略したわけであるが、青木下遺跡は、坂城町の南端、
 南条地区の鼠窟に位置し、千曲川によって形成された自然堤防から後背湿地に位置し、「ネズミ」の名の起
 こりも中世の山城が所在するところから、不寝番が置かれたとされ、このことから派生したものと考えられ
 ている。以上より、青木下遺跡周辺は要衝の地であったことが推察される。

註1 周知の御堂川古墳群東平文群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、報告書内において坂城東平1・2号墳とされている。
 今後、正式な古墳名様の確定が必要である。

参考文献(五十音順・敬称略)

- 坂城町教育委員会 1978『開敵製鉄遺跡-第1次調査報告』1979『開敵製鉄遺跡-第2次調査報告』1993『宮上遺跡Ⅱ』(概報)
 1995『東表遺跡』1996『豊饗堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』1996『寺浦遺跡Ⅱ』2000『開敵遺跡Ⅲ』
 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』2001『北川原遺跡Ⅱ』2002『保地遺跡Ⅱ』2007『込山D遺跡』
 関 孝一 1966『長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号
 森嶋 悠ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編(一)
 助川 朋広 1997『長野県埴科郡坂城町青木下遺跡Ⅱの祭祀遺構』『祭祀考古』第8号
 柳沢 亮 1998『第5節 開敵遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』(財)長野県埋蔵文化財センター
 若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』第11章 観音平経塚『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』(財)長野県
 埋蔵文化財センター



坂城町遺跡分布図

図面番号	遺跡名	種別	時代
1	南条遺跡群	墓塚址	縄文~平安
-1	南条遺跡群 東部遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	南条遺跡群 南東部遺跡(墓塚)	墓塚址	縄文~平安
-3	南条遺跡群 西ヶ谷部遺跡	墓塚址	縄文~平安
-4	南条遺跡群 中町部遺跡(新橋)	墓塚址	縄文~平安
-5	南条遺跡群 西町部遺跡	墓塚址	縄文~平安
-6	南条遺跡群 西町部遺跡	墓塚址	縄文~平安
-7	南条遺跡群 西町部遺跡(田圃)	墓塚址	縄文~平安
-8	南条遺跡群 西町部遺跡	墓塚址	縄文~平安
2	全井原遺跡群	墓塚址、住居跡	縄文~平安
-1	全井原遺跡群 全井原遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	全井原遺跡群 辻井原遺跡(全井原)	墓塚址	縄文~平安
-3	全井原遺跡群 辻井原遺跡	墓塚址	縄文~平安
-4	全井原遺跡群 辻井原遺跡	墓塚址	縄文~平安
3	全井原遺跡群 保土遺跡	墓塚址	縄文~平安
-1	全井原遺跡群 保土遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	全井原遺跡群 保土遺跡	墓塚址	縄文~平安
-3	全井原遺跡群 保土遺跡(南条小学校敷地)	墓塚址	縄文~平安
-4	全井原遺跡群 保土遺跡	墓塚址	縄文~平安
4	谷中台遺跡	古墳	古墳
5	辻野神塚	古墳	古墳
6	野田遺跡	住居跡	縄文~平安
7	野田遺跡	古墳	古墳
8	中之島遺跡群	墓塚址	縄文~平安
-1	中之島遺跡群 寺尾遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	中之島遺跡群 上野原遺跡	墓塚址	縄文~平安
-3	中之島遺跡群 東野原遺跡	墓塚址	縄文~平安
-4	中之島遺跡群 北流路遺跡	墓塚址	縄文~平安
-5	中之島遺跡群 東上遺跡	墓塚址	縄文~平安
-6	中之島遺跡群 中上遺跡	墓塚址	縄文~平安
9	南条沢古墳群(塚ヶ古墳)	古墳	古墳
-10	南条沢古墳群	古墳	古墳
-1	野川古墳群 八幡塚支那 南田原遺跡	古墳	古墳
-2	野川古墳群 八幡塚支那 刈田原遺跡	古墳	古墳
11	八幡塚遺跡	古墳	古墳
12	野川古墳群 上野原遺跡	古墳	古墳
13	野川古墳群	古墳	古墳
14	野川古墳群 山口支那	古墳	古墳
15	山崎遺跡	古墳	古墳
16	野川古墳群 山崎支那	古墳	古墳
17	野川古墳群 山崎支那	古墳	古墳
-1	野川古墳群 野川1号墳	古墳	古墳
-2	野川古墳群 野川2号墳	古墳	古墳
-3	野川古墳群 野川3号墳	古墳	古墳
-4	野川古墳群 野川4号墳	古墳	古墳
-5	野川古墳群 野川5号墳	古墳	古墳
-6	野川古墳群 野川6号墳	古墳	古墳
-7	野川古墳群 野川7号墳	古墳	古墳
-8	野川古墳群 野川8号墳	古墳	古墳
-9	野川古墳群 野川9号墳	古墳	古墳
-10	野川古墳群 野川10号墳	古墳	古墳
-11	野川古墳群 野川11号墳	古墳	古墳
-12	野川古墳群 野川12号墳	古墳	古墳
-13	野川古墳群 野川13号墳	古墳	古墳
-14	野川古墳群 野川14号墳	古墳	古墳
18	野川古墳群 東支那 二塚支那	古墳	古墳
19	野川古墳群 山崎支那	古墳	古墳
20	野川古墳群 山崎支那	古墳	古墳
21	熊の川遺跡	墓塚址	縄文~平安
22	人形古墳	古墳	古墳
23	野川古墳群 野川15号墳	古墳	古墳
24	虎久保遺跡	墓塚址	古墳
25	八幡遺跡	古墳	古墳
26	野川古墳群(御所沢古墳)	古墳	古墳
27	野川古墳群	古墳	古墳
28	野川古墳群	古墳	古墳
29	熊の川遺跡	古墳	古墳
30	山崎遺跡群	墓塚址	縄文~平安
-1	山崎遺跡群 山崎古遺跡(赤上)	墓塚址	縄文~平安
-2	山崎遺跡群 山崎古遺跡(住野)	墓塚址	縄文~平安
-3	山崎遺跡群 山崎古遺跡(山崎)	墓塚址	縄文~平安
-4	山崎遺跡群 山崎古遺跡(御所)	墓塚址	縄文~平安
-5	山崎遺跡群 山崎古遺跡(赤上)	墓塚址	縄文~平安
31	日奈沢遺跡群	墓塚址	縄文~平安
-1	日奈沢遺跡群 日奈沢遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	日奈沢遺跡群 及山遺跡	墓塚址	縄文~平安
32	全井原遺跡群	古墳	古墳
33	中村遺跡	古墳	古墳

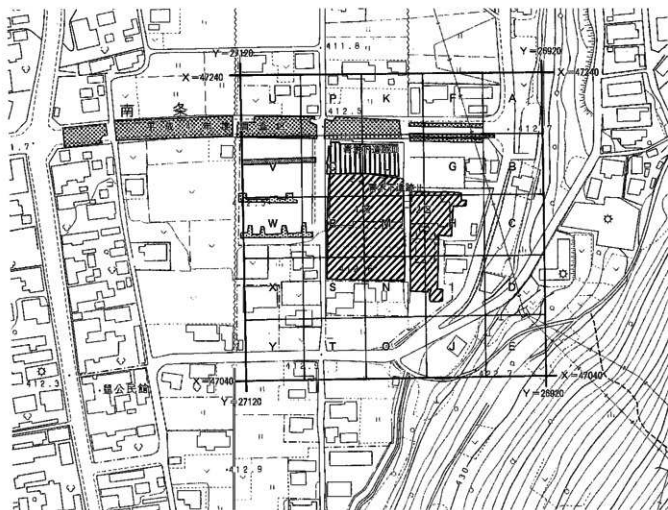
図面番号	遺跡名	種別	時代
34	御所遺跡	古墳	古墳
35	野川遺跡	古墳	古墳
36	北平遺跡群	墓塚址、住居跡	縄文~平安
-1	北平遺跡群 北平人形遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	北平遺跡群 北平古遺跡	墓塚址	縄文~平安
-3	北平遺跡群 北平古遺跡	墓塚址	縄文~平安
37	金沢山崎遺跡	古墳	古墳
38	村上北遺跡	住居跡	縄文
39	野の遺跡	古墳	古墳
40	野の遺跡	古墳	古墳
41	北日本塚古墳群	古墳	古墳
-1	北日本塚古墳群 古墳	古墳	古墳
-2	北日本塚古墳群 古墳	古墳	古墳
42	東野遺跡	古墳	古墳
43	東野遺跡	古墳	古墳
44	東野遺跡	古墳	古墳
-1	東野遺跡群 出雲支那1号墳	古墳	古墳
-2	東野遺跡群 出雲支那2号墳	古墳	古墳
-3	東野遺跡群 出雲支那3号墳	古墳	古墳
-4	東野遺跡群 出雲支那4号墳	古墳	古墳
-5	東野遺跡群 出雲支那5号墳	古墳	古墳
-6	東野遺跡群 出雲支那6号墳	古墳	古墳
-7	東野遺跡群 出雲支那7号墳	古墳	古墳
46	東野遺跡	古墳	古墳
47	東野遺跡	古墳	古墳
-1	東野遺跡群 小野沢支那1号墳(御所村古墳)	古墳	古墳
-2	東野遺跡群 小野沢支那2号墳	古墳	古墳
-3	東野遺跡群 小野沢支那3号墳(ヤック古墳)	古墳	古墳
-4	東野遺跡群 小野沢支那4号墳	古墳	古墳
48	東野遺跡	古墳	古墳
49	東野遺跡	古墳	古墳
50	東野遺跡	古墳	古墳
51	東野遺跡	古墳	古墳
52	東野遺跡	古墳	古墳
53	東野遺跡	古墳	古墳
54	山崎古墳群	古墳	古墳
55	野川古墳群	古墳	古墳
56	野川古墳群	古墳	古墳
57	野川古墳群	古墳	古墳
58	野川古墳群	古墳	古墳
59	野川古墳群	古墳	古墳
60	野川古墳群	古墳	古墳
61	野川古墳群	古墳	古墳
62	野川古墳群	古墳	古墳
63	野川古墳群	古墳	古墳
64	野川古墳群	古墳	古墳
65	野川古墳群	古墳	古墳
66	野川古墳群	古墳	古墳
67	野川古墳群	古墳	古墳
68	野川古墳群	古墳	古墳
69	野川古墳群	古墳	古墳
70	野川古墳群(住野古墳)	古墳	古墳
71	野川古墳群	古墳	古墳
72	野川古墳群	古墳	古墳
73	野川古墳群	古墳	古墳
74	野川古墳群	古墳	古墳
75	野川古墳群	古墳	古墳
76	野川古墳群	古墳	古墳
77	野川古墳群	古墳	古墳
78	野川古墳群	古墳	古墳
79	野川古墳群	古墳	古墳
80	野川古墳群	古墳	古墳
81	野川古墳群	古墳	古墳
82	野川古墳群	古墳	古墳
83	野川古墳群	古墳	古墳
-1	野川古墳群 野川支那1号墳	古墳	古墳
-2	野川古墳群 野川支那2号墳	古墳	古墳
-3	野川古墳群 野川支那3号墳	古墳	古墳
84	野川古墳群	古墳	古墳
85	野川古墳群	古墳	古墳
86	野川古墳群	古墳	古墳
87	野川古墳群	古墳	古墳
88	野川古墳群	古墳	古墳
89	野川古墳群	古墳	古墳
90	野川古墳群	古墳	古墳

第三章 調査の概要

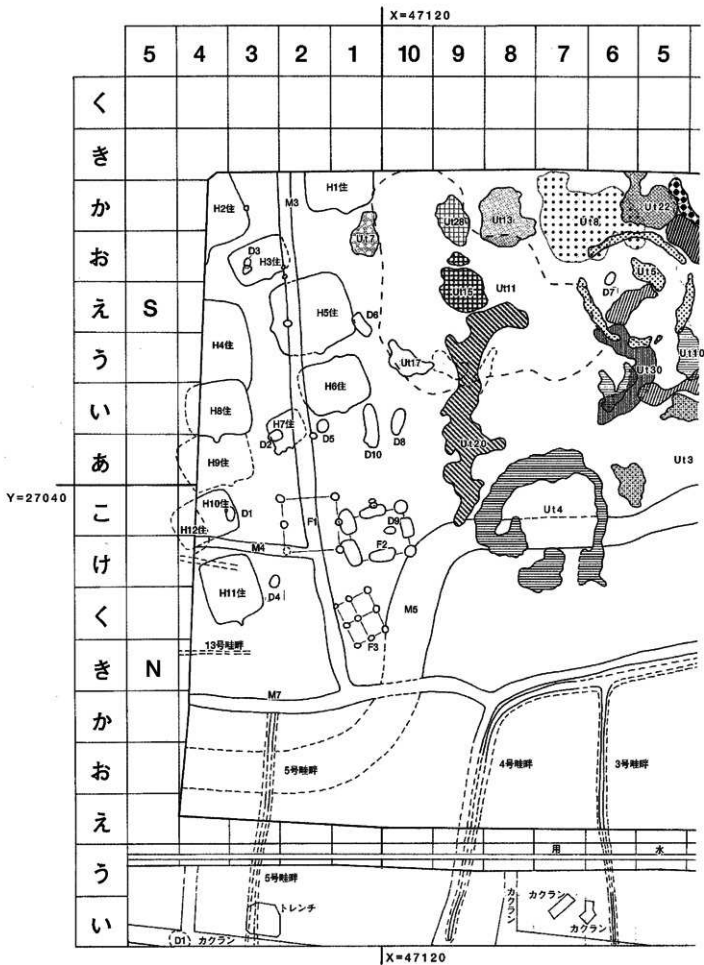
第1節 調査の方法

本遺跡の調査では、調査区の遺構・遺物の正確な位置を記録でき、なお、将来的に周辺に所在する遺跡の発掘調査での遺構・遺物の調査にも整合できるように、国系国家座標（測量法改正以前であったため）の座標軸を基にグリッドを組んだ。

グリッドについては、先ず200m×200mの大グリッドを設け区画を行い、その中を40m×40mに25等分した中グリッドを設定（第3図）し、北東端より「A・B・C…Y」区とアルファベットの大文字で命名した。G・H・I・L・M・N・Q・R・S区が本調査区内では中グリッドに相当する。また、その中グリッドを4m×4mの小グリッドで100区画に分割し、南北列を北から算用数字で「1・2・3…10」、東西列を東から五十音順で「あ・い・う…こ」と呼称することとした。その中の北東交点を「あ1グリッド」というように命名し、調査に係るグリッドは例えば「Rあ1グリッド」と呼称し、遺物の取り上げや遺構図の作成の基準とした。また、発掘調査における遺構の実測は、基本的に1/20を基準として簡易遣り方実測、コーデックシステム、航空写真測量による実測を行った。



第3図 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ発掘調査区及びグリッド設定図（1：2,500）



第4図 青木下道跡Ⅱ・Ⅲ遺構配置図(中心部分)(1:300)

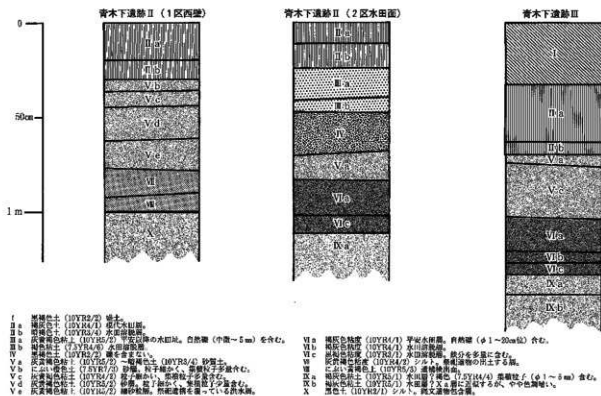
X=47160



Y=27040

X=47160

第2節 基本層序



第5図 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ基本層序模式図

青木下遺跡Ⅱ・Ⅲの調査区内は調査直前まで水田が営まれていた事によって、水田による堆積土が見られた。調査区内では大きく分けて2通りの上層の土層の堆積状況が看取された。(第5図柱状図参照)

調査区1区の中央及び西側では、現代の水田層とその溶脱層である第Ⅱ・Ⅲ層、その下には砂層の第Ⅴ層が堆積していた。第Ⅴ層はa.b.c.d.eと更に細分できたが、基本的には色調で細分した結果であって、千曲川による一過性の氾濫堆積砂層と考えられる。本砂層は千曲川流域に普遍的に見られる仁和4年(888)の大洪水の際の砂層が上層に堆積し、出土遺物から古墳時代後期以降の氾濫堆積砂層が下層に存在しているものと考えられるが、明確な時間的な細分が不可能であった。古墳時代の祭祀に使用された遺物は第Ⅴd層中及び第Ⅴe層中から検出される事より、本土層は土器集積址の覆土となる。第Ⅶ層も土器集積址の検出面にあたるシルト層で、地表から深さ約80cm下面である。住居址等の遺構の掘り込み面とも考えられるが、本層中では検出は不可能であった。第Ⅶ層は古墳時代の住居址の検出面で、にぶい黄褐色を呈する粘質土である。第Ⅸ層は縄文時代の遺物を含む包含層であるが、今回の発掘調査では調査期間との関係、建設が本層序にまで及ばないという名目で、長野県教育委員会の指導によって本層中の調査を実施しなかった。

1区の東側及び2区においては、現代水田層の下に第Ⅲ層の水田層が検出され、その下には1区中央及び西側同様に第Ⅴa・Ⅴe層の千曲川の氾濫氾濫砂層下には水田址が検出され、少量の出土遺物から平安時代の水田址と考えられた。更にその下面からも粘土層が検出され、時期は判明しないが水田が営まれていた事が判明している。

第3節 検出された遺構・遺物

青木下遺跡Ⅱの調査区内において検出された遺構・遺物は下記のとおりである。

遺構)

古墳時代前期?	溝	1条
古墳時代後期	竪穴住居址	12棟
	土器集積址(祭祀遺構)	21基
	掘立柱建物址	4基
平安時代	水田址	9区画
	畦畔	13基
時期不明	土坑址	12基
	ビット	232基
	特殊遺構	7基

遺物)

縄文時代	土器、石器
弥生時代	土器
古墳時代	土器(土師器、須恵器)、石製模造品、金属製品(耳環、鏡、鉄鎌、鉄鏃、刀子、直刀、鉄製鏃先等)

青木下遺跡Ⅲの調査区内において検出された遺構・遺物は下記のとおりである。

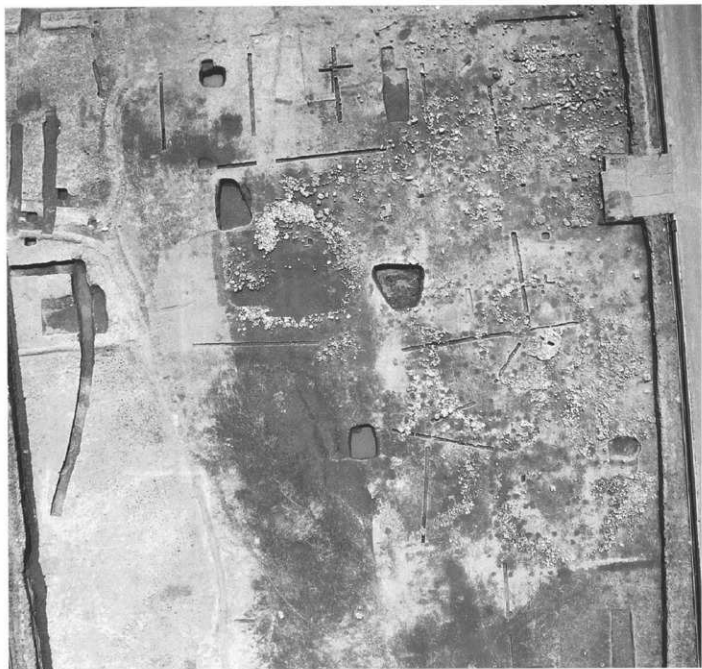
遺構)

古墳時代前期?	溝	4条	(青木下遺跡Ⅱ検出同一遺構1条)
古墳時代後期	掘立柱建物址	1棟	
平安時代	水田址	3区画	
時期不明	土坑址	1基	
	ビット	4基	

遺物)

縄文時代	土器、石器
弥生時代	土器
古墳時代	土器(土師器、須恵器)

第IV章 青木下遺跡Ⅱの調査の結果



I区 土器集積址空撮写真

第1節 土器集積址

本調査区内では21基の上器集積址が検出された。土器集積址は調査区の1区の中央付近から南側にかけて検出され、集積の状況もいくつかのタイプが看取される。本集積址の所属時期は出土土器から6世紀初頭～7世紀前半に位置づけられる。集積の平面形態も弧状や環状をなすもの、小さなブロック状をなすものなどといった状況が見てとれる。このタイプ分けされた土器集積址は、祭祀遺物とされる石製模造品や手掘土器、鉄製品等が集積された土器に伴って出土することから祭祀遺構であると判断した。

土器集積址の出土位置及び平面形態については、出土遺物からおよその傾向が看取された。調査区の中央付近から西側には環状や弧状の形態をなす土器集積址、その南側にはいくつかのブロック状の土器集積址が点在していた。詳細は第VI章に譲ることとし、以下にその各集積址の状況を述べる。

Ut1号土器集積址は1区の中央付近のRう3、Rえ3・4・5、Rお3・4・5、Rか4・5グリッドにて検出され、Vd層の砂層中からの出土で、その出土のあり方は、多くの他の土器集積址と異なり、砂層の堆積土層中に混入して多くの遺物が集中して検出された。分布の範囲は不整形を呈していた。この不整形な砂層中から出土した集積址をUt1号土器集積址とした。本集積址は、後述するUt5号土器集積址やUt9号土器集積址より上位の土層中から検出されたことから、それらとの新旧関係が確認でき、Ut5号土器集積址より新しい時期に埋没したものと考えられる。また、他の上器集積址と異なり出土遺物は完形遺物が多いといった状況ではなく、破片や欠損の度合いの多い土器が出土している。出土土器の多くは土師器類が多く、須恵器では甕類や横瓶が多いといった傾向があり、出土遺物の中に高台付の須恵器環形土器など古墳時代後期の所産ではなく、奈良時代に所属すると思われるものの出土も認められ、それらの遺物が本址の帰属時期を示していると思われる。土器の接合関係では、周辺の遺物だけが接合するといった状況ではなく、少し離れた地点から出土した土器も接合するものが多い。

Ut2号土器集積址は1区中央や北寄りのRあ2・3、Rい2、Rう2・3グリッドのVII層上面にて検出され、形態的には弧状を呈している。本集積址が最北東端に検出された集積址である。本集積址の形態はUt1号土器集積址と異なり、多くの土器が不整形に分布した状況ではなく、弧状に土器が配列され、後にその土器が倒れたような状況で検出された。出土土器では、土師器が主体を占め、須恵器環蓋、環形土器、甕、短頸壺などがあるが、量的に多くはない。しかしながら、須恵器が土師器類に混じってある程度の間隔で置かれた状態とも思われる出土状況である。本土器集積址には重複関係はないものと思われる。接合関係を見ると周辺だけではなく、少し離れた地点での接合関係が認められる。

Ut3号土器集積址は1区中央付近のRあ4、Rあ5、Rあ6、Rい4、Rい5、Mこ5・6グリッドのVII層上面にて検出され、中央部が比較的遺物量が少ない状況ではあるが、弧状を呈するものと思われる。本土器集積址は南西部に遺物の未検出の間帯を有するが本来は遺物が存在していたか、あるいは弧状が向き合うような状況を想定したい。遺物の出土状況は、Ut2号土器集積址と同様にVII層上面から検出され、配列されたものが倒れた状況ではないかと思われる。出土土器には土師器の壺が多く、坏や鉢などの出土がある。須恵器は環蓋、環形土器、提瓶の3点のみの出土である。

Ut4号土器集積址は1区の中央南東側のRあ6・7・8、Mく7、Mけ6・8・9、Mこ8・9グリッドのVII層上面にて検出され、本集積址は今回の発掘調査にて検出された土器集積址群の最東部にあたる。平面形態は馬蹄形状を呈し、南東部には多くの土器が幾重にも集積しており、配置された土器を纏めて廃棄した結果できたのではないかと想定した。もしかすると向かい合う弧状配列されたものが、北側及び南側の両

東端で土器が多く集積し、結果として馬蹄形を呈して見ただけで、本来は弧状を呈していた可能性も否定できない。本土器集積址からは、多くの完形土器が見られ土師器が大多数を占めるが、須恵器の環蓋、環形土器、短頸壺、甕形土器、提瓶なども出土している。土師器では環形土器の出土が圧倒的に多く、入子状を呈していたものも多かった。

Ut5号土器集積址は1区中央西側のRう5・6、Rえ5・6・7、Rお5・6・7グリッドのVII層上面にて検出され、環状に土器が配列された状況であった。大半の土器が正位で出土し、土師器の環形土器がその主体を占めていた。環形土器は内面黒色処理されるものが多くを占め、環蓋も逆位に置かれ環として使用されていたことがその出土状況から推察できた。中央やや北東側のV層以下から須恵器の大甕の破片が集中して検出され、環状に遺物が検出された部分と大甕が出土した地点にレベル差が見られ、大甕の出土地点がレベル的に高いといった比高差が認められたが、中央部分がマウンド状に盛り上っていたか、甕を据えるために土によって固定した結果レベル差ができたのではないかと考えたい。但し、本大甕は底部が非常に歪んでおり、土器の焼成前に歪んだものと思われる。このことから実際に使用したものとしては疑問が残り、仮器として使用されたものと考えた方がよいと思われる。また、本土器集積址は環状に隙間なく配列されているのではなく、4箇所遺物が配列されない空間を有し、弧状が4箇所集合して環状を形成しているということが見て取れる。弧状を形成する4箇所の弧状の土器配列を見ると、土師器の環形土器が多くを占め、その中に壺形土器、短頸壺、須恵器甕形土器等が数個含まれるというように土師器環形土器と須恵器の壺類等によるセット関係があるように見て取れる。更に多くの白玉が土器集積址中から出土し、土師器の環形土器の内面からも白玉の出土が認められた。土器以外では鉄製の鋤先の出土も見られた。Ut1・8号土器集積址の下部、Ut12号土器集積址の上部から検出されたことより、Ut1号土器集積址より古く、Ut12号土器集積址より新しいことが判明し、土器の様相からも本遺跡内での最終段階の祭祀行為が行われた結果と考えられる。

Ut6号土器集積址は1区の中央北西部のRう1・2、Rえ1・2・3、Rお1・2・3、Rか1・2・3グリッドのVII層から検出され、本土器集積址が祭祀域の最北端部に位置する。環状に近い形状を呈し北側に完形に近い土器が検出された。西側と東側とに分割することも可能で、西側に土師器の環形土器が多く、東側に土師器の壺形土器が多いといった傾向が看取される。土師器環は内面黒色処理されるものとされないものが混在している。東側の弧状部分の北西端及び西側弧状部分の南側に白玉が集中して出土した。

Ut7号土器集積址は1区集積址の最南端のSお1、Sか1グリッドのVII層上面から検出され、すぐ東側にはH1号住居址が位置している。東側に平坦な川原石が多く検出され、その西側に石製模造品の剣形品や有孔円板、手型土器と共に土師器の環形土器、高環形土器などが出土した。須恵器は少なく土師器が大部分を占め、出土土器の様相から他の土器集積址と比較して古い様相を示している。平面形態は不整形を呈し土器が配列されたといった状況ではなく、纏められた状態を呈している。

Ut8号土器集積址は1区の中央西側のRお5・6・7、Rか5・6・7、Rき7グリッドのV層以下から検出され、Ut5号土器集積址の上部に位置する不整形の土器集積址である。遺物の検出状況からは土器が配列された状況とはいえず、なお多くの土器が纏まっている状況ではなく、遺物量も多いといった状況ではない。本土器集積址はUt1号土器集積址の一部とも考えられたが、Ut1号土器集積址とは範囲が多少離れていることより本土器集積址名を命名した。

Ut9号土器集積址は1区西側調査区の中央付近のRか4・5・6、Rき3・5グリッドのVII層以下から検出され、一部は調査区外に続いているものと思われるので、形態が弧状になるのか環状を呈するのか不明

な状態である。土器は配列された状態で出土し、壺類は正位に置かれたものと思われ、土師器の壺形土器、甕形土器、環形土器等に加え、須恵器の環形土器、高環形土器等が出土している。

Ut10号土器集積址は調査区の中央付近のRい6、Rう4・5・6、Rえ4・5グリッドのV層以下から検出され、不整形を呈している。土器が配列された状態ではなく、土器が纏まって出土したことより、Ut1号土器集積址、Ut8号土器集積址同様に遺構名を命名した。

Ut11号土器集積址は1区調査区中央南西側のRい10、Rう6・7・8・9・10、Rえ6・7・8・9・10、Rお7・8・9・10、Rか9・10、Rき10、Sお1、Sか1、Sき1グリッドのVI層中から出土し、その出土範囲は広範囲に及び平面形状は不整形を呈する土器集積址である。本土器集積址は土器が多く集中するUt15号土器集積址、Ut17号土器集積址、Ut20号土器集積址、Ut28号土器集積址をも含有する広い範囲の集積址とも考えられるが、敢えてUt15号土器集積址、Ut17号土器集積址、Ut20号土器集積址、Ut28号土器集積址が纏まりを有するため、本土器集積址から除外した。本土器集積址中には川原石が散在し、土器以外に耳環が3個出土していることが注意されなくてはならない。

Ut12号土器集積址は1区調査区中央付近のRい4・5・6、Rう4・5、Rえ4・5・6グリッドのVII層以下に所在し、Ut5号土器集積址の下部より検出された環状に近い形態を呈する集積址である。遺物の状況はUt5号土器集積址の下部では破片遺物が多く、重複しない北東側では土器が配列されていたものが、倒れた状況での出土と思われる。

Ut13号土器集積址は1区調査区中央南側のRお8・9、Rか8・9グリッドのVII層にて検出され、Ut11号土器集積址の範囲内に当たるが、多くの土器が楕円形でブロック状に集積した状態で検出されたため、遺構名を命名した。出土遺物では土師器が主体を占め、手捏土器の出土が多く、甕の出土も認められている。須恵器では高環形土器や甕が出土している。

Ut15号土器集積址は1区調査区中央南東側のUt11号土器集積址の範囲内にて検出され、Rお8・9、Rか8・9グリッドのVII層中から検出され、多くの土器がブロック状に纏まりをもっていたことから、別遺構として捉えた結果、本遺構名を命名した。東西に2つのブロックが並び、西側をA区、東側をB区とした。平面形態は楕円形を呈する。須恵器では坏蓋、環形土器に加え高環形土器、提瓶、横瓶も出土している。土師器では環形土器、高環形土器、甕、壺形土器、手捏土器、銅製品などの出土がある。

Ut17号土器集積址は1区中央南側のRい9、Rう8・9・10グリッドのVII層中から検出され、不整形を呈している。Ut11号土器集積址と範囲が重複するが、その範囲内にて集中した纏まりと判断し、別に遺構名を命名した。本土器集積址は3箇所に分けられ、A区、B区、C区と分割したが個々の土器集積址として細分することも可能であったかもしれない。検出位置はH5号住居址及びH6号住居址の北側に所在し、本集積址が土器集積址の検出最南端部に当たる。出土土器には須恵器が非常に少なく甕と提瓶が出土している以外はすべて土師器である。土師器には環形土器、壺形土器、鉢形土器、甕形土器などがある。

Ut20号土器集積址は1区中央南側のRあ8・9、Rい9、Rう8・9、Rえ8・9、Mこ9グリッドのVII層中から検出され、東西に長く、不整形を呈している。本土器集積址はUt4号土器集積址の南側、Ut11号土器集積址とUt17号土器集積址と分布範囲が重複する。

Ut21号土器集積址は1区中央西よりのRお3・4・5、Rか5グリッドのVII層中から検出され、Ut5号土器集積址、Ut6号土器集積址、Ut9号土器集積址に挟まれた状態での検出であった。Ut22号土器集積址とも重複する。平面形態は不整形を呈し、土器の出土状況も整然と配列された状況ではなく、須恵器環形土器、甕の他土師器では環形土器・高環形土器・壺形土器などが検出されている。

Ut22号土器集積址は1区中央西側のRか5・6、Rき5・6グリッドのⅦ層中から不整形で検出され、Ut9号土器集積址、Ut8号土器集積址、Ut21号土器集積址と分布範囲が重複している。Ut8号土器集積址の検出レベルより低く、Ut9号土器集積址とほぼ同レベルである。すべてが完形土器ではないが、須恵器壺蓋、高環形土器、横瓶、土師器環形土器、高環形土器、甕、壺形土器、手捏土器が出土している。

Ut28号土器集積址は1区中央南側のRか1・2、Rき3グリッドのⅦ層から出土し、Ut11号土器集積址と分布範囲が重複しているが、礫を伴い小範囲に多くの土器が集中していたことより別遺構として敢えて命名した。出土遺物は須恵器壺蓋、甕、土師器では環形土器、高環形土器、甕、壺形土器、甕形土器、瓶形土器、手捏土器も認められた。平面形態は楕円形を呈する。

Ut29号土器集積址は1区最北西端のRか1・2、Rき3グリッド、Ut6号土器集積址の西側のⅦ層からの出土で、調査区域外に伸びるため平面形態などは不明な部分が多い。遺物は土師器の環形土器、甕形土器、壺形土器、高環形土器等が検出されている。

Ut30号土器集積址はRい6、Rう5・6、Rえ6グリッドのⅦ層中から検出され、Ut5号土器集積址、Ut10号土器集積址、Ut12号土器集積址と重複する。Ut5号土器集積址より古いことは判明しているが、他の遺構との新旧関係は不明である。平面形態は弧状を呈するが、完形土器が配列されたといった状況ではなく、本土器集積址出土遺物は破片土器が多いといったことが看取できる。

第2節 竪穴住居址

本調査区内では古墳時代後期に所属する竪穴住居址が合計11棟検出されている。遺構の検出はⅦ層のにぶい黄褐色土にて行った。本調査区内に堆積するⅦ層は土器集積址が検出される土層であるが、住居址覆土と同様な色調を呈し、本土層中から住居址等が掘り込まれたことは十分考えられるわけではあるが、先述したとおりⅦ層が住居址覆土と同様な色調を呈する堆積土であったため、遺構の検出を容易に行うことができなかった。また、発掘調査期間も先述した祭祀遺構の検出によって大幅な遅れが出ており、早期に調査を終了させるといったことを余儀なくされていたため、住居址検出面を下げⅦ層にて遺構の検出を行った。

検出された竪穴住居址は本調査区1区の南東部に位置し、土器集積を伴う祭祀空間の南側、水田址の東側に所在する。言い換えると検出された住居址は土器集積址と水田址との重複関係は見受けられなかったということになる。

調査された住居址を見ていくと、比較的重複関係が少なく、住居が使用された時期も古墳時代後期の範疇に位置づけられることが出土土器から判明している。

H1号住居址はSか1・2、Sき1・2グリッドにて検出され、住居址の壁面の深さは27～36cmを測る。検出されたカマドは東壁中央に位置する。ピットは計6基検出されたが、住居址が西側の調査区域外に延びるため詳細は不明である。本住居址より3点の白玉が出土している。

H2号住居址はSお3・4、Sか3・4、Sき3・4グリッドにて検出され、住居址の深さは22～33cmを測る。検出されたカマドは住居址の東壁中央付近に位置すると思われるが、住居址が西及び南側の調査区域外に延びるため詳細は不明である。

H3号住居址はSえ3、Sお2・3グリッドにて検出され、住居址の深さは6～18cmを測る。住居址の主軸方位はN-112°-Eを指し、カマドは東壁中央付近にて検出されている。住居址の重複関係はD3号土坑址に床面の一部、M3号溝状遺構に北壁を破壊される。平面形態は隅丸長方形を呈するものと思われる。

H4号住居址はSい3・4、Sう3・4、Sえ3・4グリッドにて検出され、H8号住居址に東壁が破壊

されている。また、南側の調査区域外に延びるため、住居地の全容は判明していない。住居地の深さは17～20cmを測る。出土遺物の中に土製の紡錘車が出土している。

H5号住居地はSう1・2・3、Sえ1・2・3、Sお1・2グリッドにて検出され、D6号土坑地に北壁の一部、M3号溝状遺構に東西壁面と床面の一部を破壊されている。住居地の深さは12～27cmを測る。カマドは東壁中央付近及び南壁中央付近に検出され、南壁のカマドの残存度が良く、川原石を袖構築材として使用している。当初は東壁にあったものが何らかの理由により南壁面に移設されたものと思われる。本住居地の覆土中から1点の白玉の出土が見られた。

H6号住居地はSい1・2、Sう1・2グリッドにて検出され、M3号溝状遺構に南壁を破壊されている。住居地の深さは12～26cmを測る。カマドは東壁中央付近と西壁中央付近に検出され、西壁のカマドの残存度が良い状態であった。川原石を袖構築材に使用するカマドで、当初東壁面にあったものが、何らかの理由により西壁に移設されたものと思われる。出土遺物に須恵器の甕がある。

H7号住居地はSあ2・3、Sい2・3グリッドにて検出され、住居地北壁及び南壁の一部をD2号土坑地などに破壊されている。住居地の深さは11～19cmを測り、カマドは東壁中央付近に検出される小型の住居地である。

H8号住居地はSあ3・4、Sい3・4、Sう3・4グリッドにて検出され、調査区外に東西壁、南壁が延びるため詳細は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。本住居地はH4号住居地とH9号住居地の2棟を破壊している。住居地の深さは14～25cmを測る。カマドは住居地東壁中央付近から検出され、川原石を袖構築材として使用している。本住居地中央北寄りに川原石が覆土中から出土している。また、住居地中央付近に集中して白玉の出土があり、本住居地内だけで8個の白玉が出土している。住居地中央付近に川原石の出土が見られること、白玉の出土量の多さなどから、本住居地の埋没過程にて川原石及び白玉が投棄されたことが考えられる。本住居地の出土遺物には須恵器の環形土器が2点出土しており、底部にヘラ記号を有するものも1点認められる。土師器の出土量も多く、環形土器、鉢形土器、甕形土器の出土があり、甕形土器には長胴甕及び胴部に最大径を有する胴部球形の甕などバラエティに富んでいる。多くの白玉の出土から、本住居地は祭祀的な色彩の濃い住居地と考えられよう。

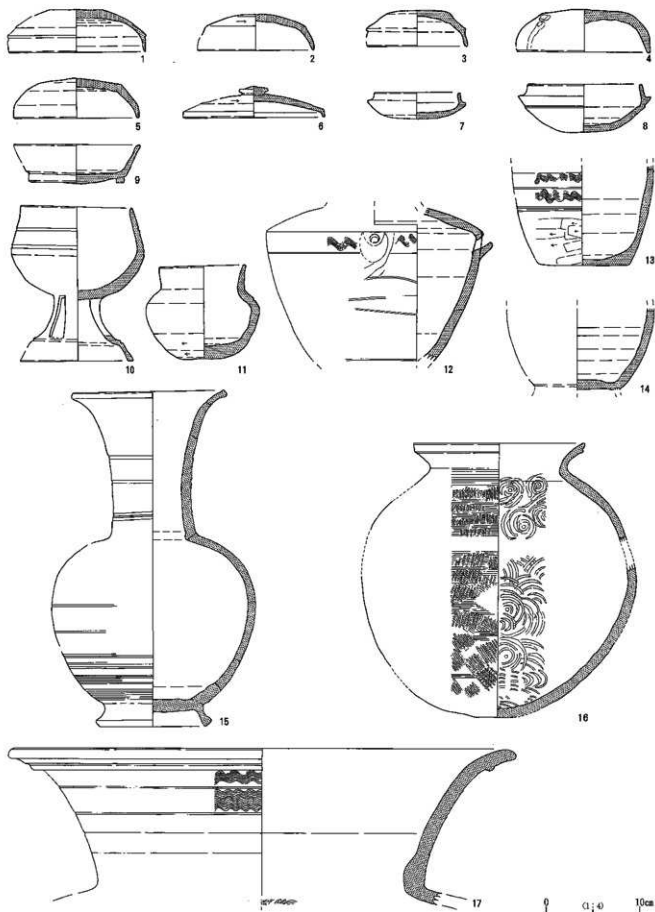
H9号住居地は住居地の床面以下の検出であるが、Sあ3・4、Sい3、Nこ3グリッドに所在するものと思われる。南側の調査区域外に住居地が延びるが調査が行えなかったため、詳細は不明な点が多いが、H8号住居地に破壊されている。住居地の深さは10～14cmを測る。カマドは住居地東壁方向に円形の焼土(火床面)が検出されたため、東壁に存在したものと思われる。

H10号住居地はNけ4、Nこ3・4グリッドにて検出され、H12号住居地を破壊し、M4号溝状遺構に東壁の一部を破壊される。住居地は南の調査区域外に延びるため詳細は不明であるが、平面形態は隅丸長方形を呈するものと思われる。住居地の深さは14～21cmを測る。カマドは住居地東壁面中央付近南寄りに位置すると思われ、川原石を構築材として使用していた。遺物には土師器環形土器、甕形土器以外に滑石製紡錘車の出土があった。

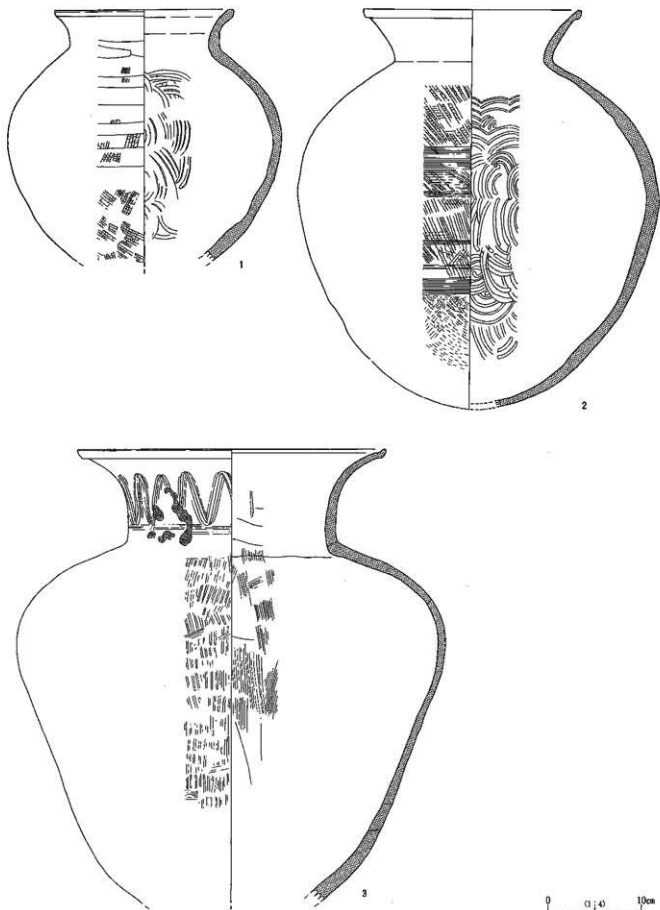
H11号住居地はNく3・4、Nけ3・4グリッドにて検出され、住居地の深さは13～35cmを測る。住居地の主軸方位はN-70°-Eを指し、東壁中央付近に川原石を袖部及び天井部構築材として使用したカマドが検出された。カマドの残りは非常に良好で土師器長胴甕160-10がカマドにかけられた状態で出土している。また、住居地中央やや西寄りに炭化材が出土し、住居地の構築材と見受けられる。本住居地からの出土遺物はバラエティに富み土師器の環形土器、甕形土器、甕形土器などの出土遺物が見られる。住居地の平面形態

は隅丸長方形を呈し、カマドに対する主軸に対し長い住居址である。

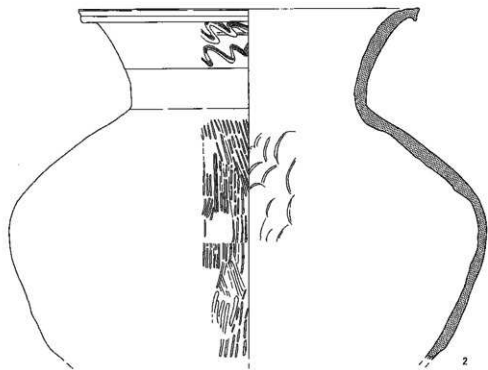
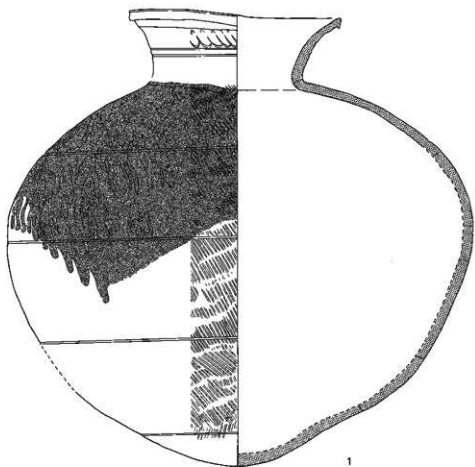
H12号住居址はNけ4、Nこ4グリッドにて検出され、住居址北壁をH10号住居址とM4号溝状遺構に破壊されている。本住居址は北東隅の一部のみの検出で、東壁、西壁、南壁は調査区域外に延びるため詳細は不明である。住居址の深さは6～50cmを測る。図化できる遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。



第7图 Ut 1号土器集積址出土土器実測図(1)

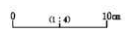
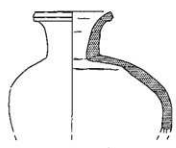
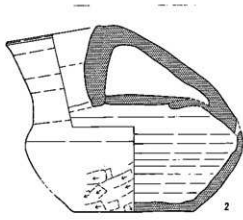
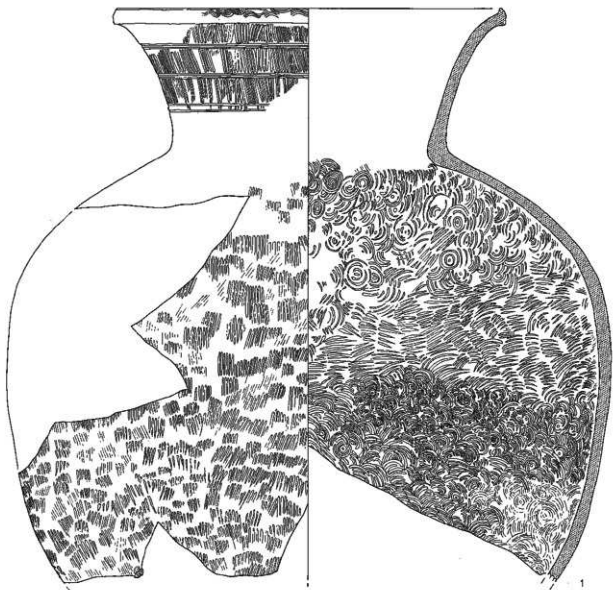


第8图 U_t1号土器集積址出土土器実測図〈2〉

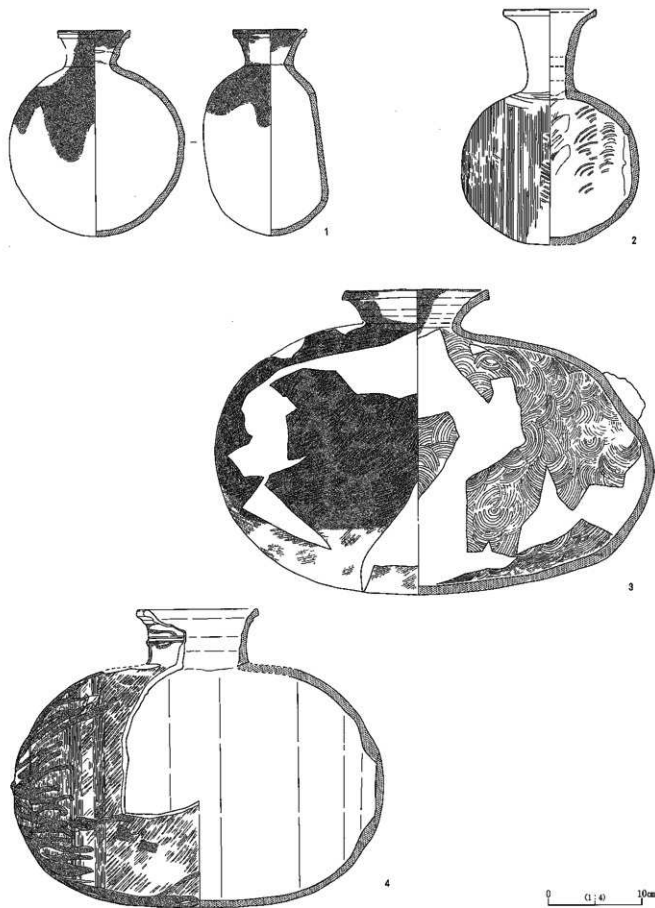


0 0.5 10cm

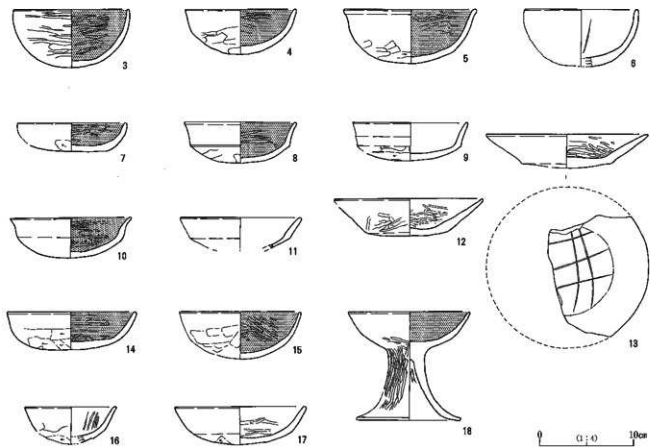
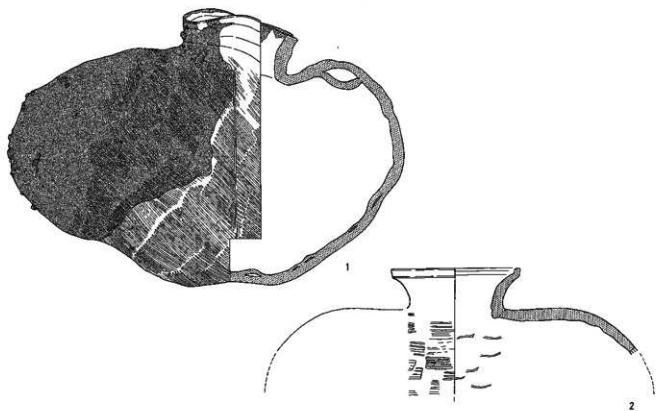
第9图 Ut1号土器集積址出土土器実測図(3)



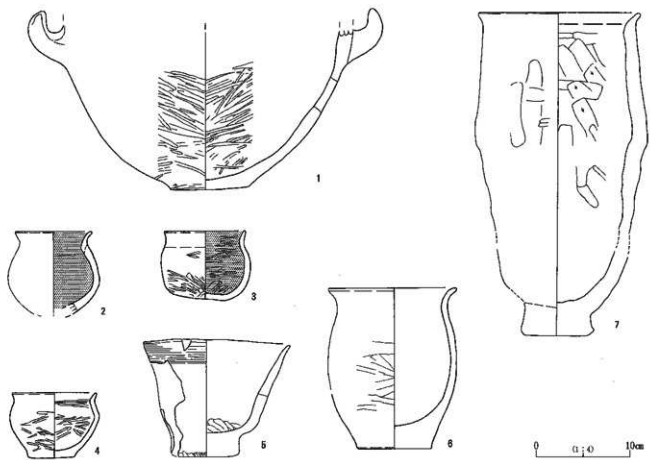
第10图 Ut1号土器集積址出土土器実測図(4)



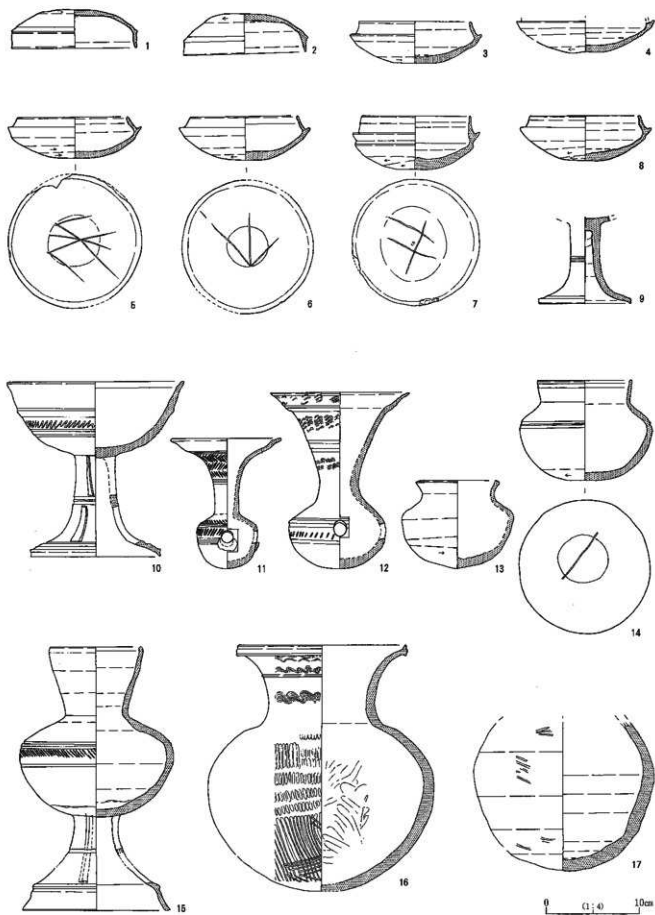
第11图 U_t1号土器集槽址出土土器实测图(5)



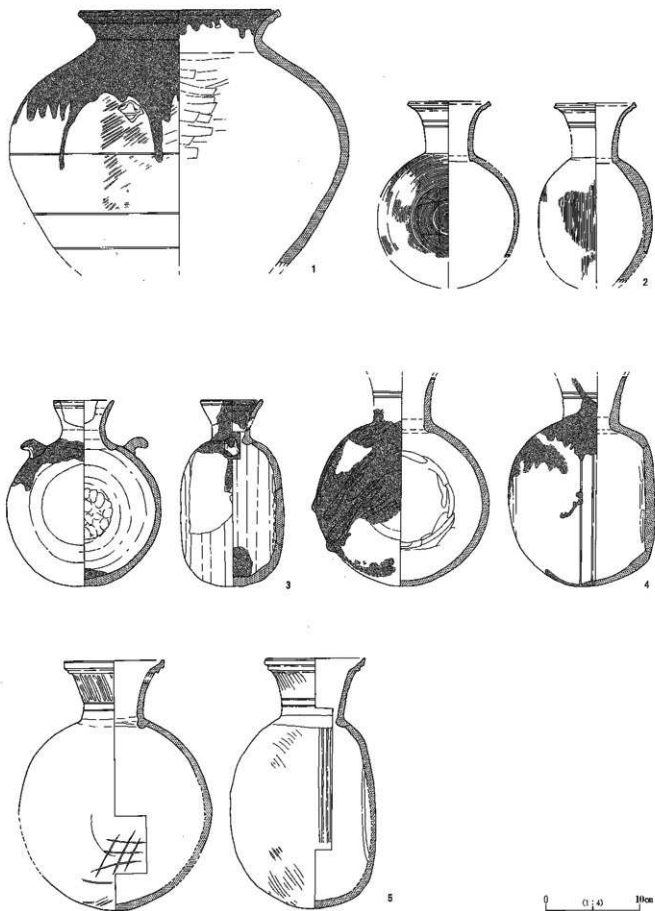
第12图 Ut1号土器集積址出土土器実測図(6)



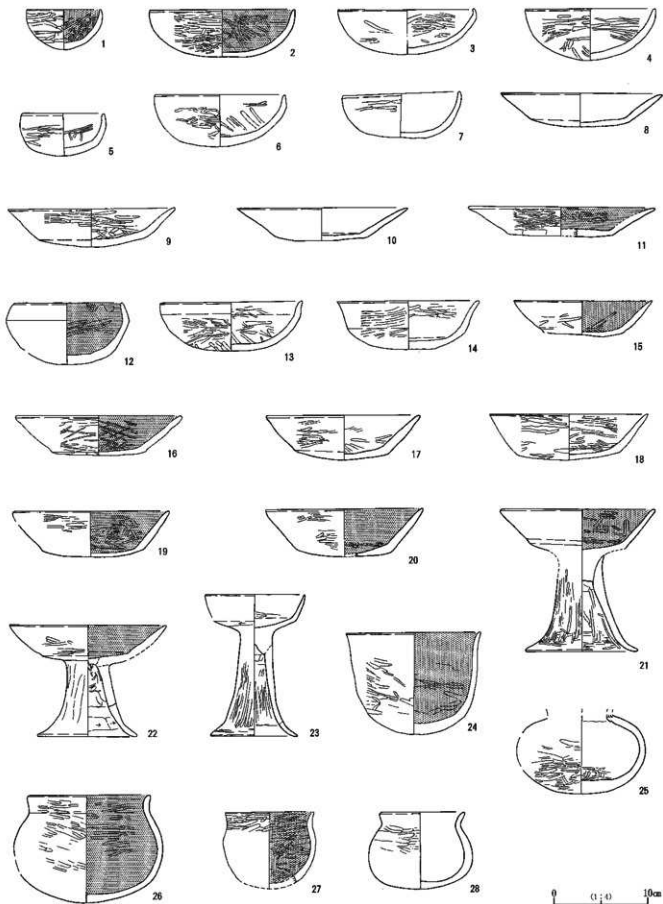
第13图 Ut1号土器集積址出土土器実測図〈7〉



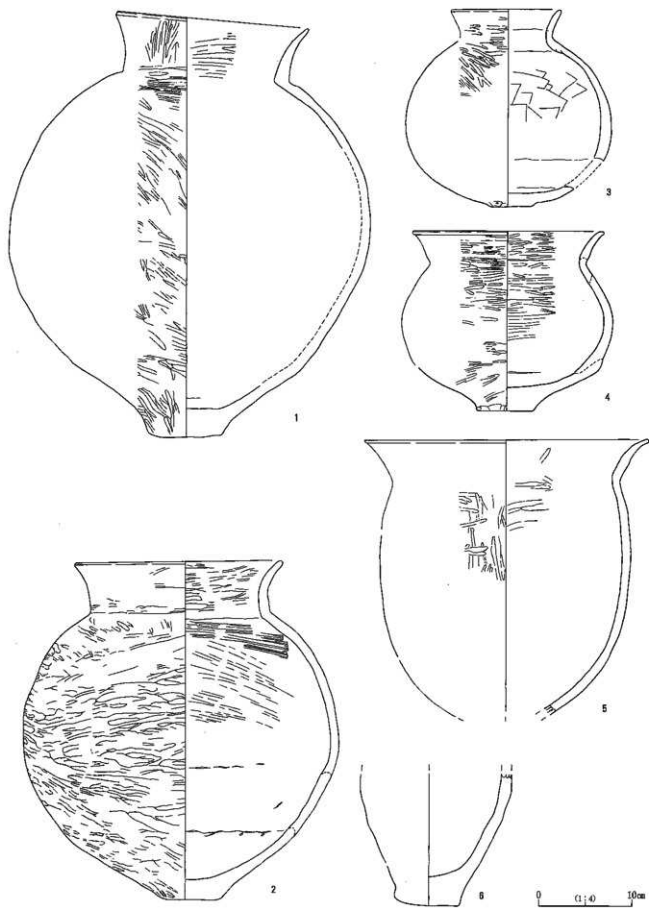
第15图 U_t 2号土器集積址出土土器实测图(1)



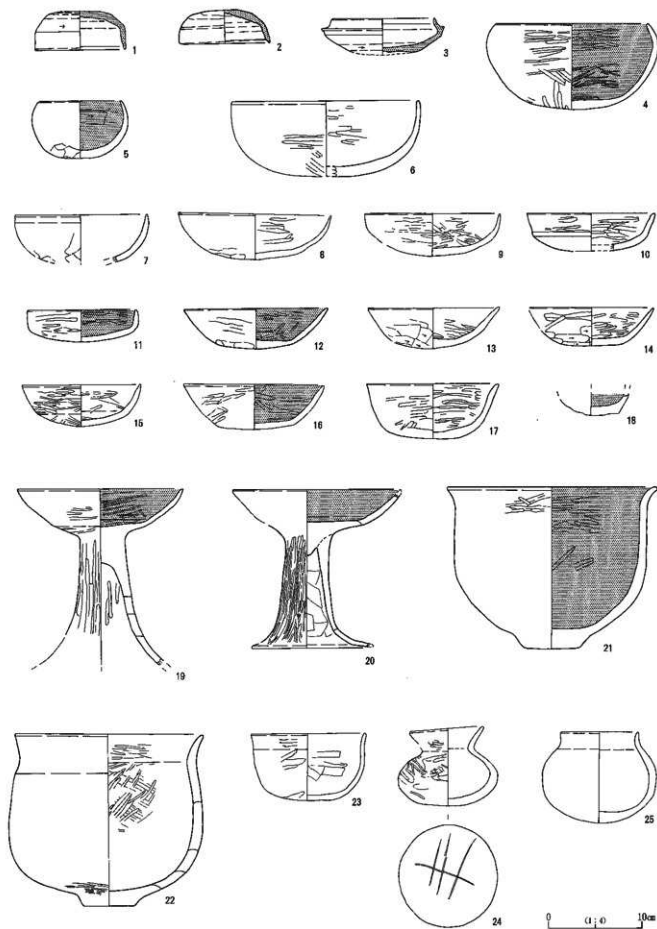
第16图 Ut 2号土器集積址出土土器実測图(2)



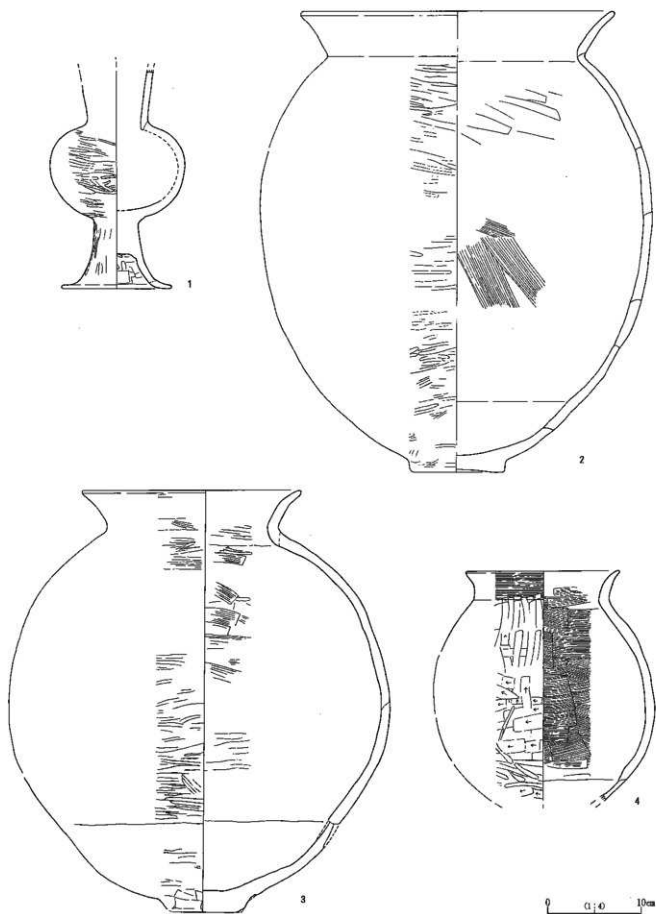
第17图 U_t2号土器集横址出土土器实测图(3)



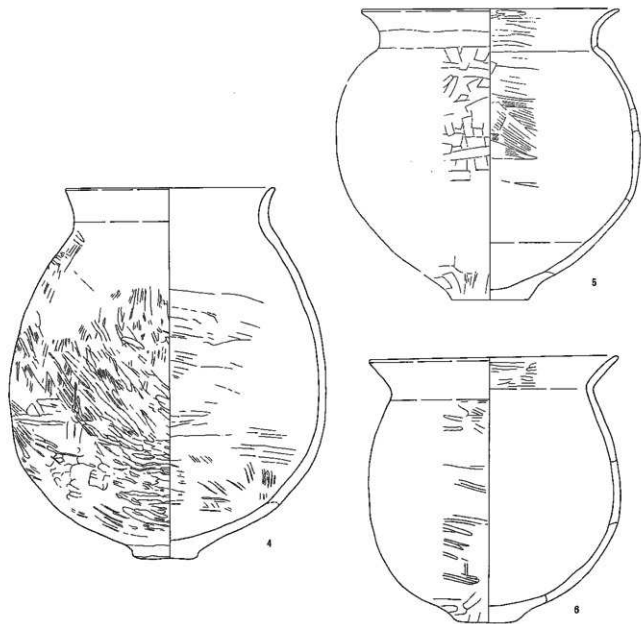
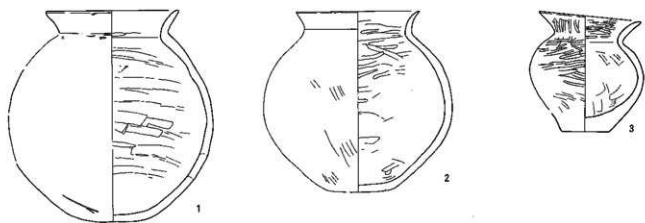
第18图 Ut 2号土器集横址出土土器实例图(4)



第20图 U_t3号土器集積址出土土器実測図(1)

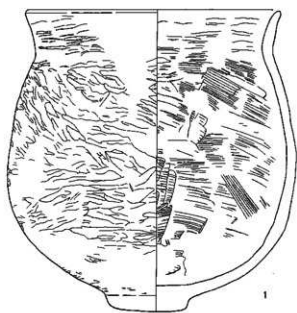


第21图 U_t 3号土器集横址出土土器实测图(2)

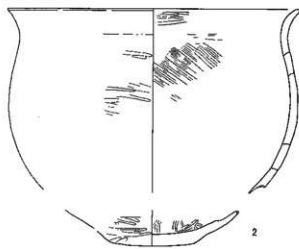


0 0:4 10cm

第22图 U:3号土釜集積址出土土釜実測図(3)



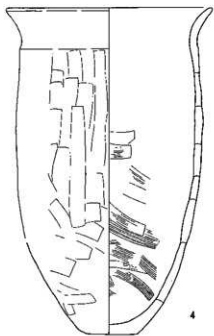
1



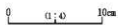
2



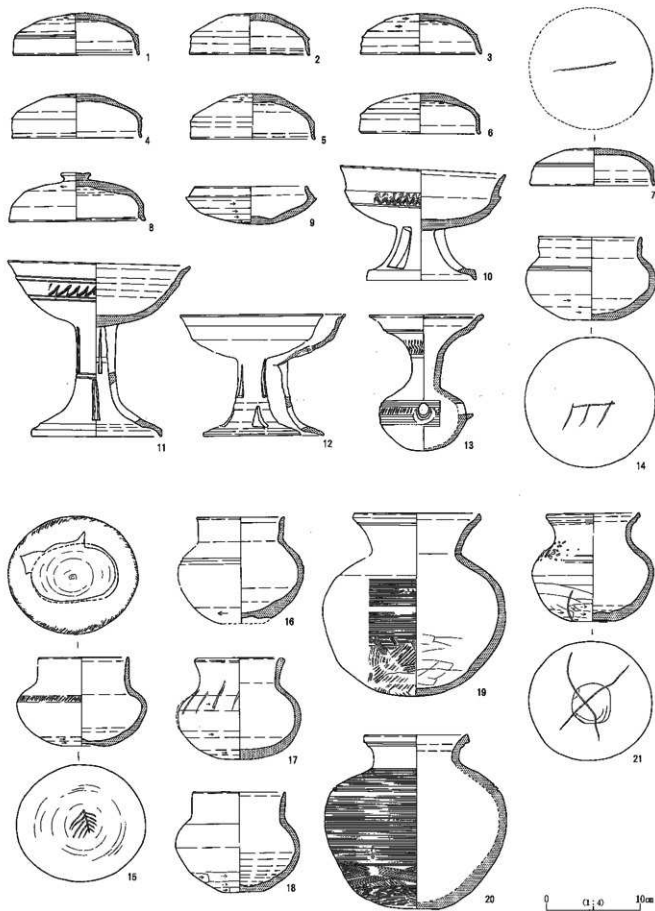
3



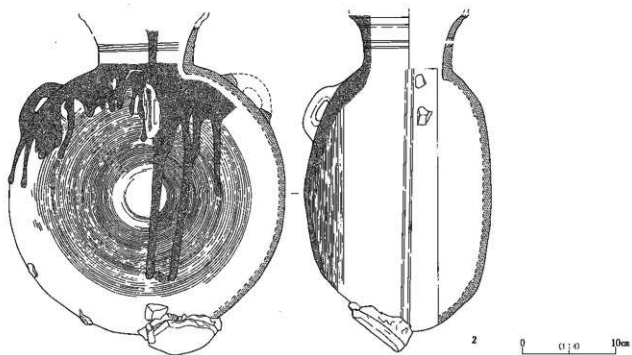
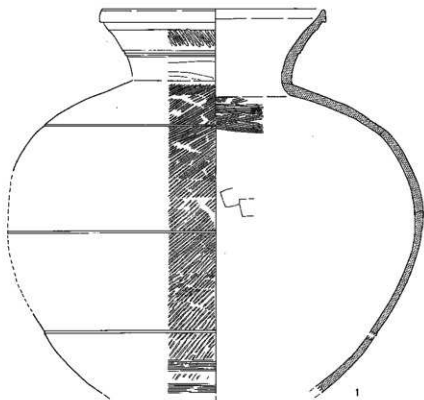
4



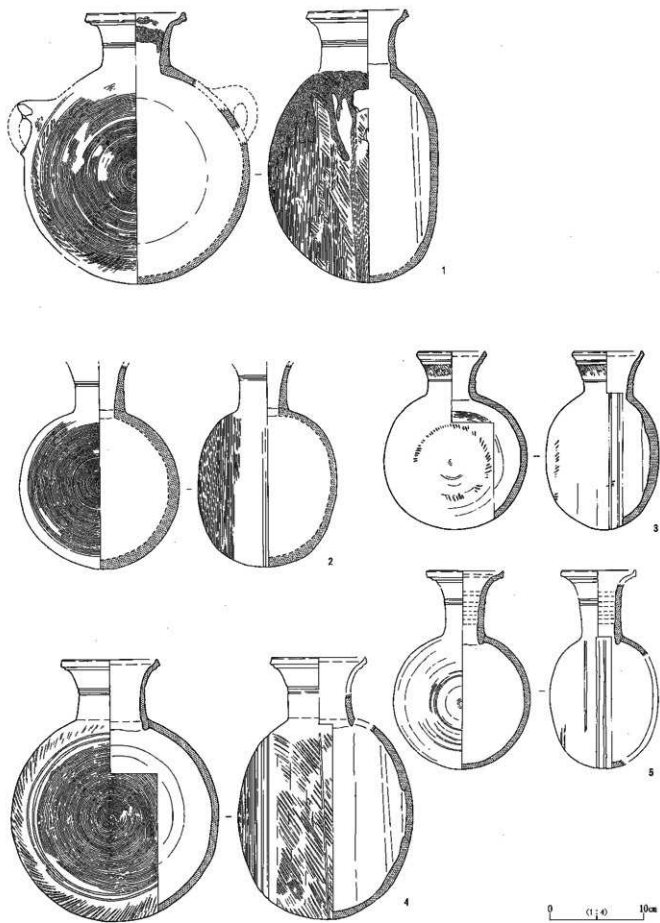
第23图 Ut 3号土器集横址出土土器实例图(4)



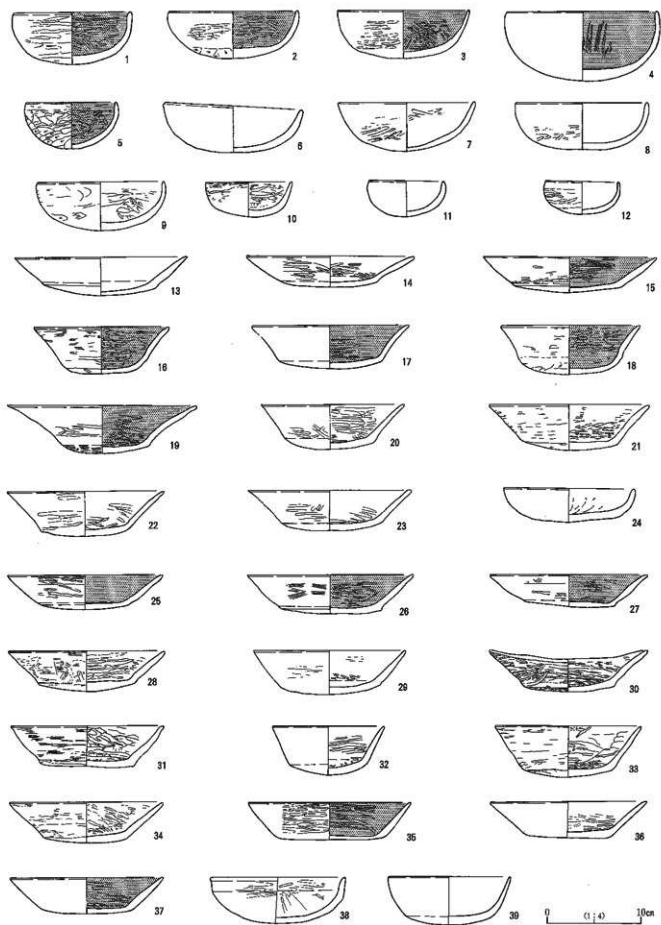
第25图 U:4号土器集横址出土土器实测图(1)



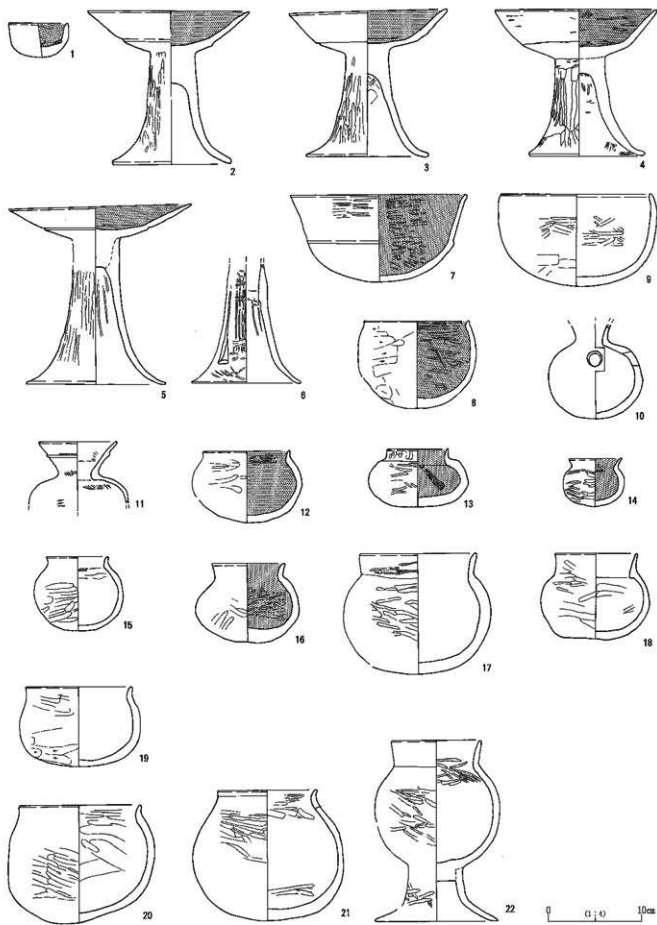
第26图 U_t4号土器集横址出土土器实例图(2)



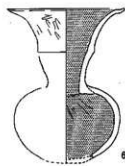
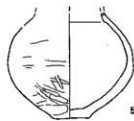
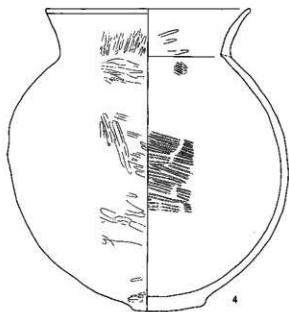
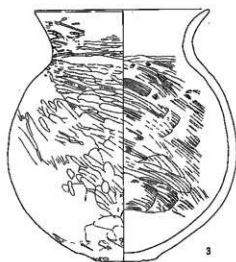
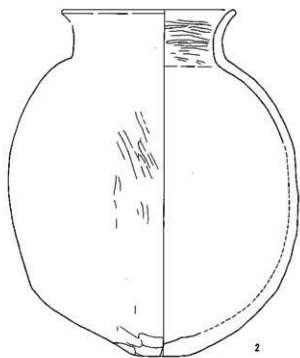
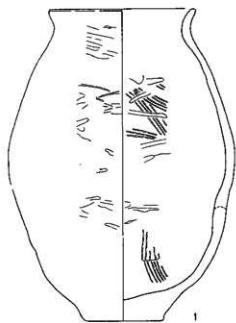
第27图 U_t4号土器集積址出土土器実測図(3)



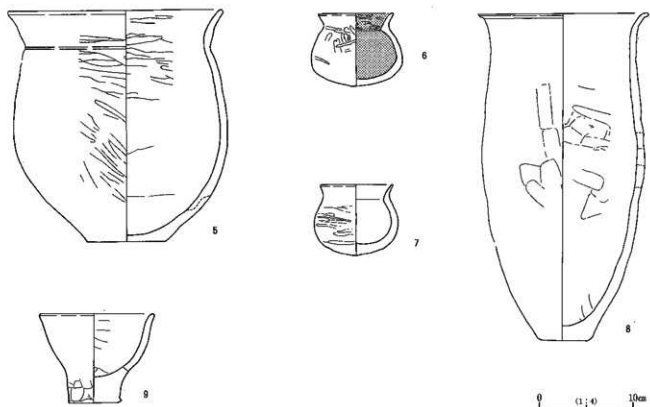
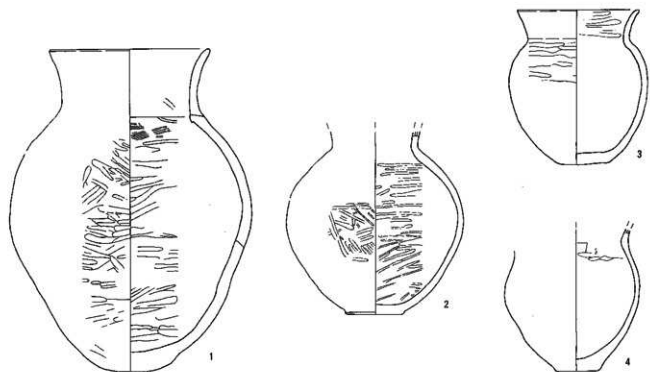
第28图 U4号土器集墳址出土土器実測图(4)



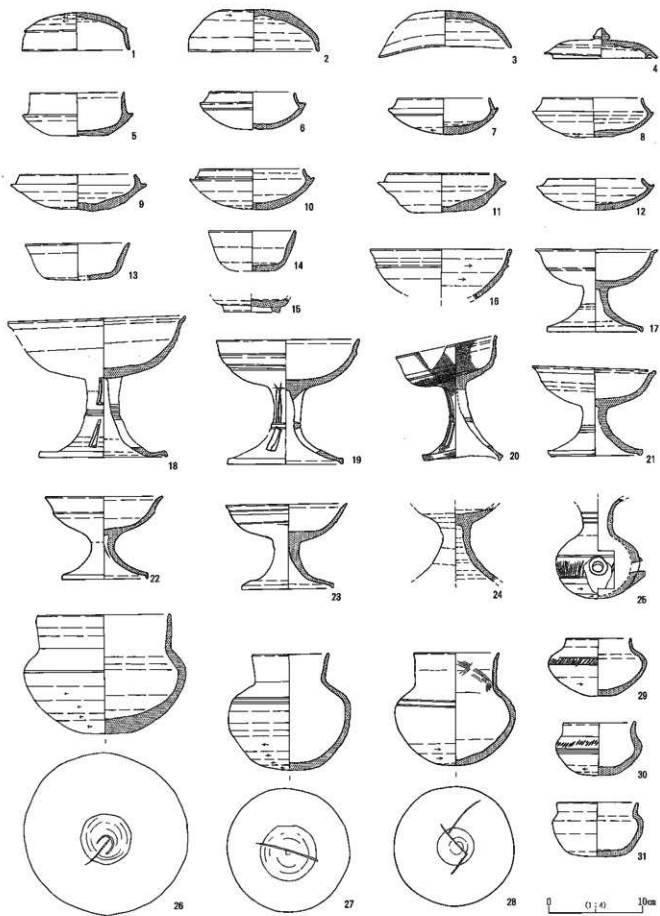
第29图 U4号土器集葬址出土土器实测图(5)



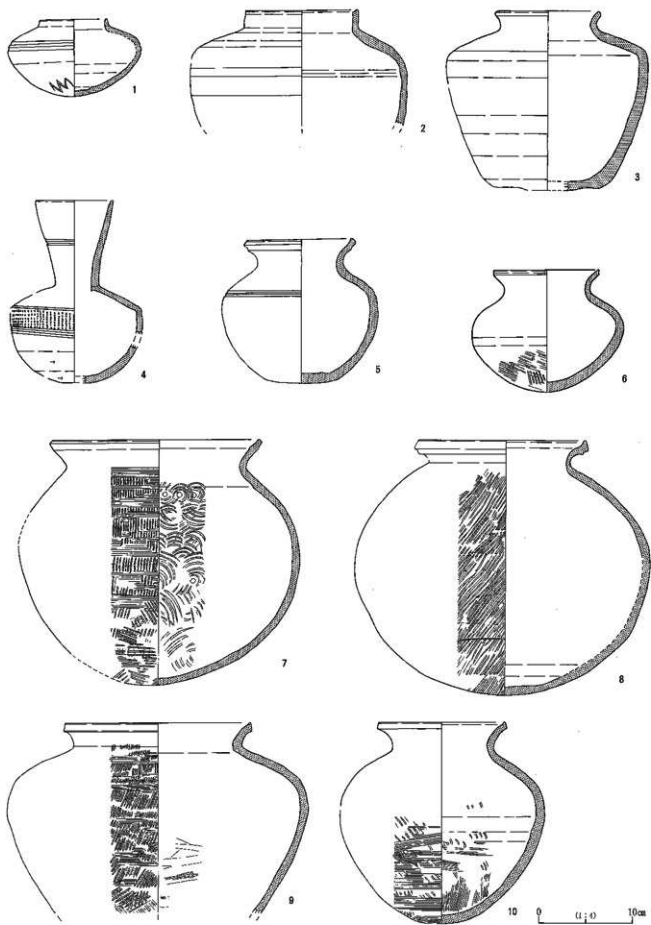
第30图 U:4号土器集積址出土土器実測図〈6〉



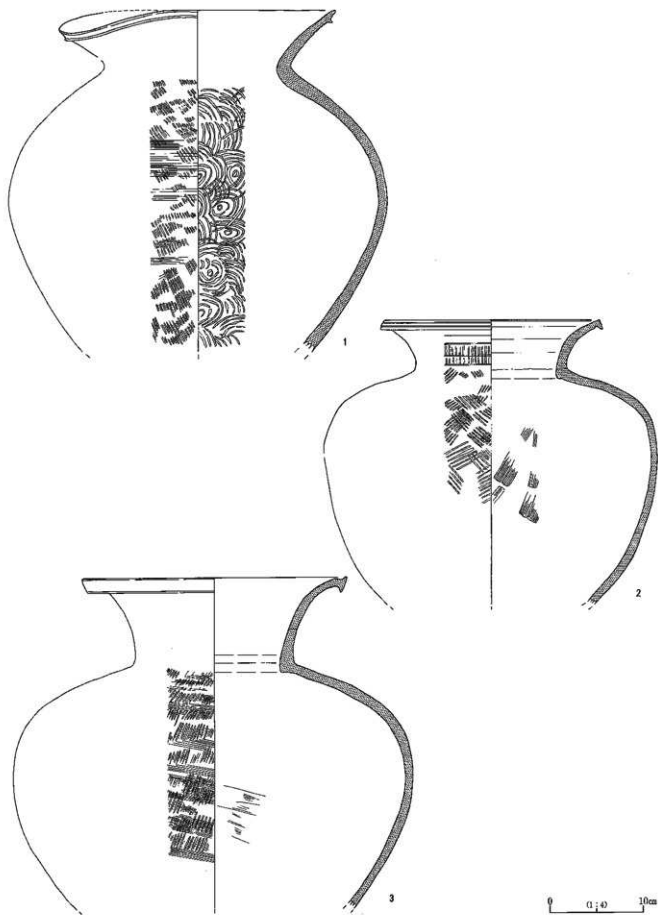
第31图 Ut 4号土器集墳址出土土器実測图(7)



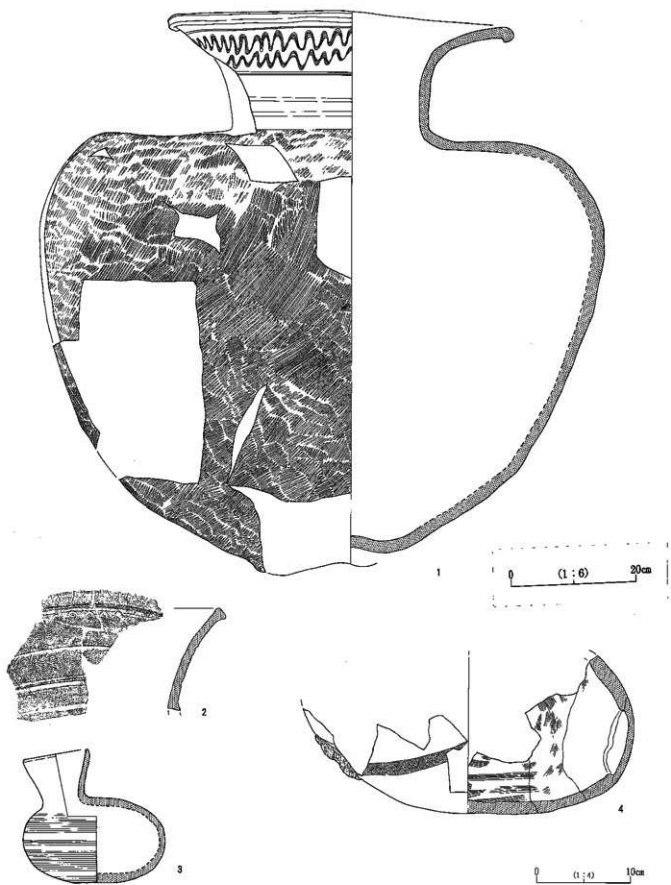
第33图 Ut 5号土器集墳址出土土器実測図(1)



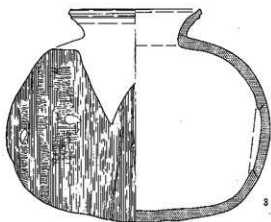
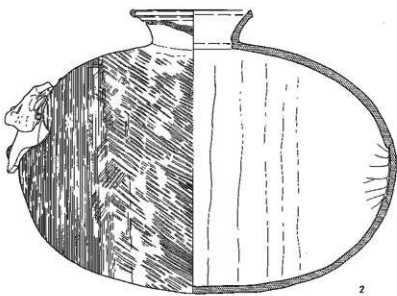
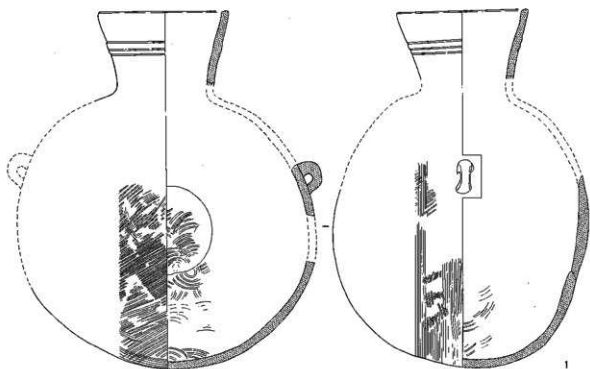
第34图 Uet 5号土器集積址出土土器実測図〈2〉



第35图 Ut5号土器集積址出土土器実測図〈3〉

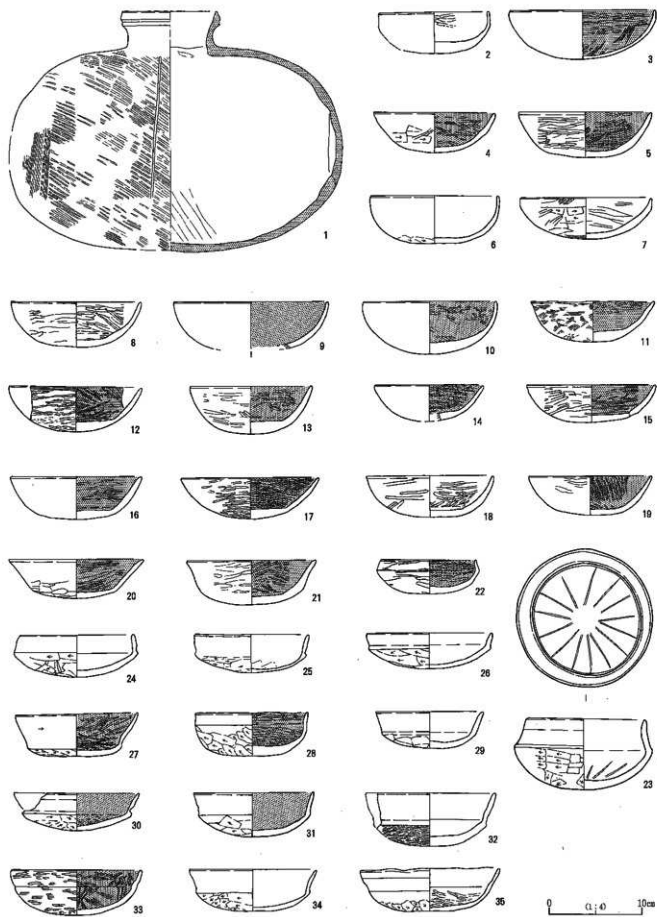


第36图 Ut5号土器集積址出土土器実測図〈4〉

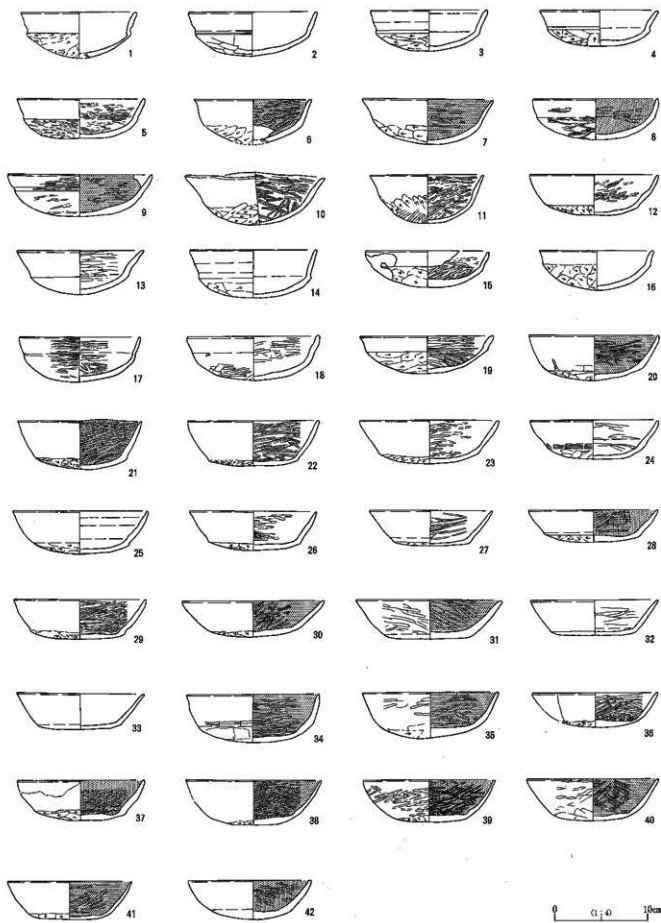


0 1:4 10cm

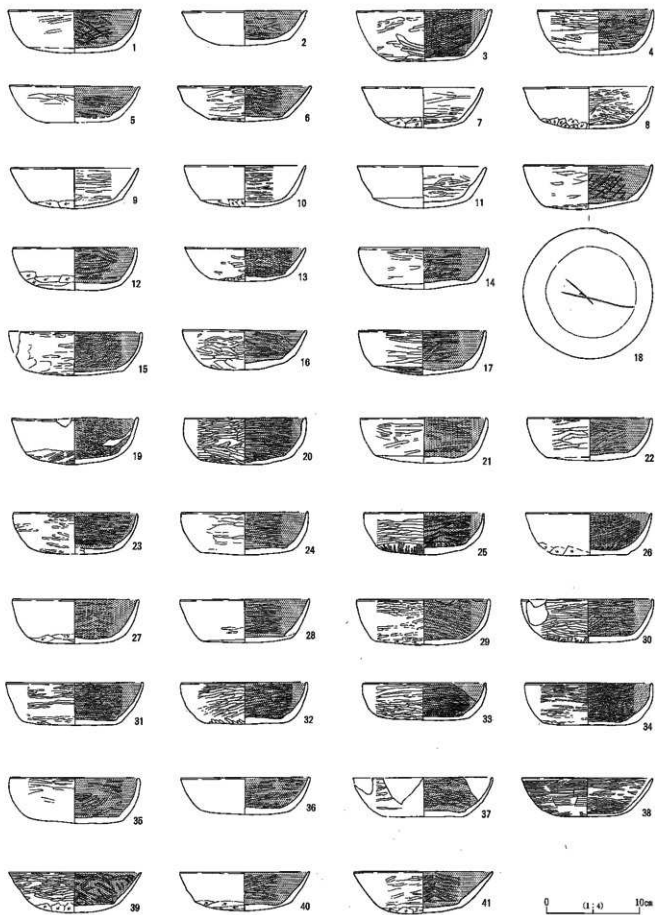
第37图 U_t5号土器集積址出土土器実測図〈5〉



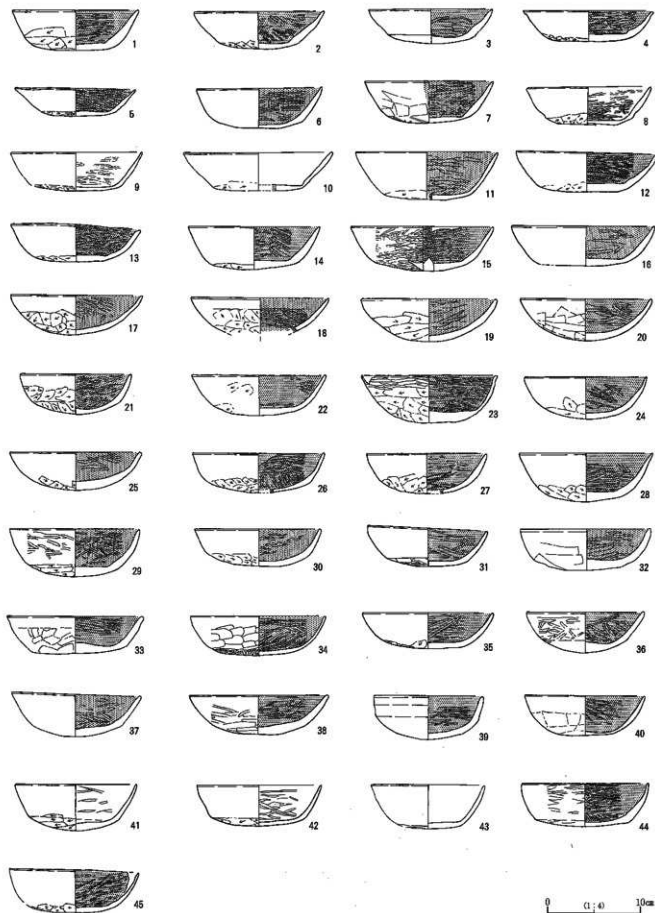
第38图 Ut 5号土器集積址出土土器実測図(6)



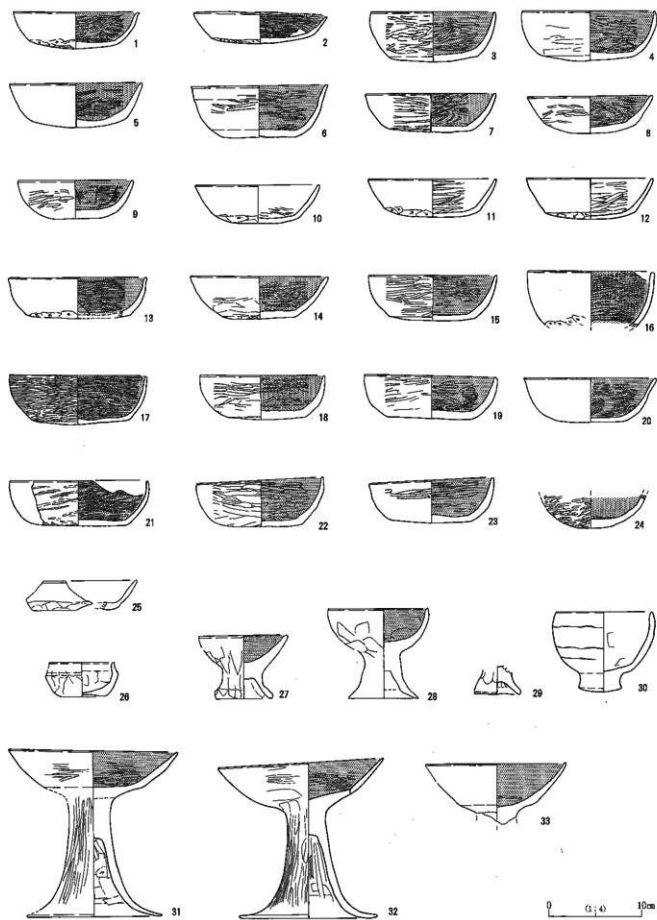
第39图 Ut5号土器集積址出土土器実測図〈7〉



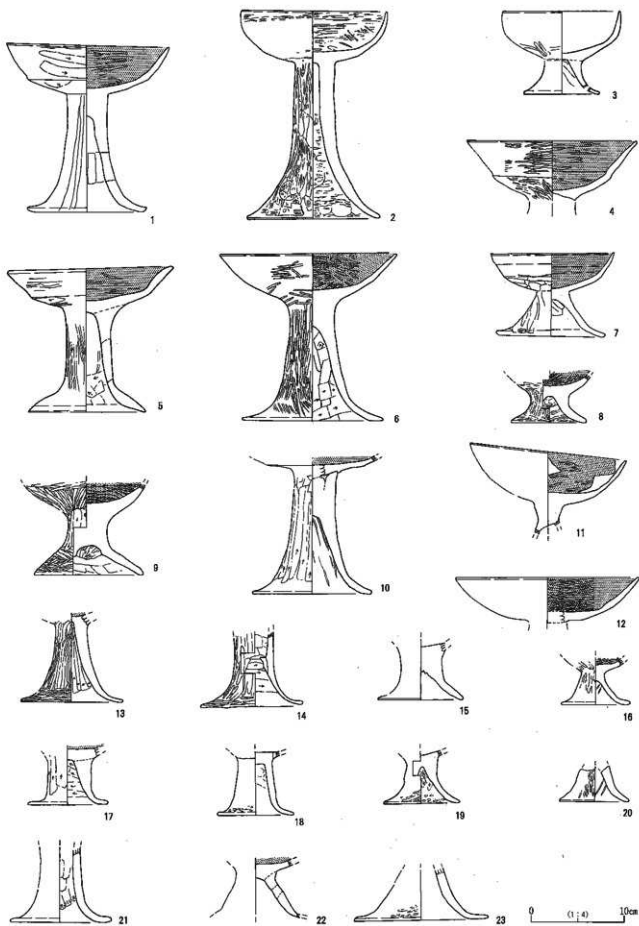
第40图 Ut5号土器集積址出土土器実測图(8)



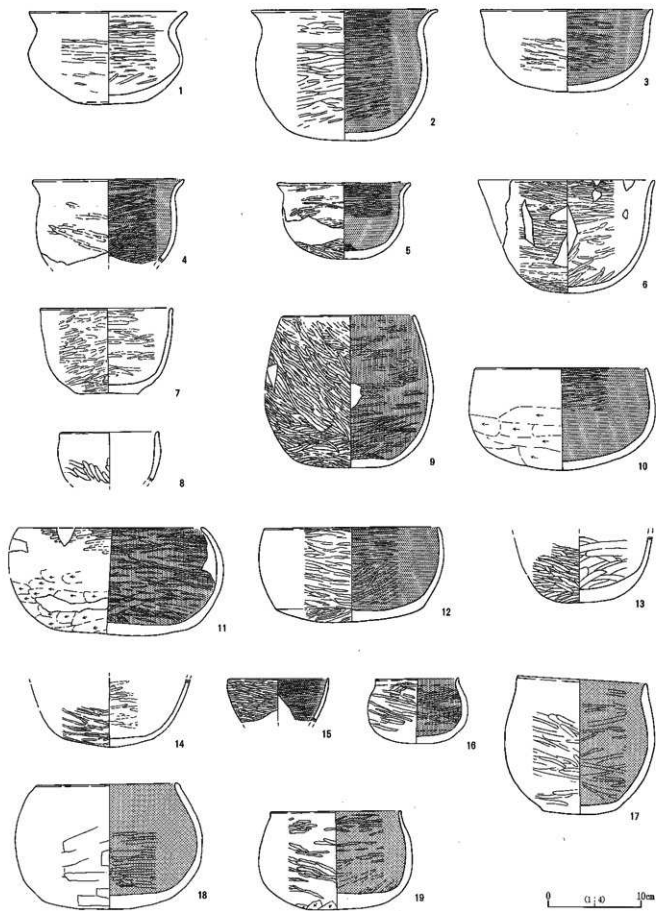
第41图 U15号土器集横址出土土器实测图(9)



第42图 U+5号土器集横址出土土器实例图(10)

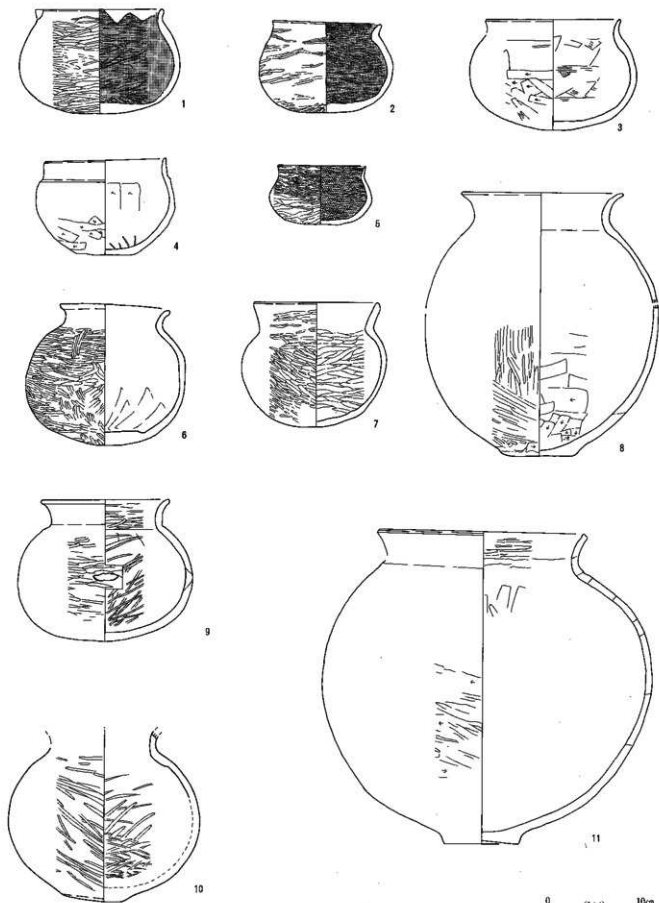


第43图 Ut 5号土器集横址出土土器实测图(11)

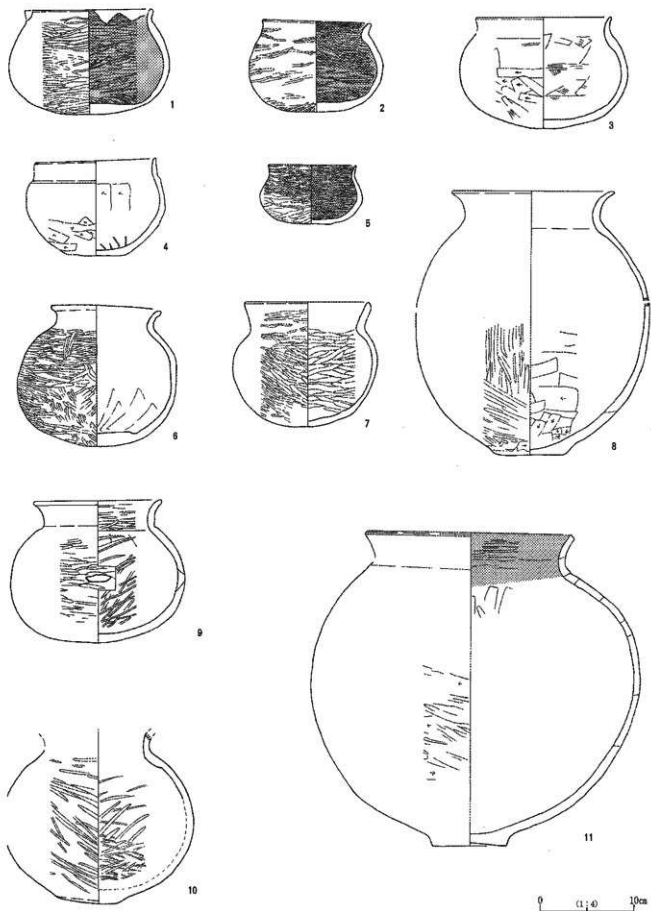


第44图 U15号土器集積址出土土器実測図(12)

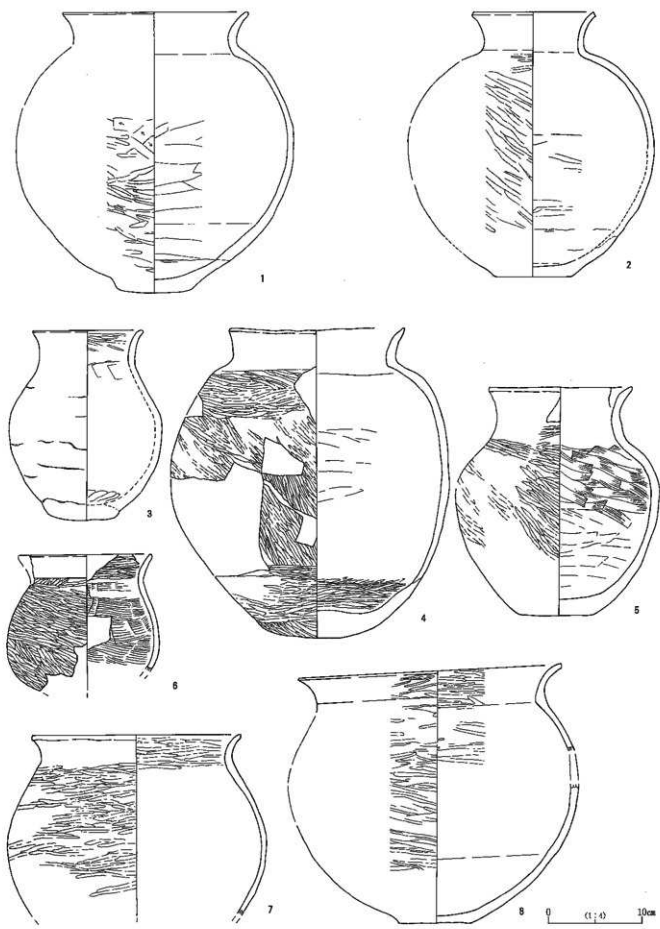
正



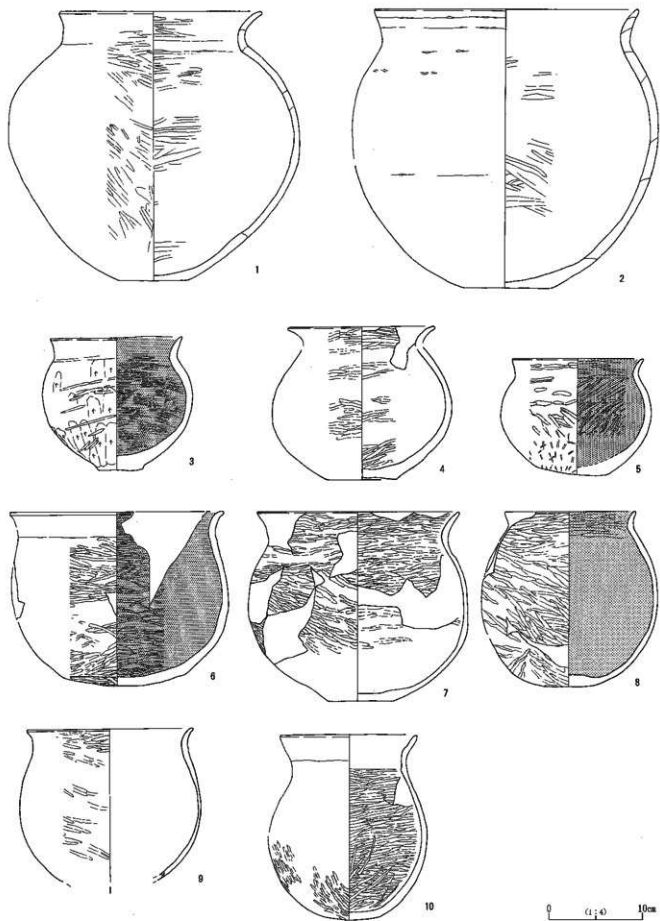
第45图 Liangzihu 出土土器实测图 (13)



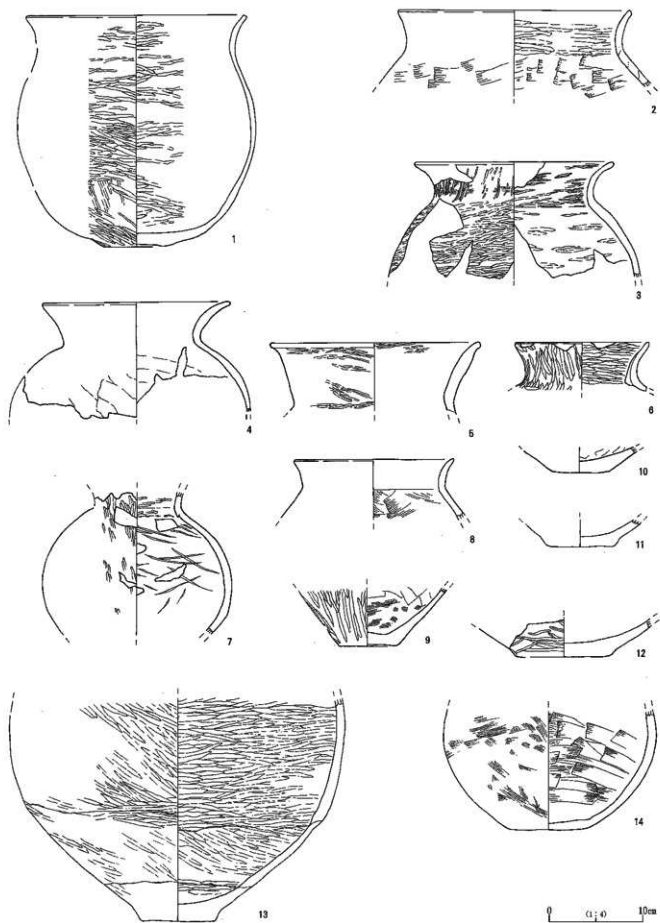
第45图 U:5号器集遗址出土器类测图(13)



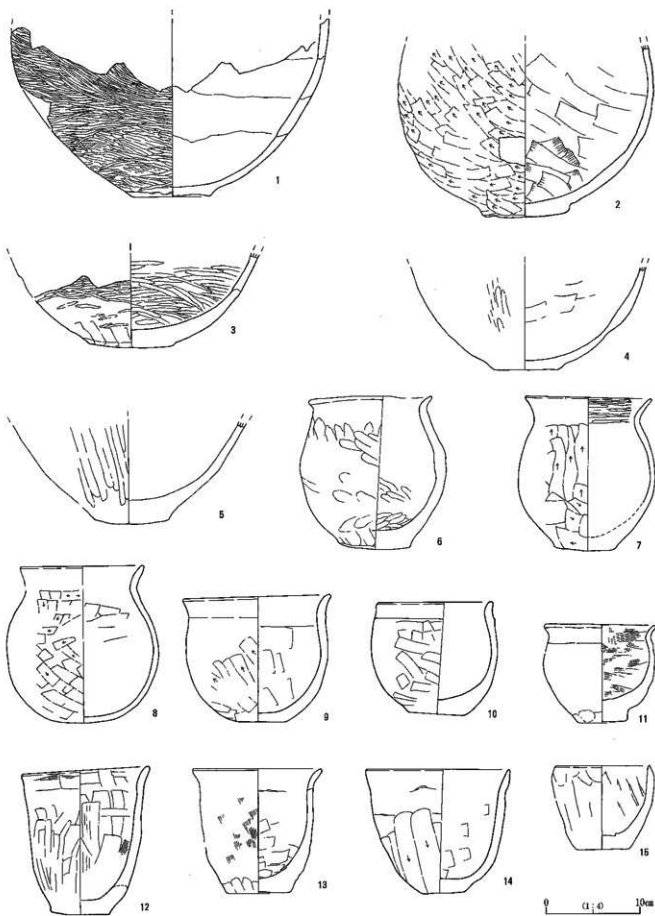
第46图 Ut 5号土器集積址出土土器実測图(14)



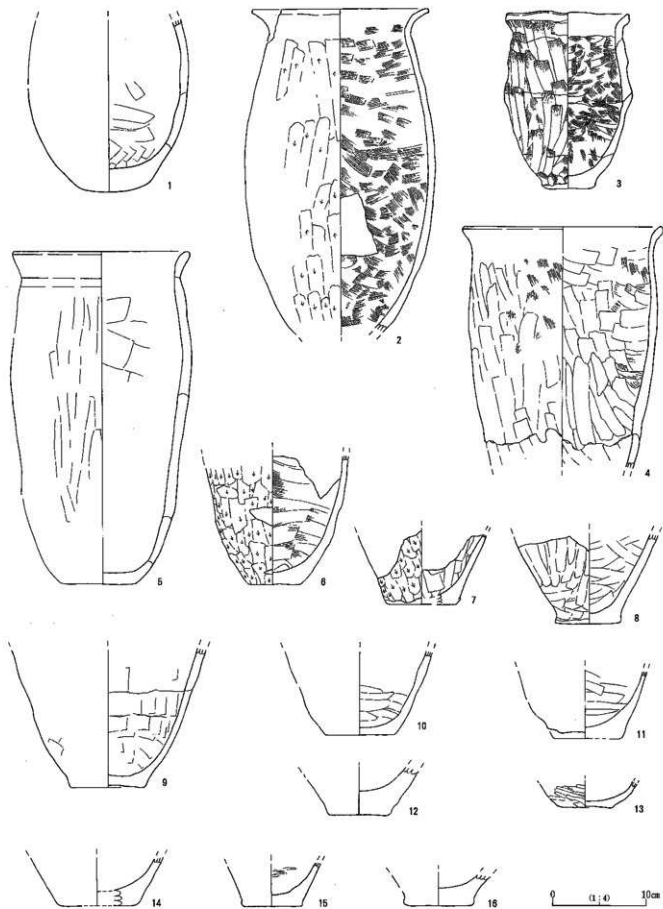
第47图 Ut 5号土器集積址出土土器実測図(15)



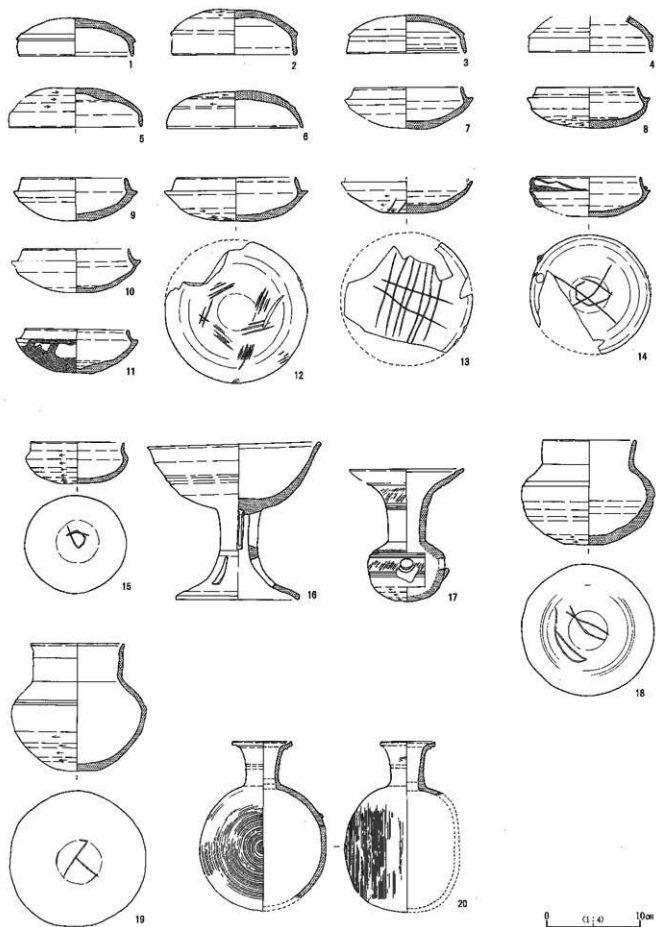
第48图 Ut 5号土器集積址出土土器実測図(16)



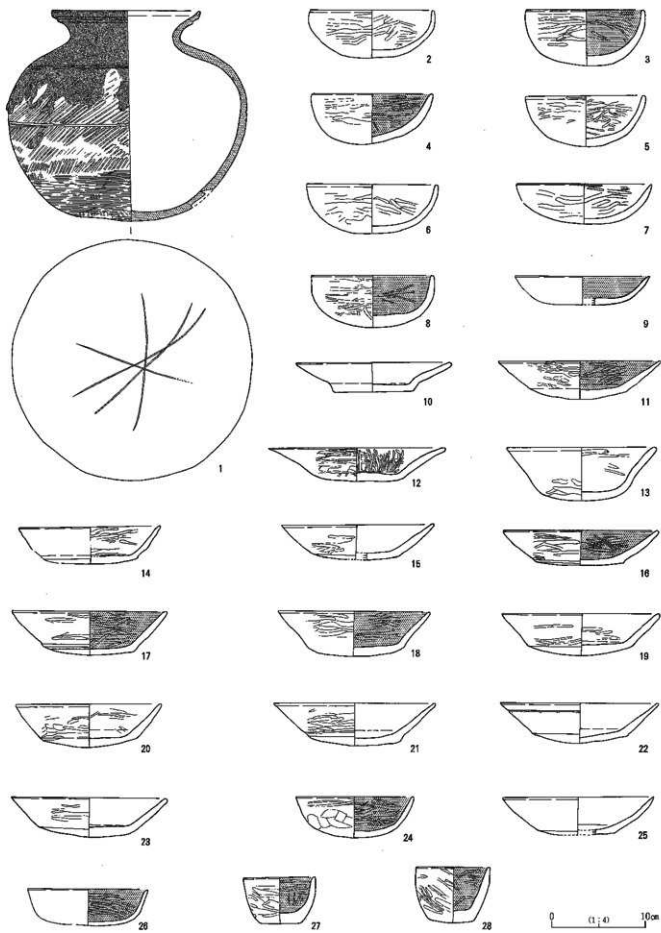
第49图 U15号土器集積址出土土器実測図(17)



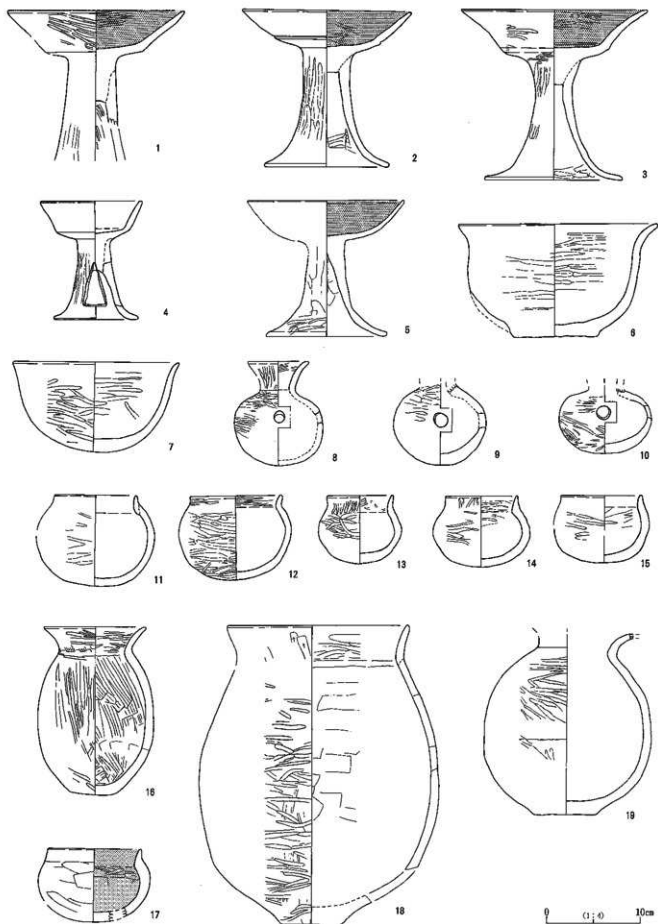
第50图 Ut 5号土层横址出土土器实测图(18)



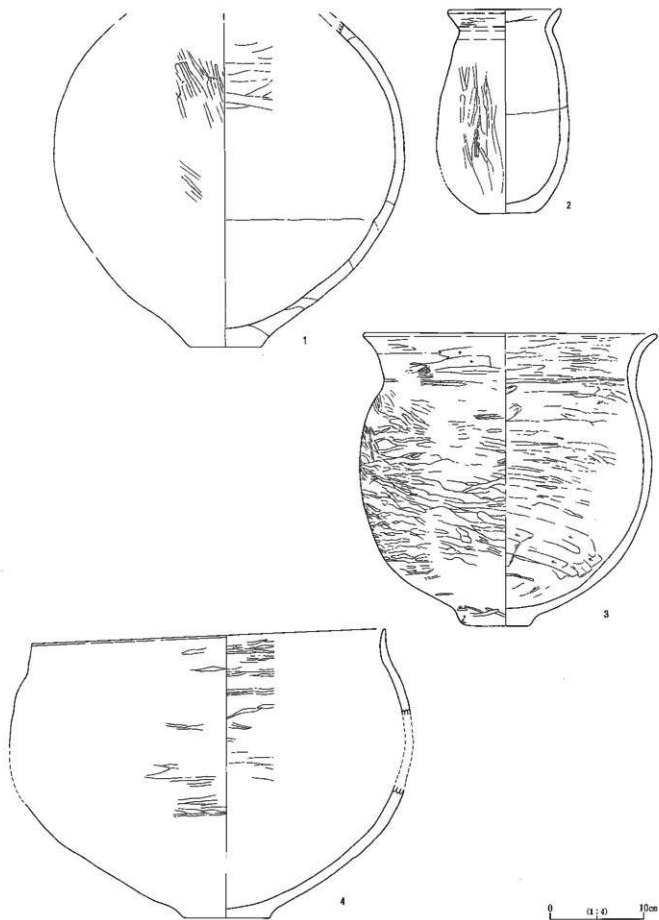
第52图 U_t6号土器集積址出土土器実測図(1)



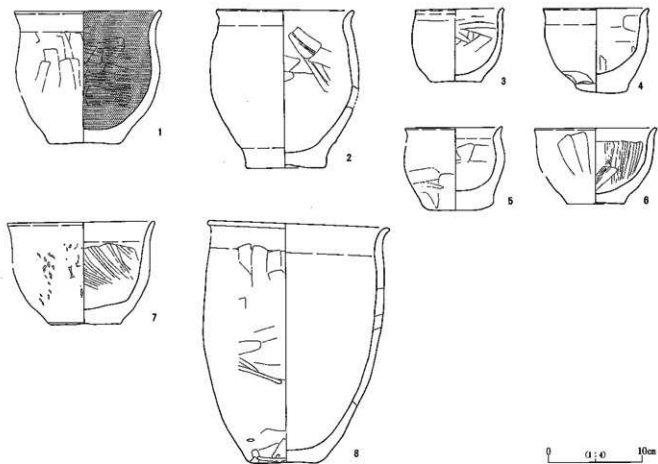
第53图 Ut 6号土器集積址出土土器実測図(2)



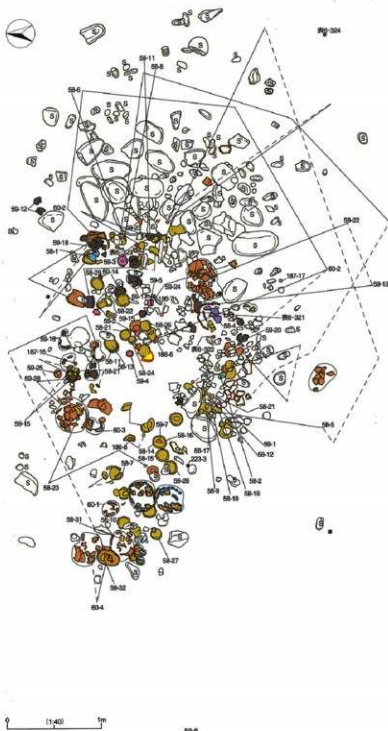
第54图 U_t6号土器集葬址出土土器实测图(3)



第55图 Ut 6号土器集積址出土土器実測图(4)



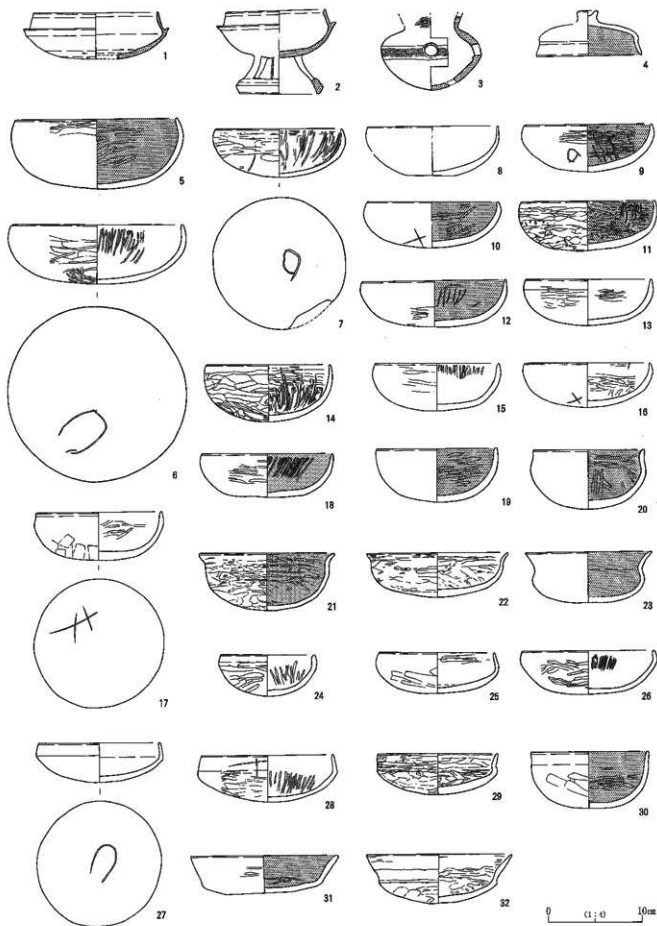
第56图 Ut 6号土器集積址出土土器実測図〈5〉



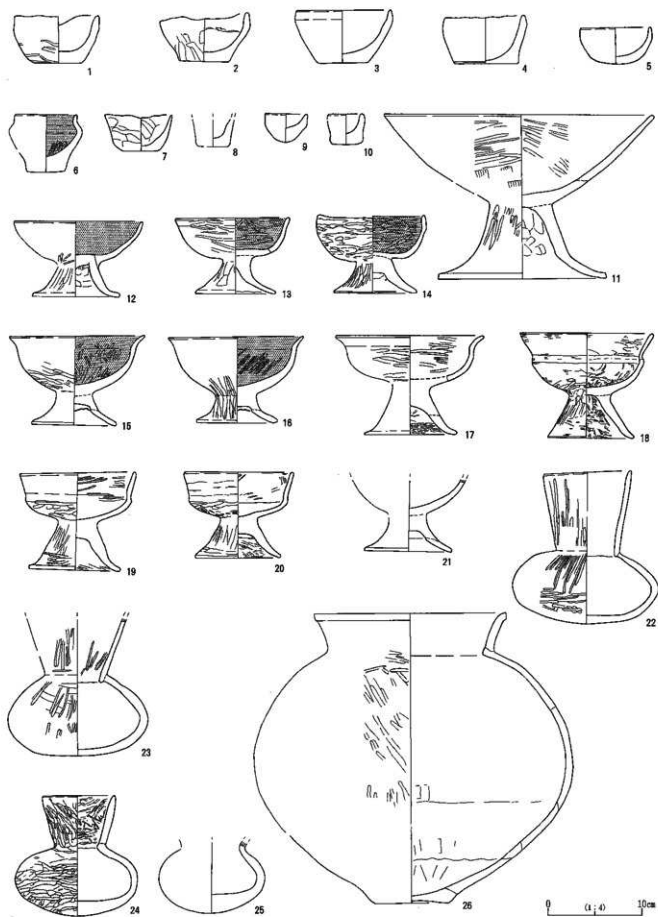
土器	
● 灰 (黄土色)	● 壺 (紫色)
● 甕 カム (黒銅カク) (土色)	● 罎 (紅土)
● 壺 (広口壺含む) (赤色)	● その他 (青色)
● 鉢 (黄色)	
● 短頸壺 (褐色)	合付長頸壺 罎、罎口壺 脚付壺
● 高坪 (茶色)	
● 手掘土器 (クニヤウ) (赤褐色)	

石	
● 坪、坪蓋 (白色)	● 平鏡 (黄色)
● 罎 (赤褐色)	● 鏡蓋 (灰色)
● 罎 (別型罎・別群罎) (青褐色)	● 罎 (紅土)
● 高坪 (青褐色)	● 磁石 (赤色)
● エラトルド (赤褐色)	● 磁器 (黒色)
● 長頸壺・脚付壺 (赤褐色)	● 石製模造品 (褐色)
● 罎蓋 (赤褐色)	● 壺 (赤褐色)
● 罎 (赤褐色)	

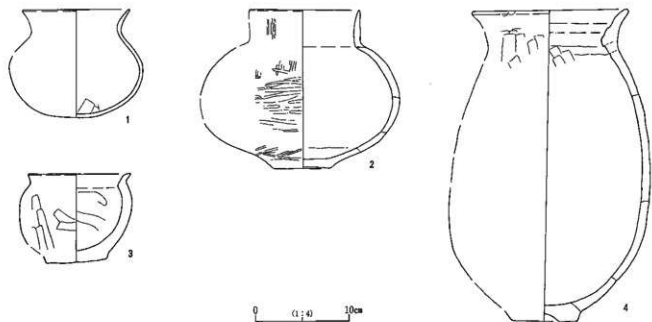
第57図 Ut7号土器集積址実測図



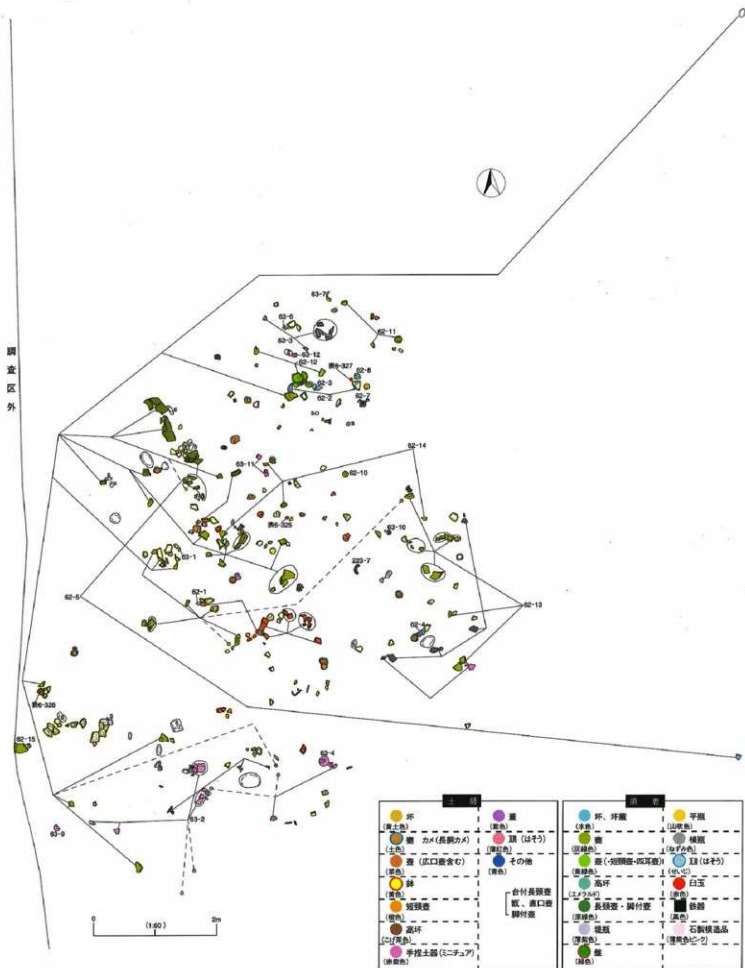
第58图 U:7号土器集積址出土土器実測図〈1〉



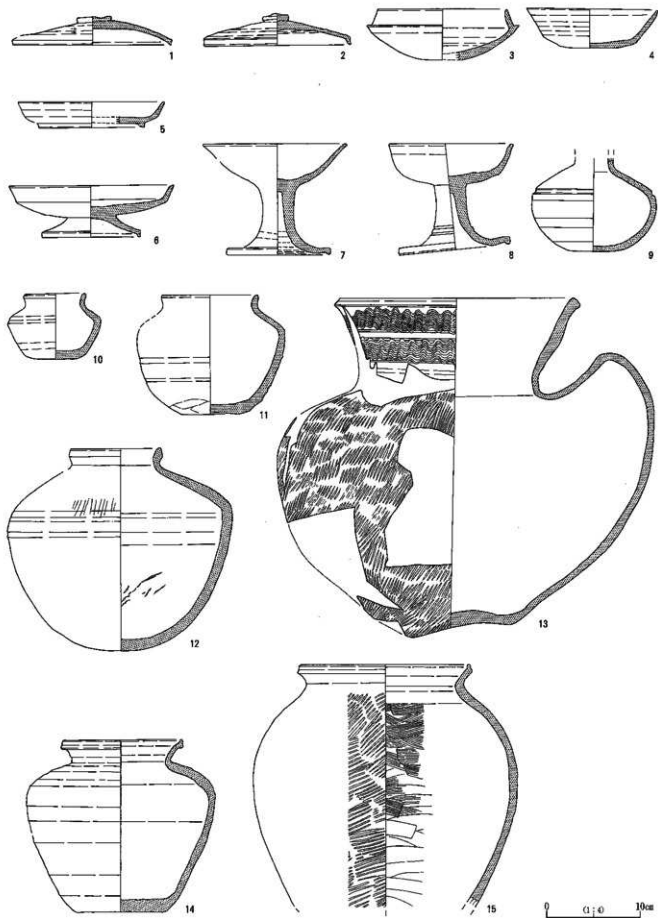
第59图 U:7号土器集積址出土土器実測図(2)



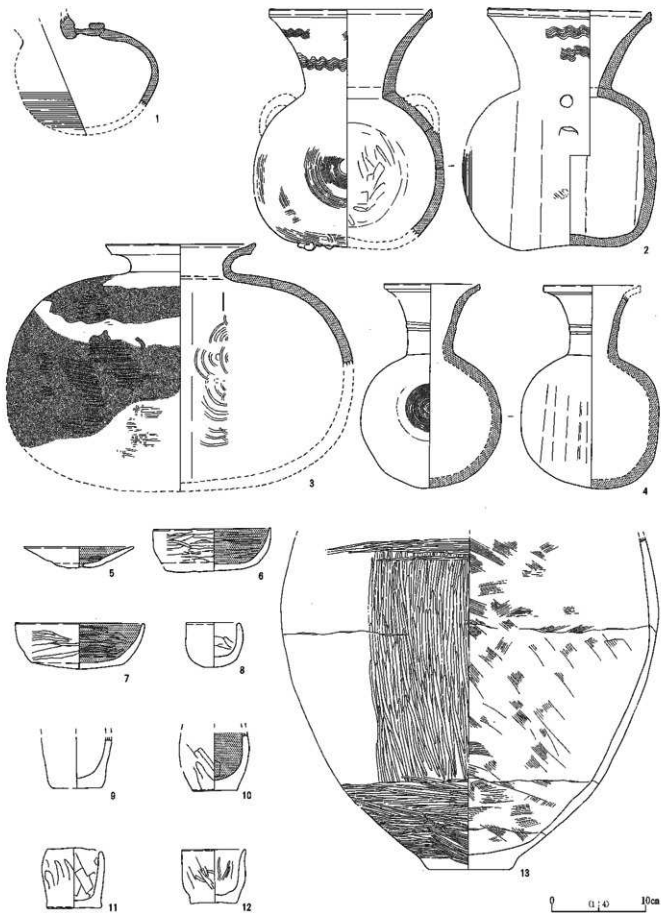
第60图 U17号土器集積址出土土器実測図(3)



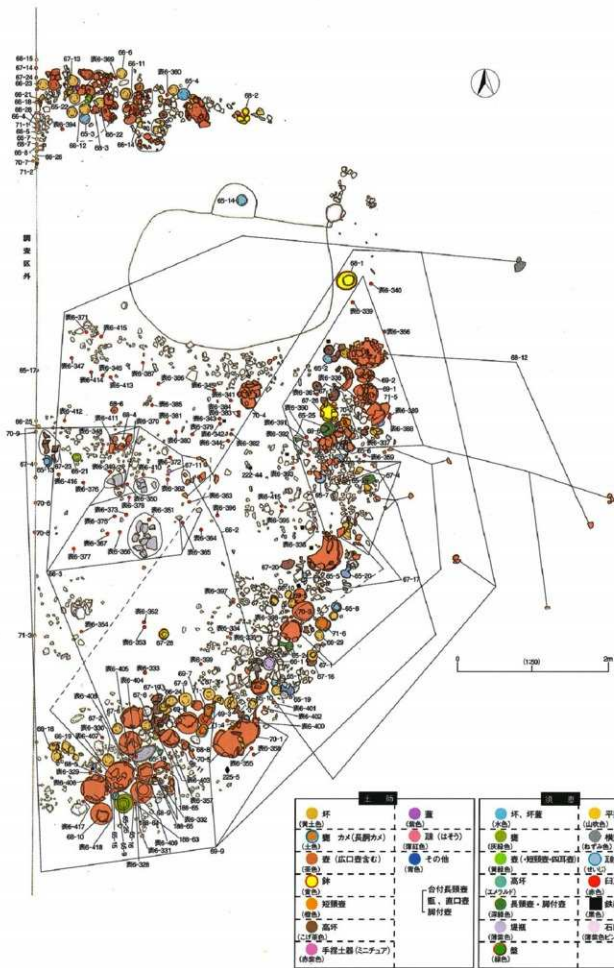
第61図 U18号土器集積址実測図



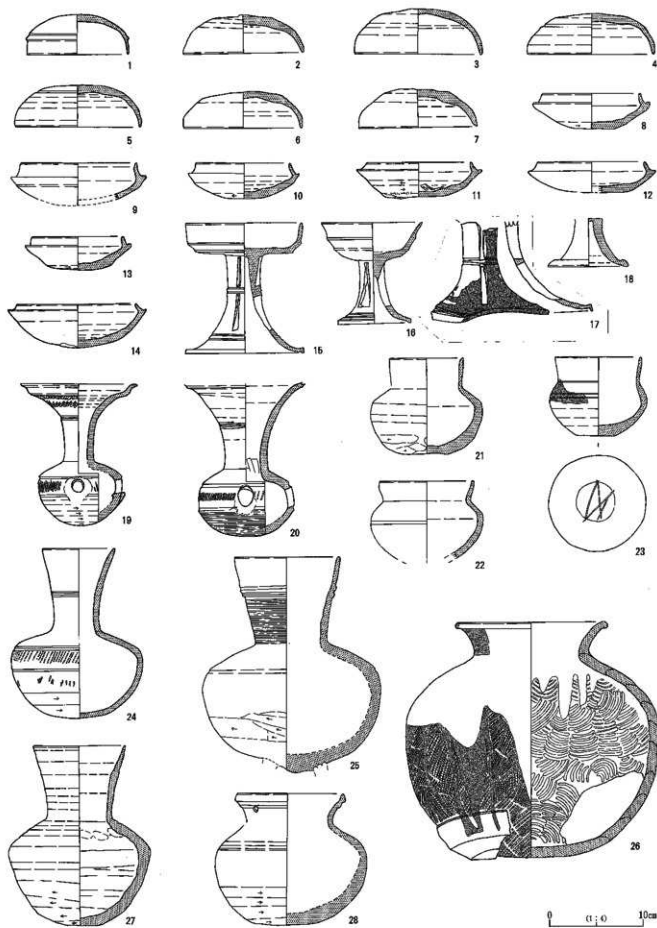
第62图 U:8号土器集積址出土土器実測図(1)



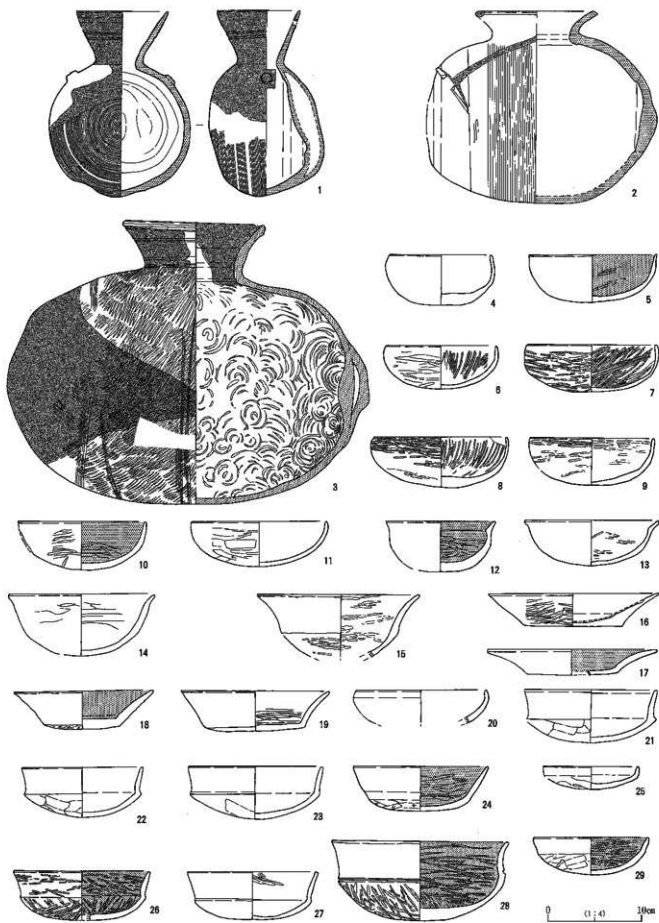
第63图 Ut 8号土器集積址出土土器実測图(2)



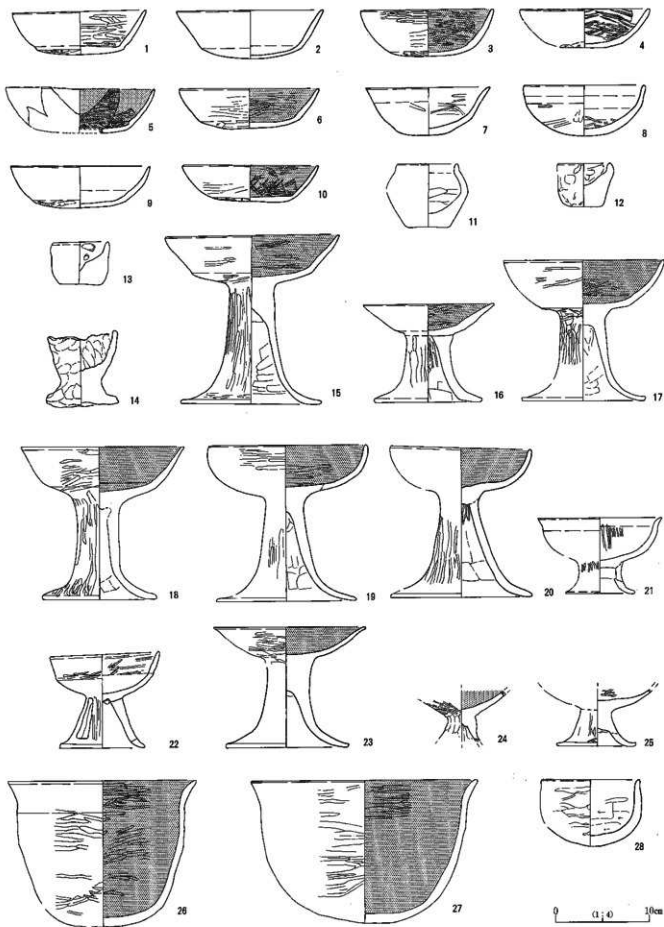
第64図 Ut9号土器集積址実測図



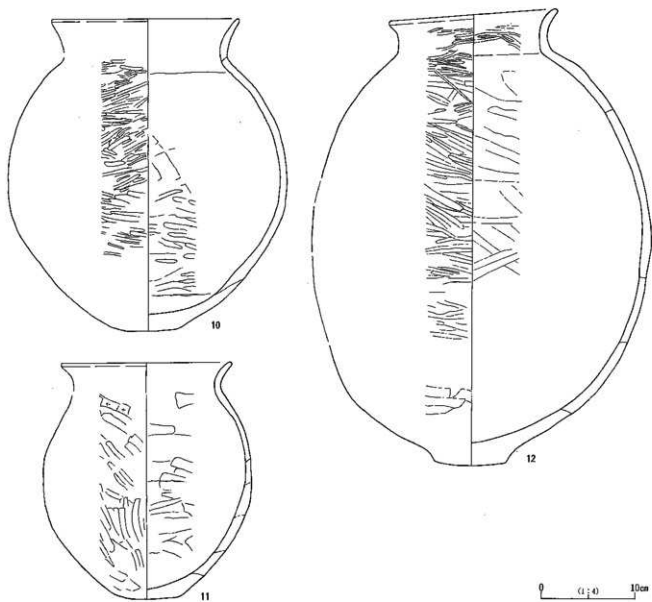
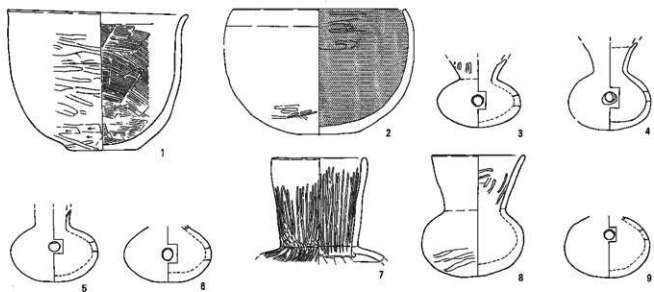
第65图 U18号土器集横址出土土器实测图(1)



第06图 Ut 9号土器集積址出土土器実測図(2)

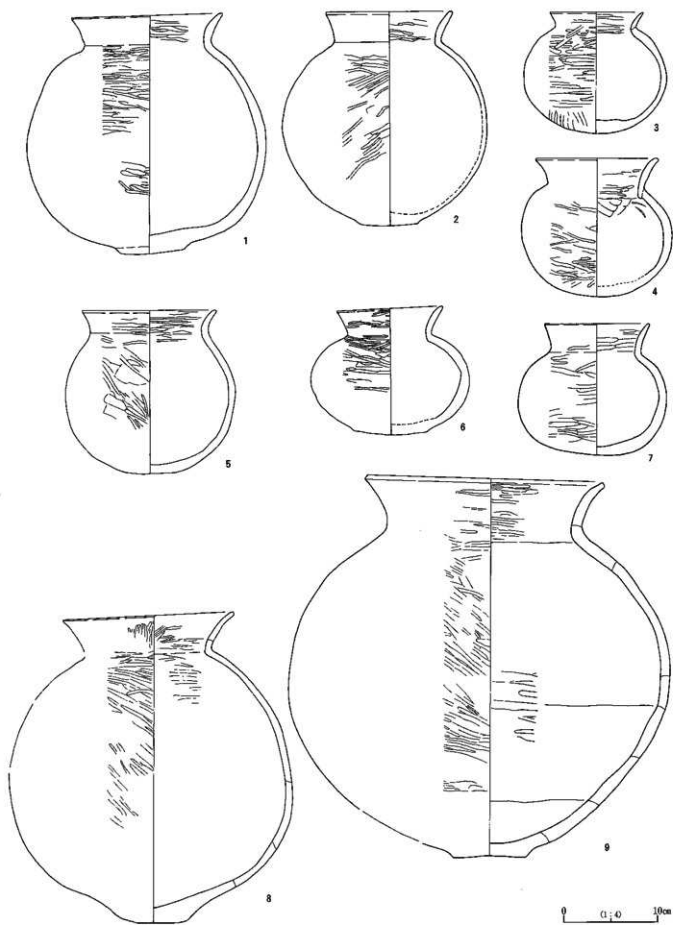


第67圖 Ut9 号土器集積址出土土器実測圖 (3)

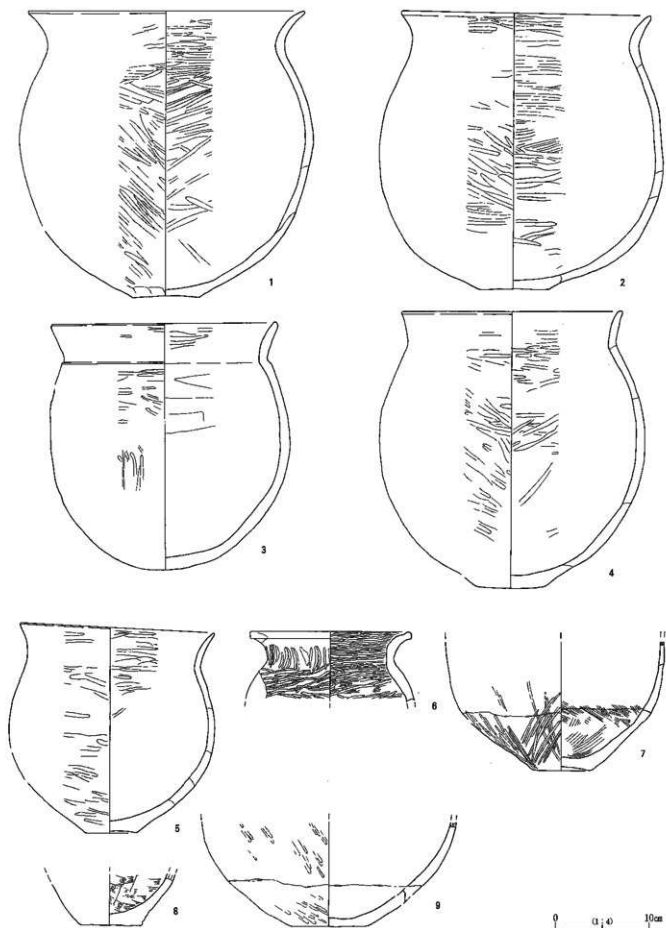


0 1:4 10cm

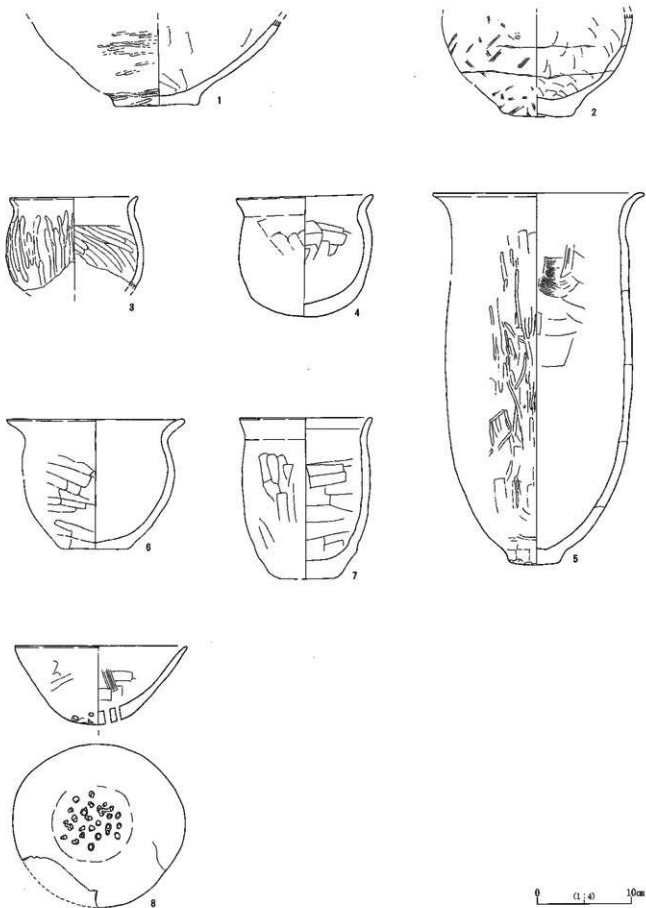
第68图 U_t9号土器集積址出土土器実測図(4)



第69图 U19号土器集横址出土土器实测图(5)

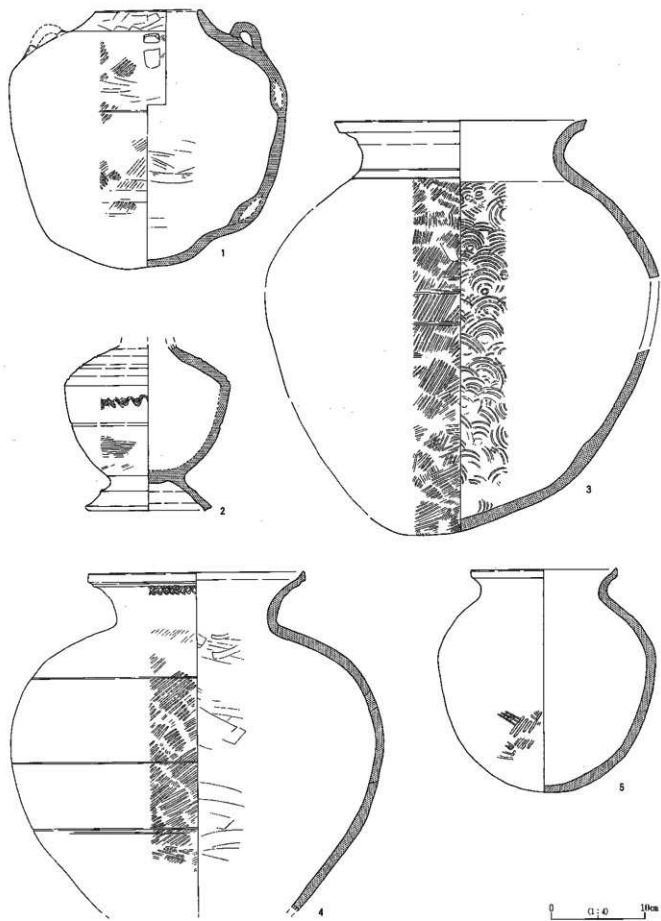


第70图 U₁9号土器集積址出土土器実測図(6)

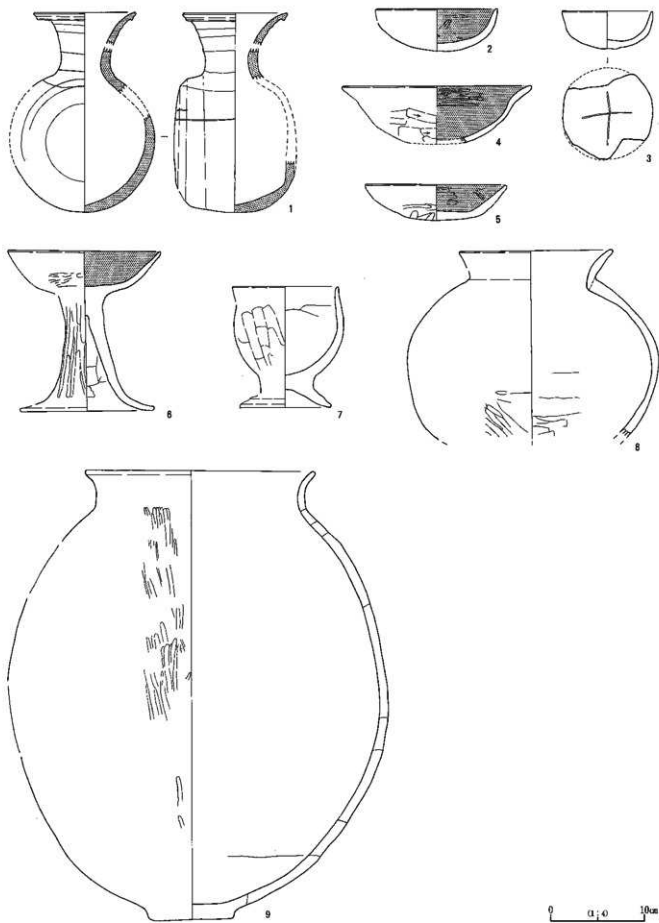


第71图 Ut9号土器集積址出土土器実測図(7)

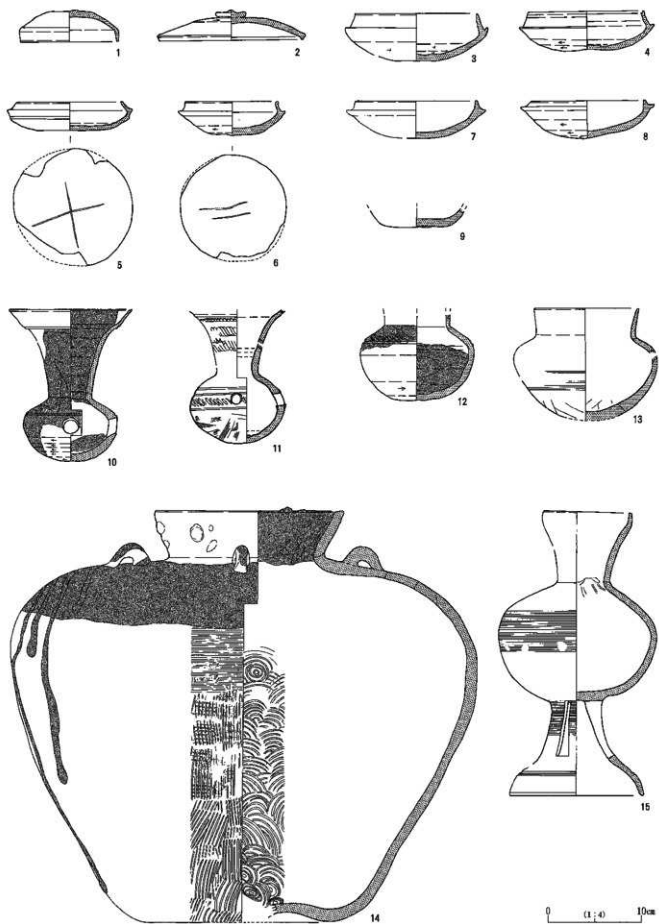




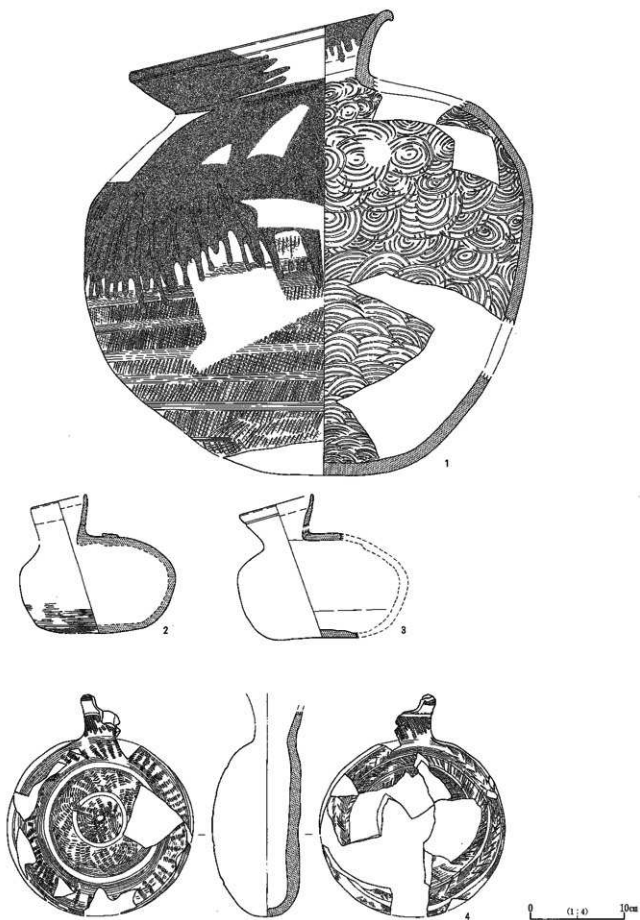
第73图 Ut10号土器集積址出土土器実測図(1)



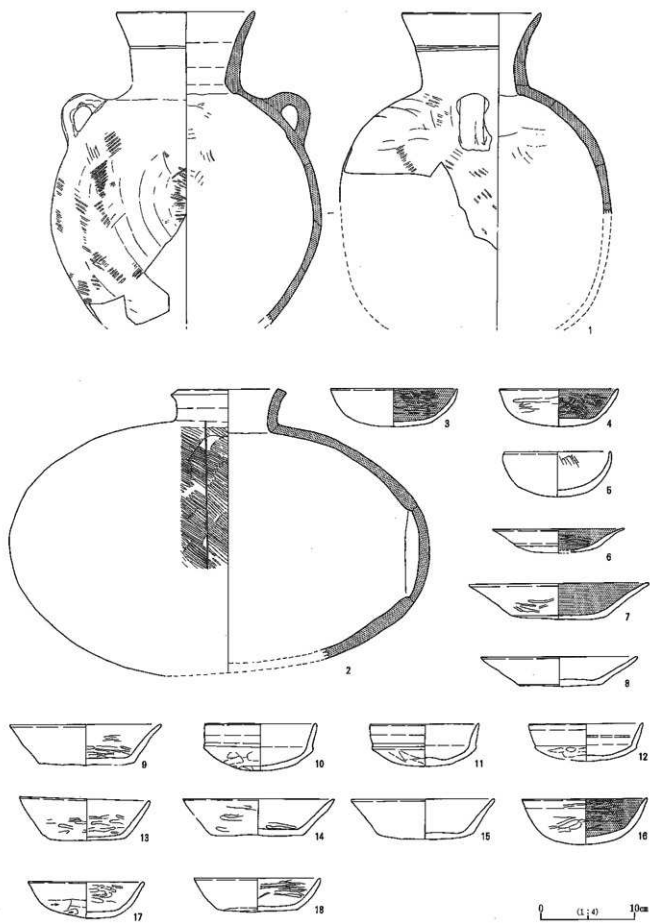
第74图 U_t10号土器集精址出土土器突测图〈2〉



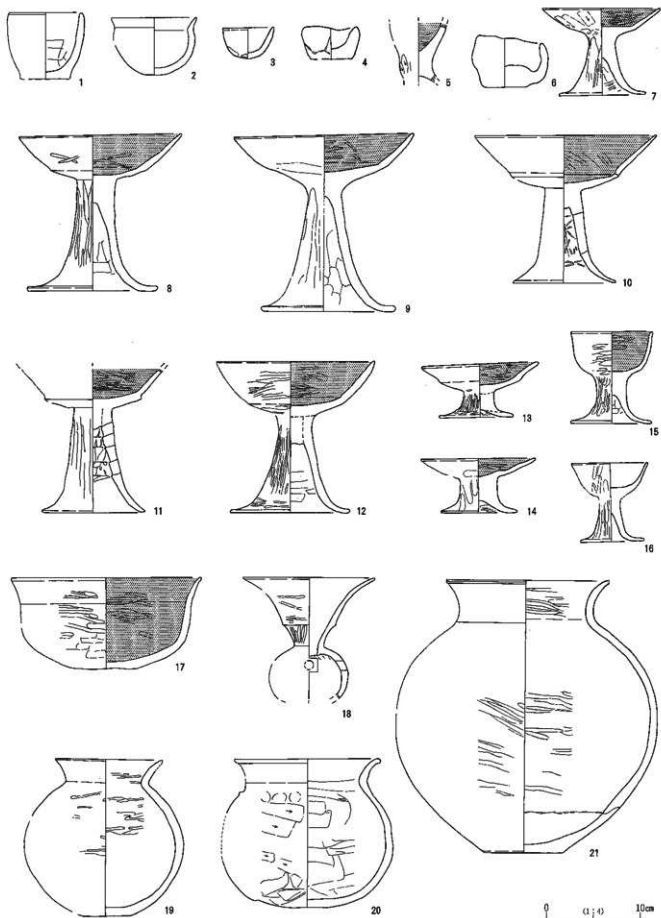
第76图 U111号土器集横址出土土器实测图〈1〉



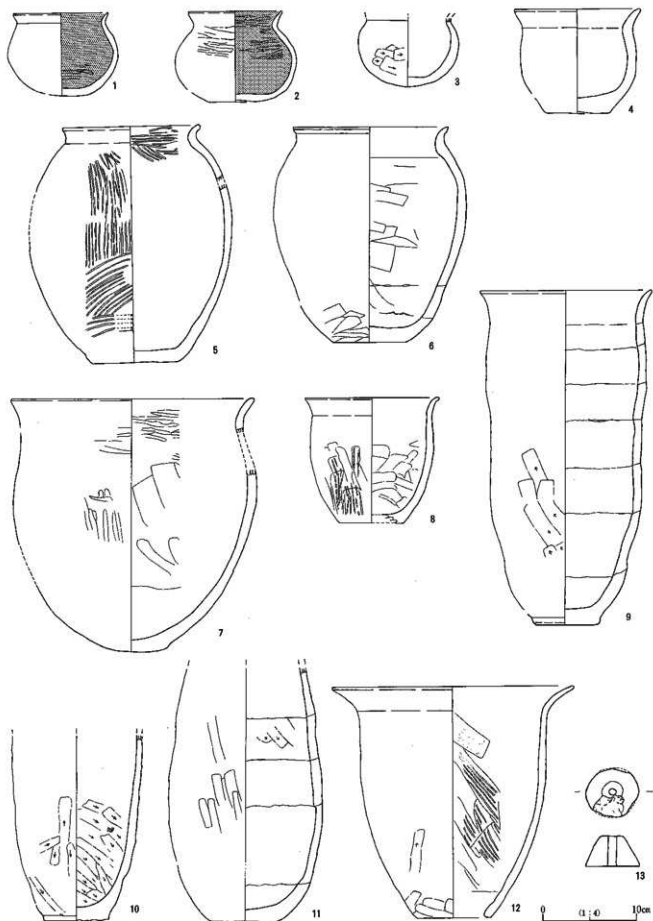
第77图 Ut11号土器集横址出土土器实测图(2)



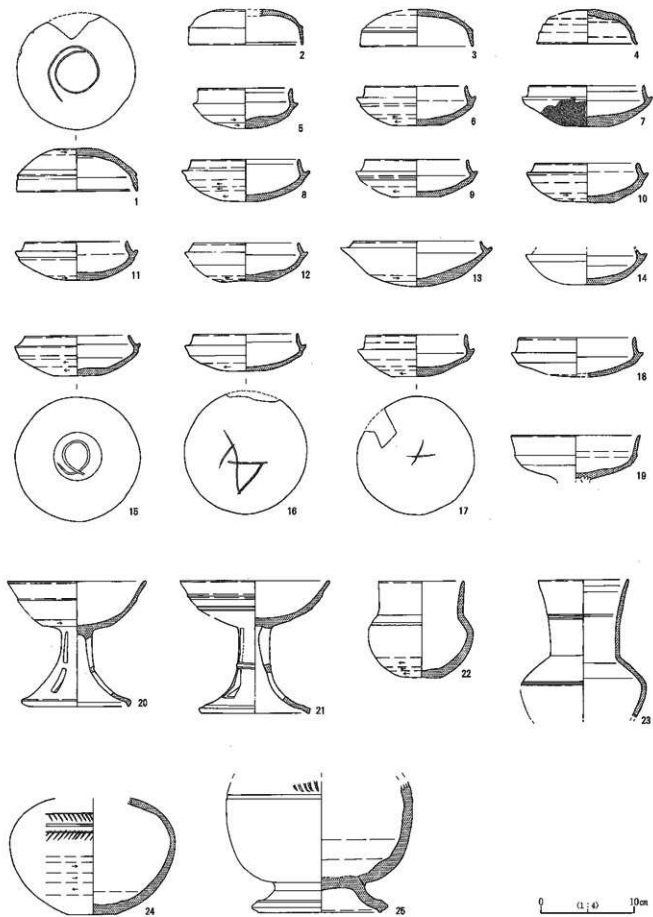
第78图 U:11号土器集埋址出土土器实例图(3)



第79图 Urt11号土器集積址出土土器実測図〈4〉

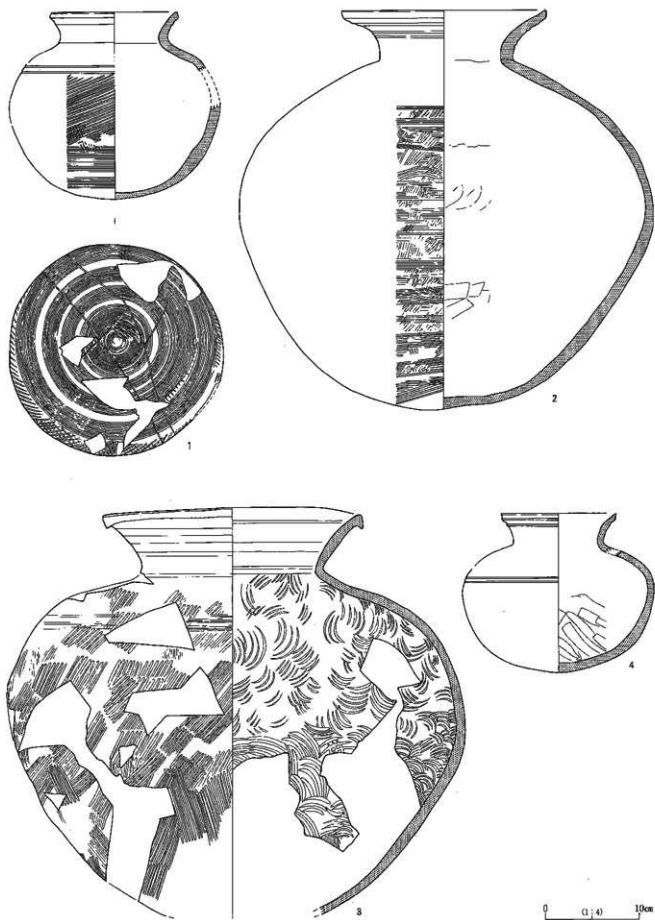


第80图 Ut11号土器集積址出土土器実測図〈5〉

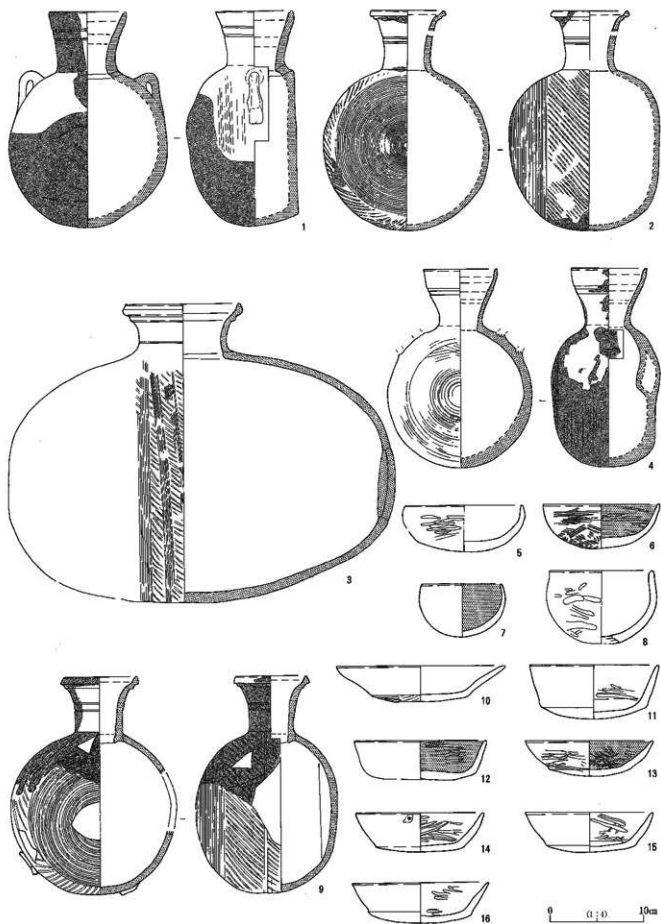


第82图 U_t12号土器集積址出土土器実測図〈1〉

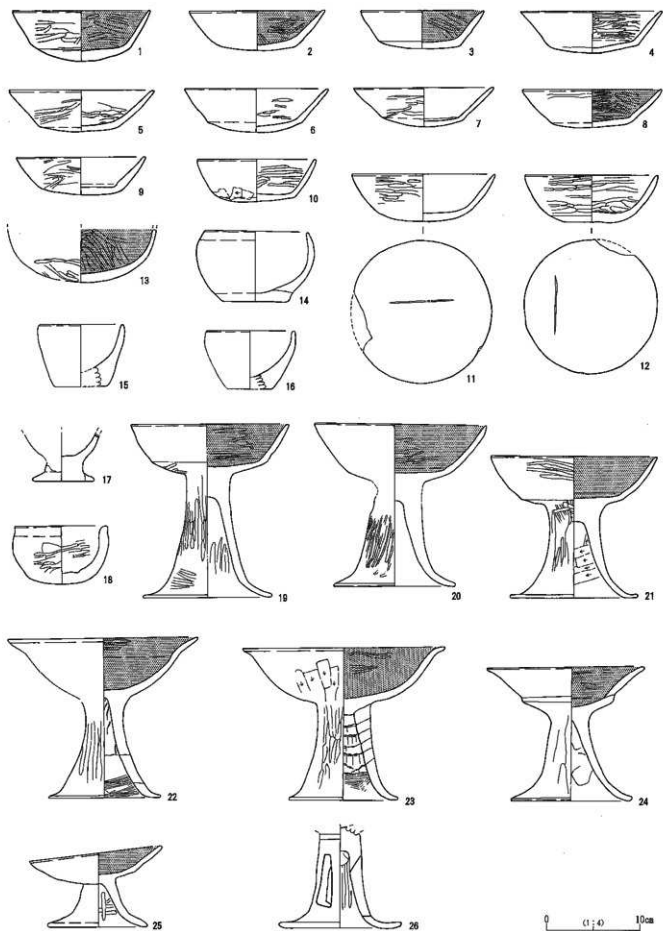
0 (1:4) 10cm



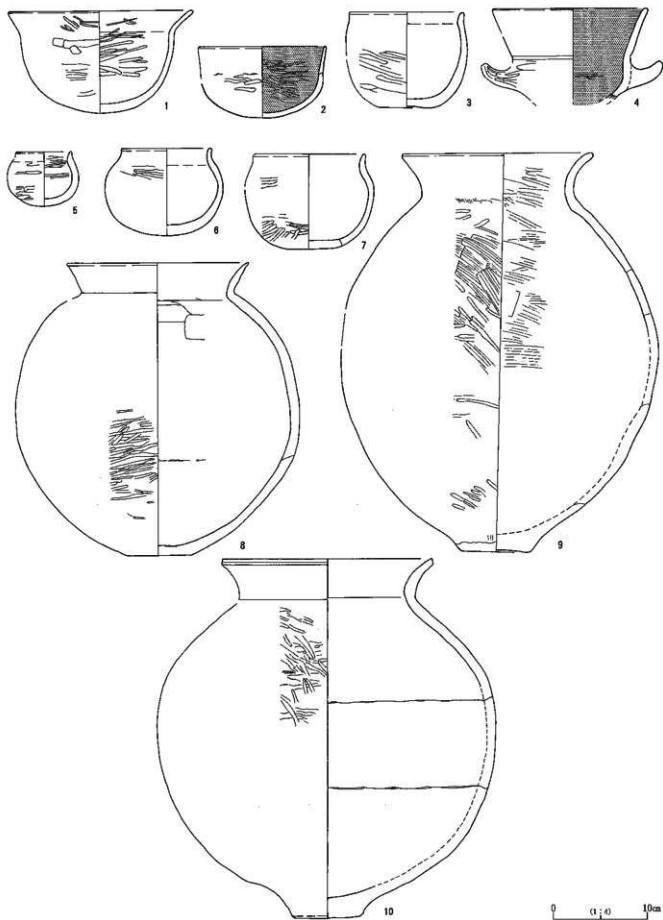
第83图 Ut12号土器集遗址出土土器实测图(2)



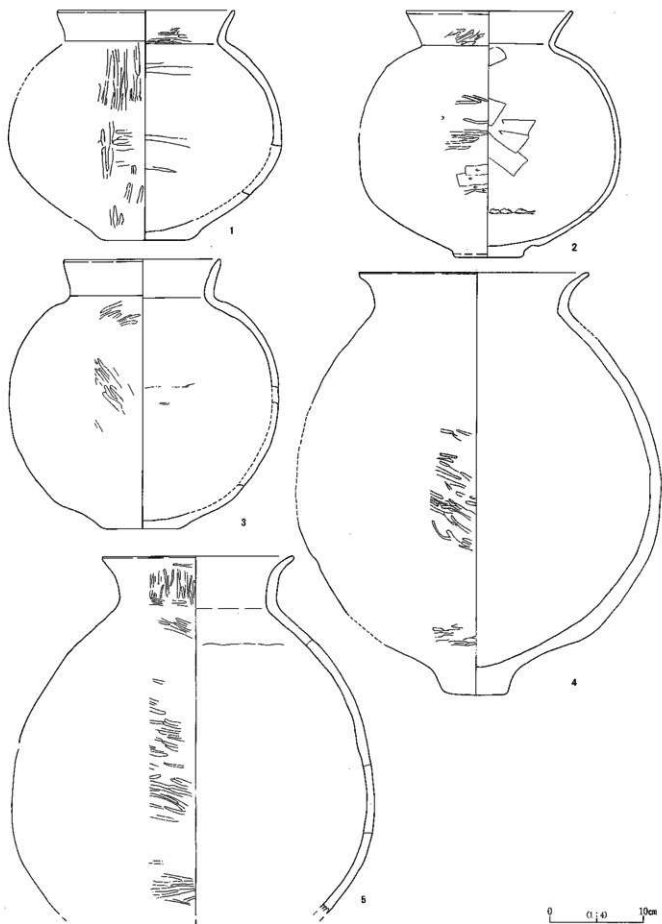
第84图 U112号土器集遗址出土土器实测图(3)



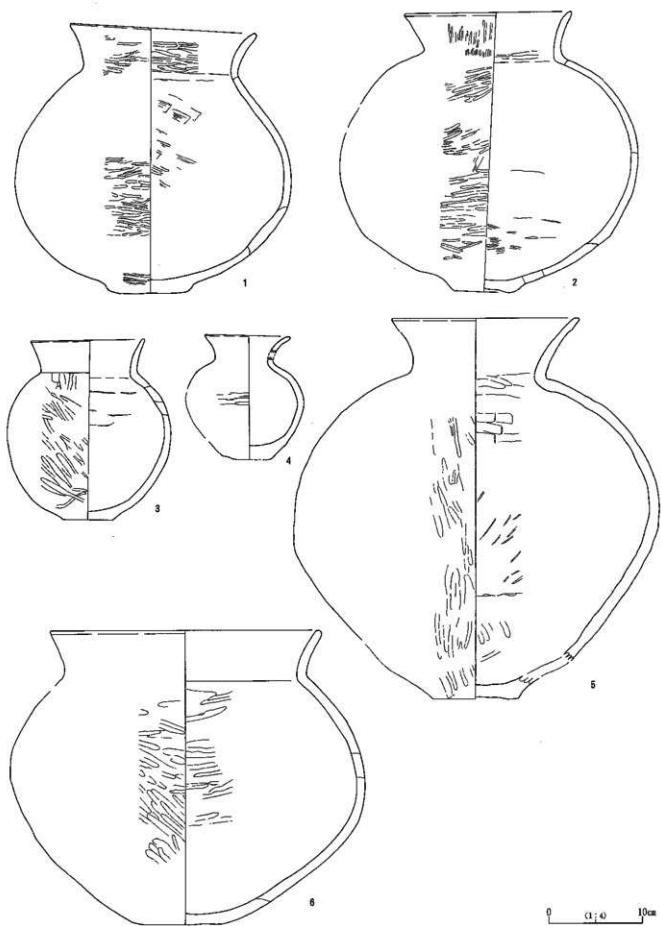
第85图 U_t12号土器集積址出土土器実測図〈4〉



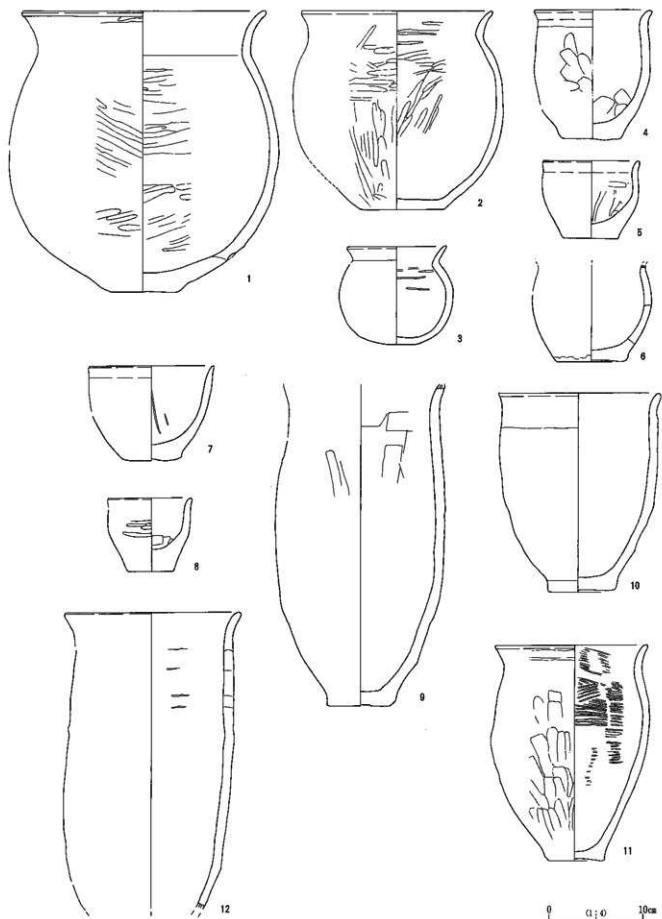
第86图 U:12号土器集積址出土土器実測図〈5〉



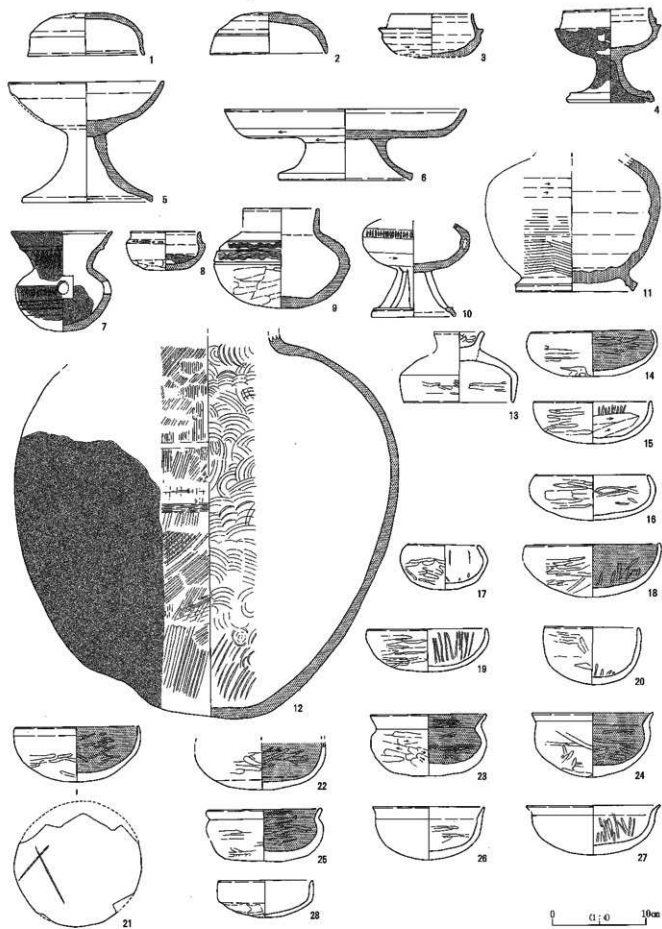
第87图 Ut12号土器集横址出土土器实例图(6)



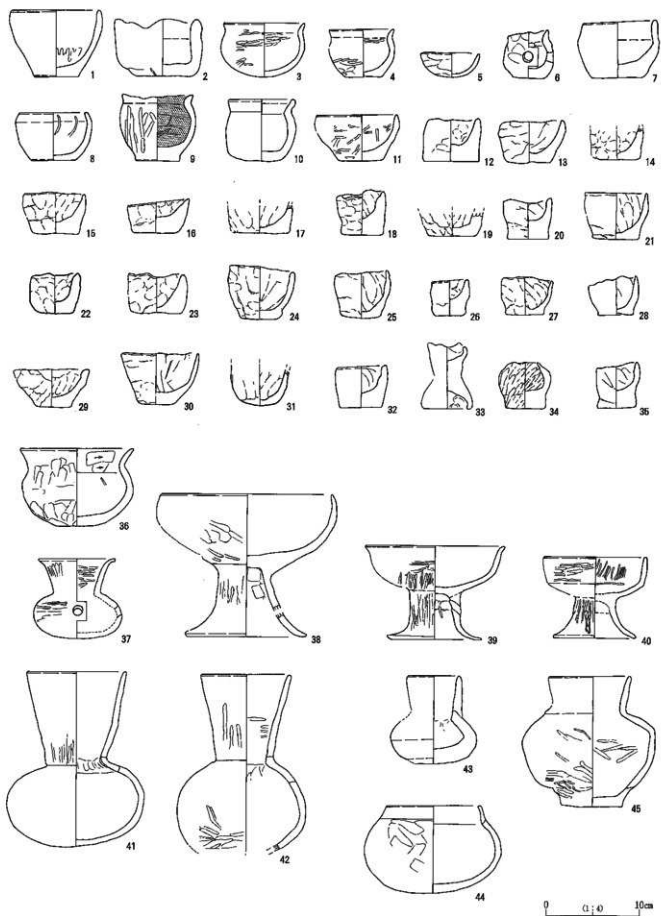
第88图 Ut12号土器集積址出土土器実測図〈7〉



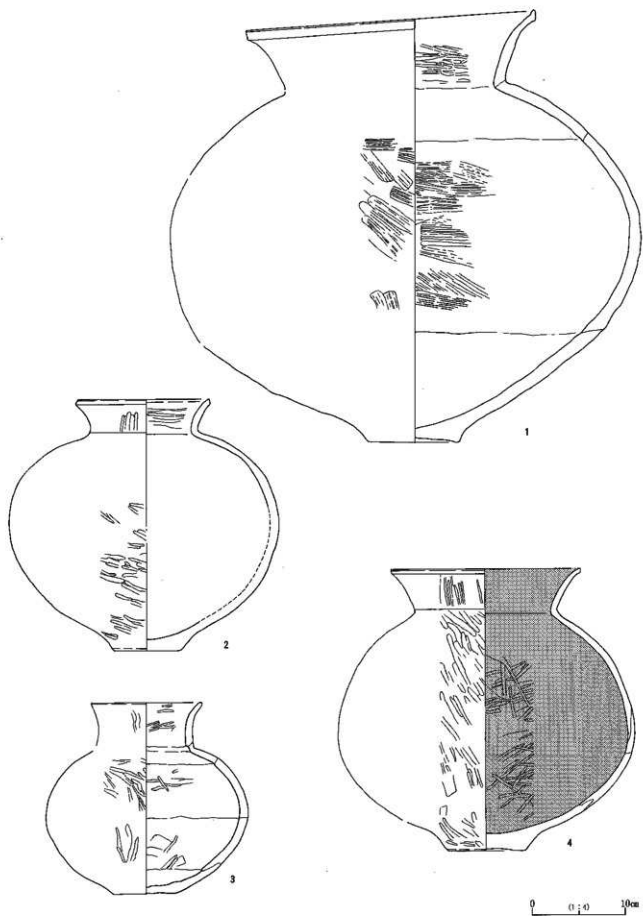
第89图 Ut12号土器集横址出土土器实例图(8)



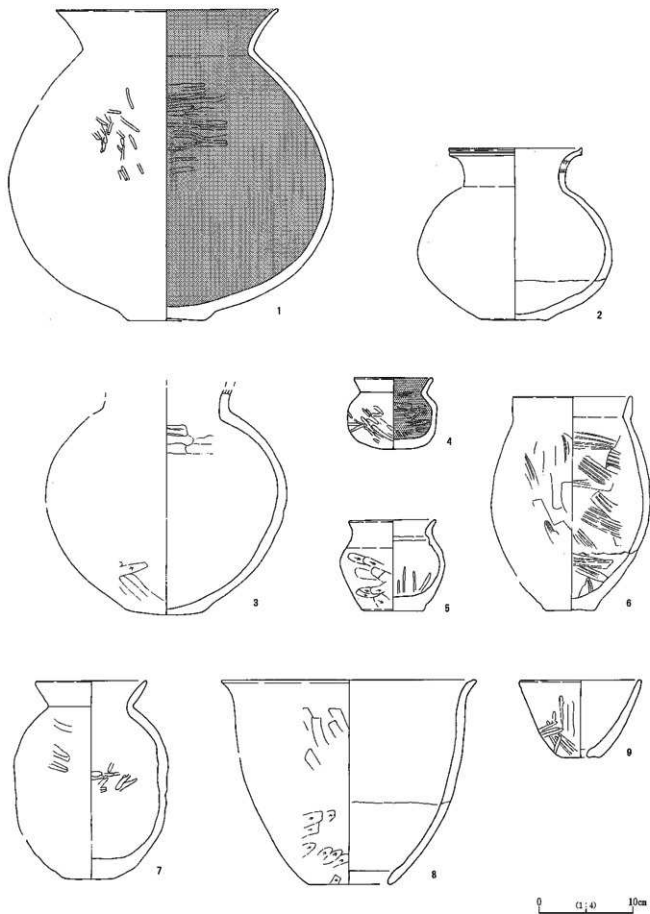
第91图 Ut13号土器集積址出土土器実測図(1)



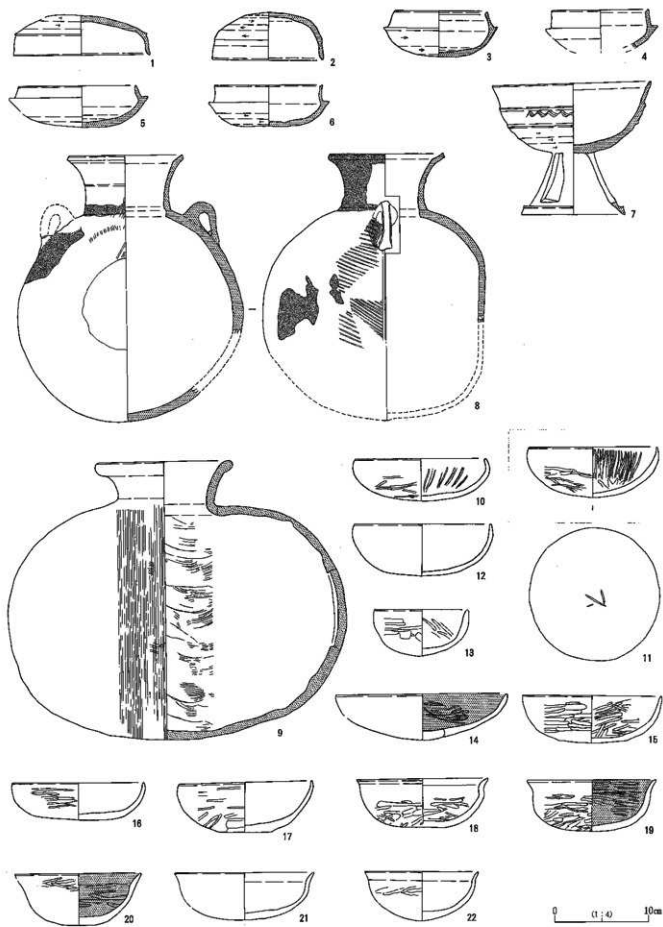
第92图 U13号土器集積址出土土器実測図〈2〉



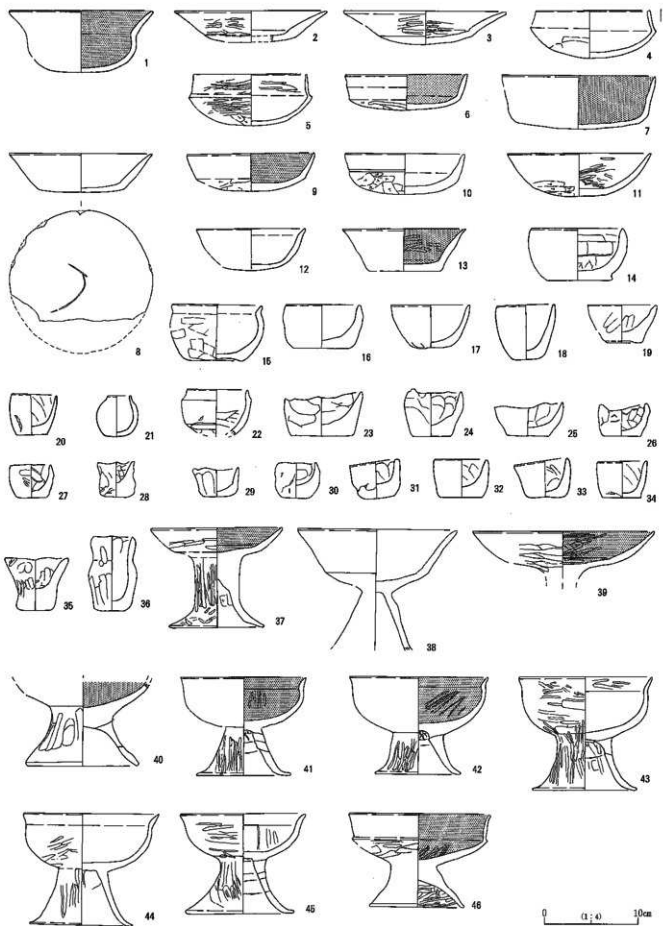
第63图 Ut13号土器集積址出土土器実測図(3)



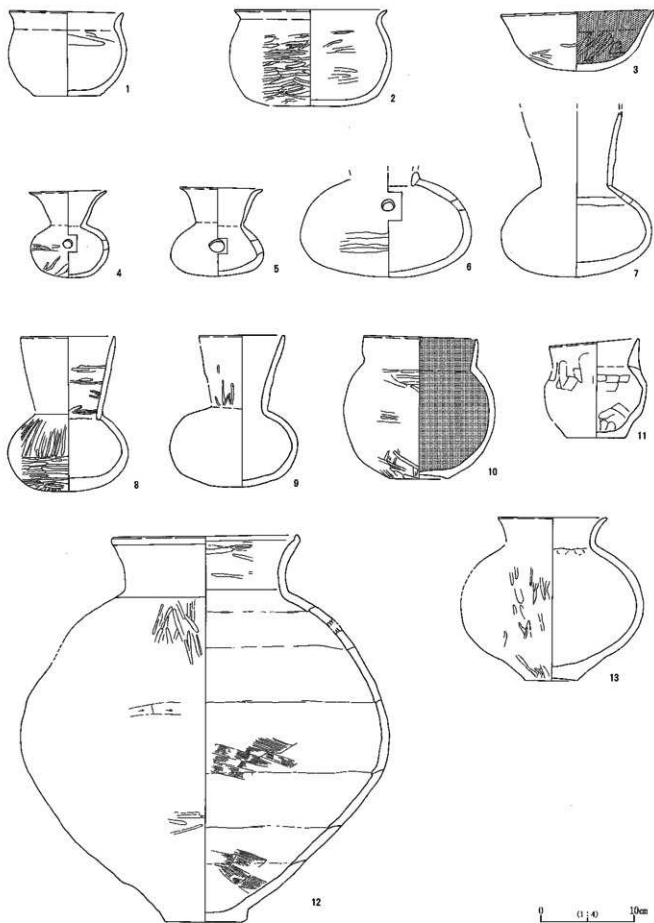
第94图 U:13号土器集積址出土土器実測図(4)



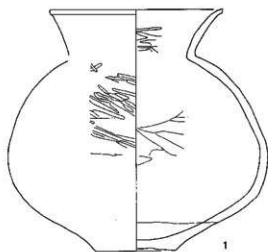
第96图 Ut15号土器集積址出土土器実測図〈1〉



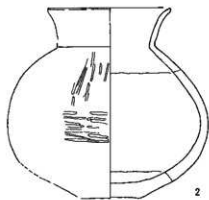
第97图 Ut15号土器集遗址出土土器实例图(2)



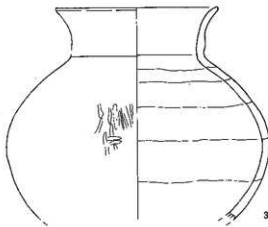
第98图 U:15号土器集積址出土土器実測図〈3〉



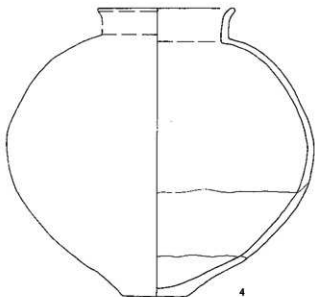
1



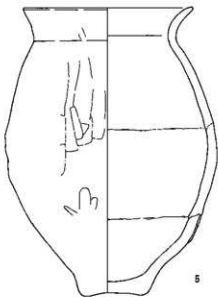
2



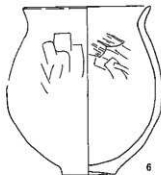
3



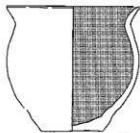
4



5



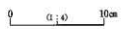
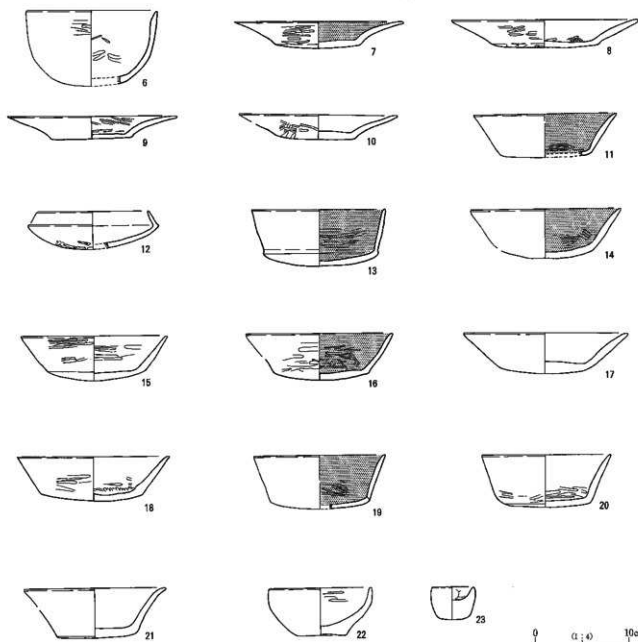
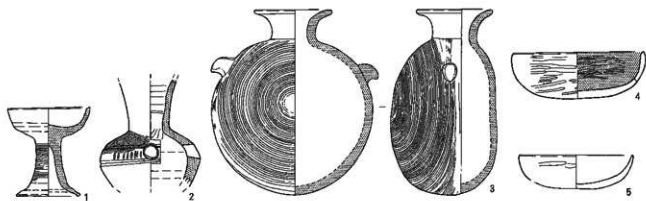
6



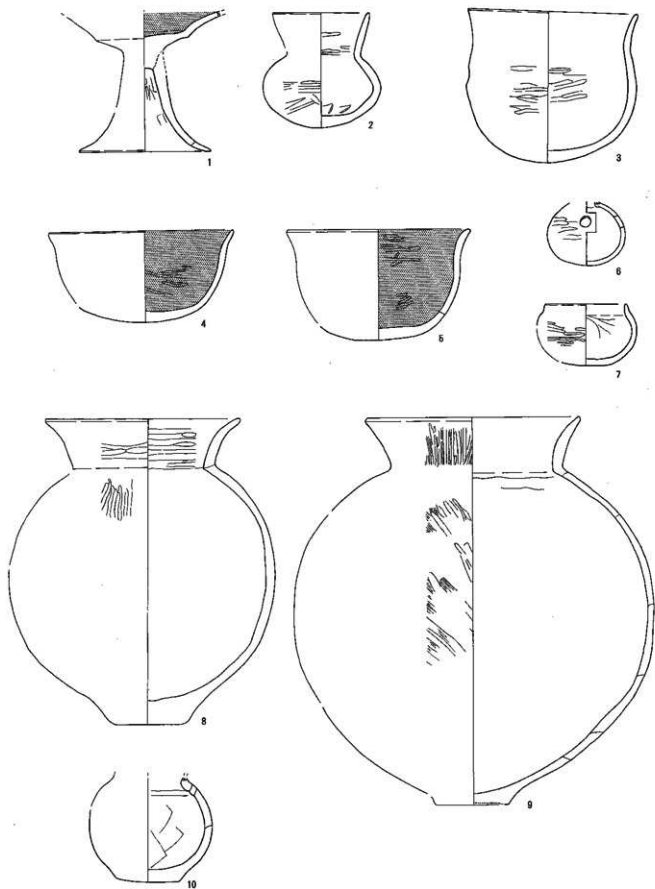
7



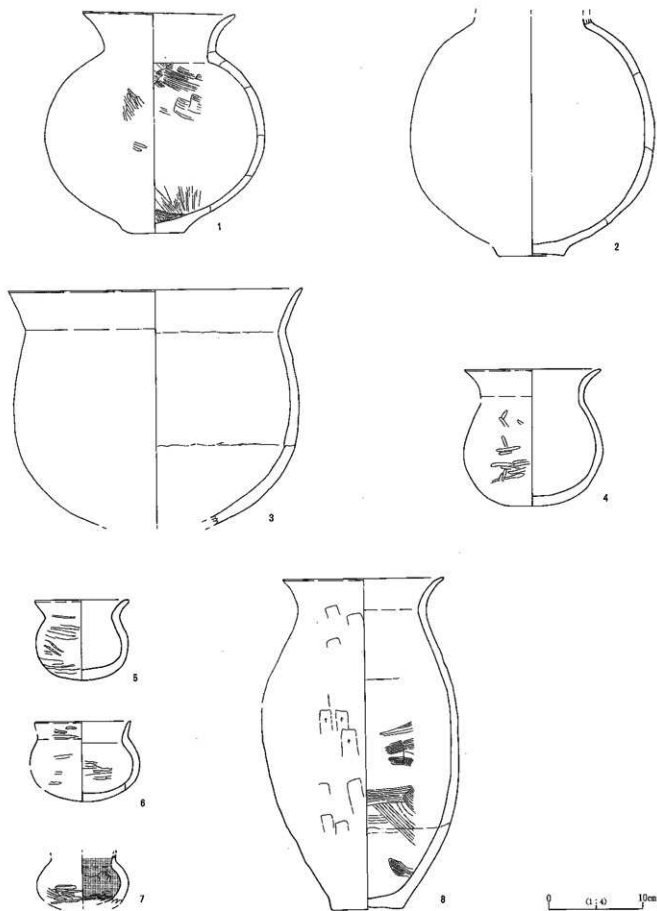
第99图 Ut15号土器集積址出土土器実測図〈4〉



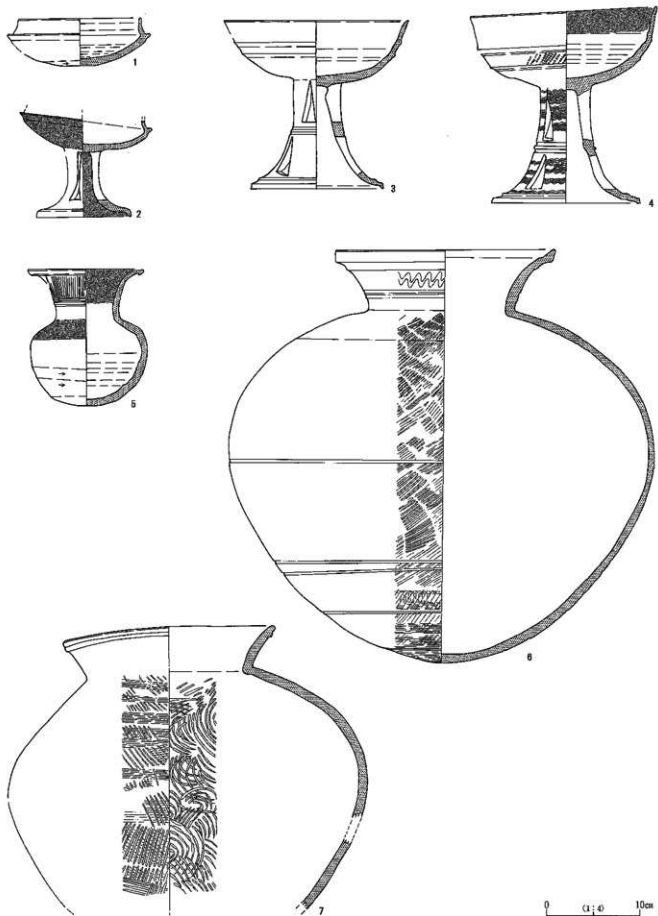
第101圖 Ut17号土器集積址出土土器実測圖〈1〉



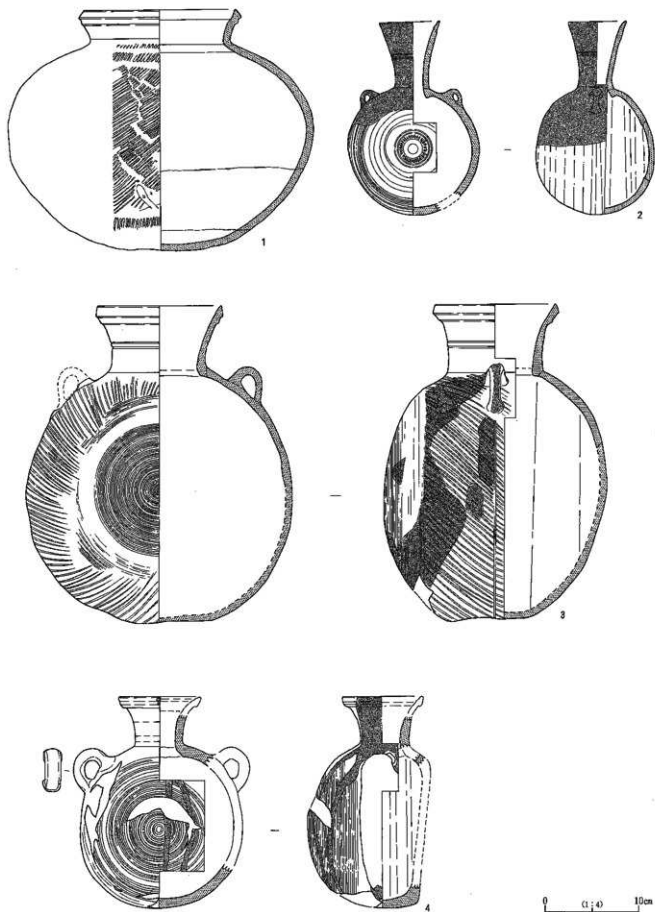
第102图 U17号土器集積址出土土器実測図〈2〉



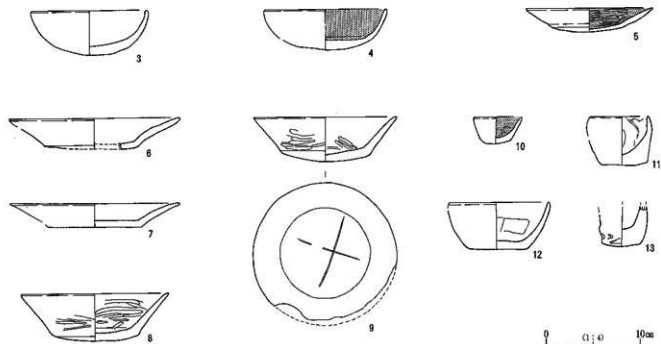
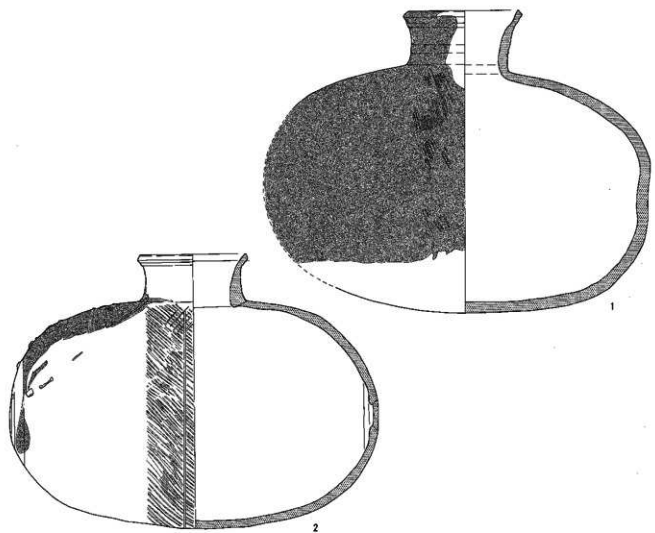
第1035圖 Ut17号土器集積址出土土器実測圖〈3〉



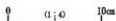
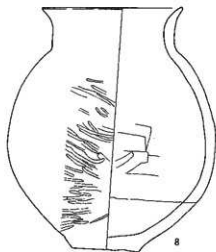
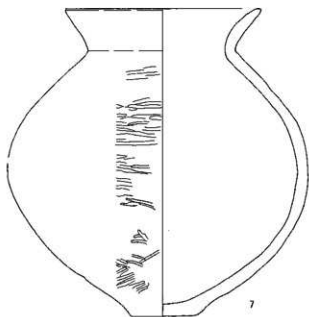
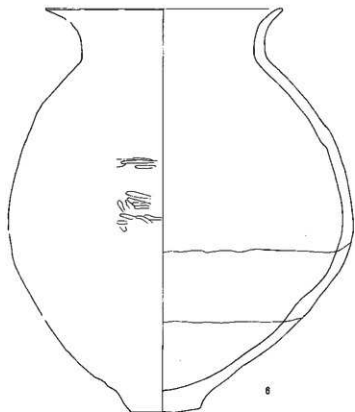
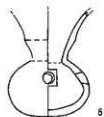
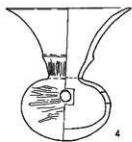
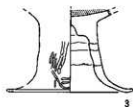
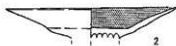
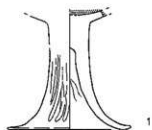
第105图 U_t20号土器集積址出土土器実測図(1)



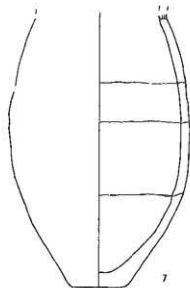
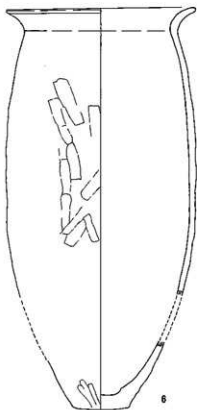
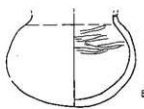
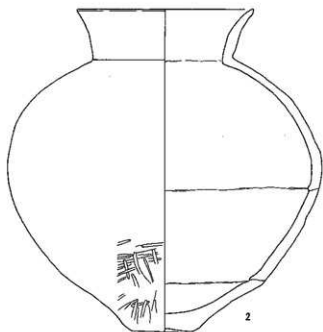
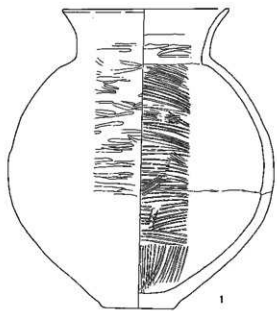
第108图 U120号土器集横址出土土器实例图(2)



第107图 U120号土器集葬址出土土器实测图(3)



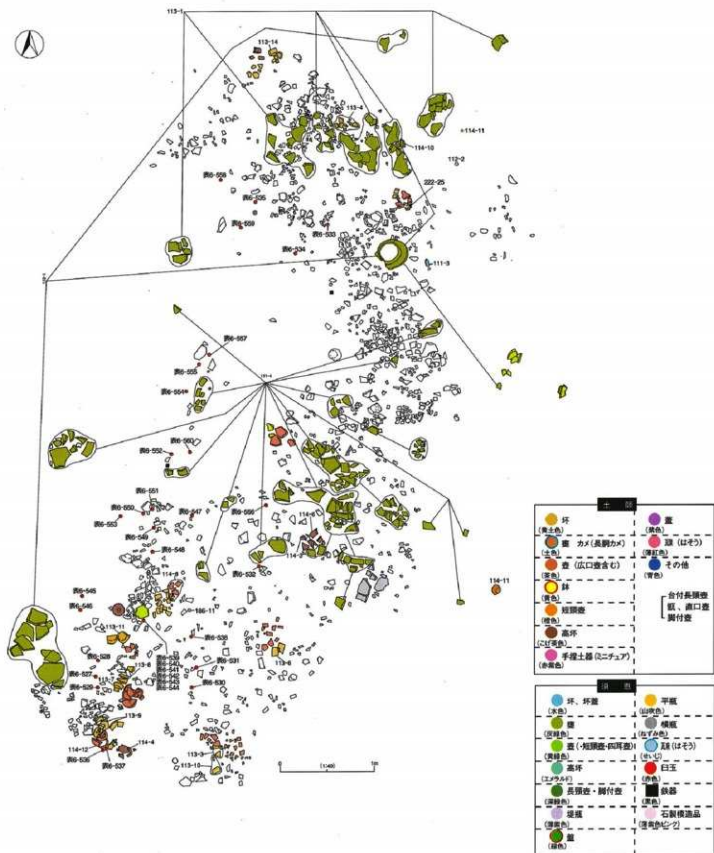
第108图 Ut20号土器类横址出土土器类测图(4)

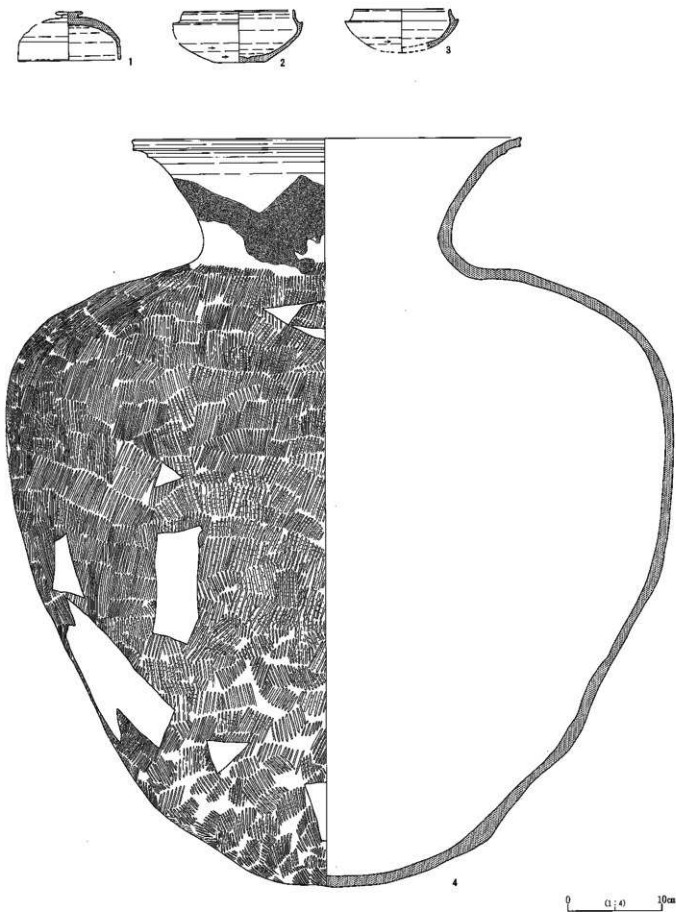


0 1:4 10cm

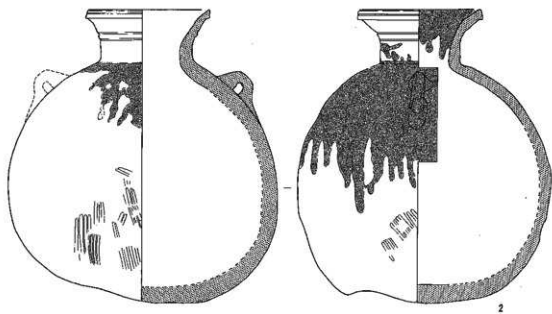
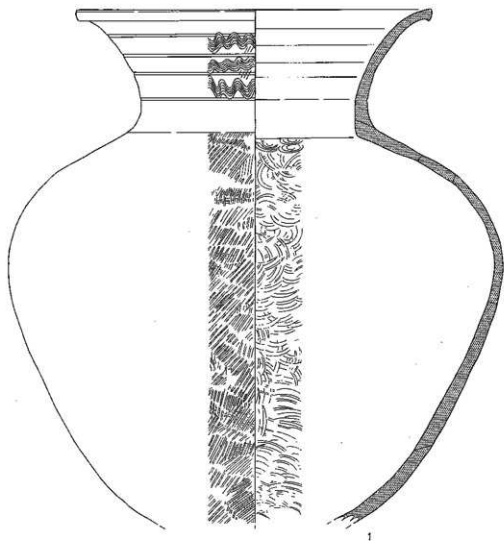
第109图 U120号土器集積址出土土器実測図〈5〉





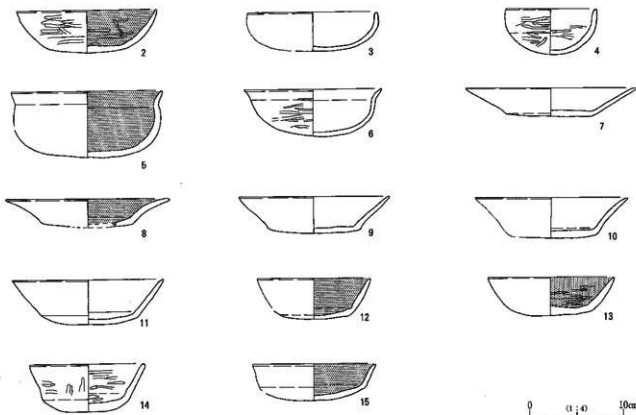
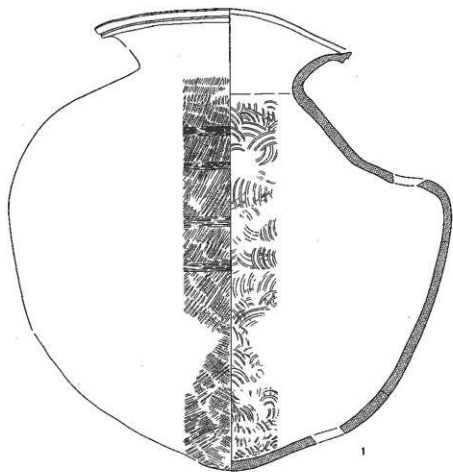


第111圖 U121号土器集積址出土土器実測圖〈1〉

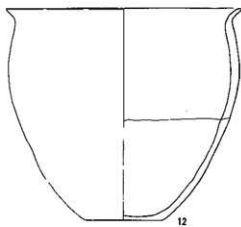
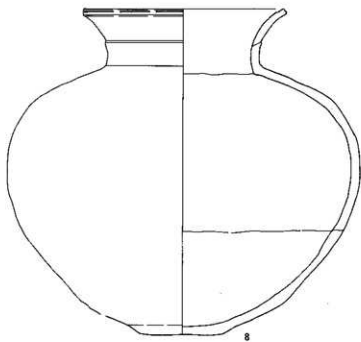
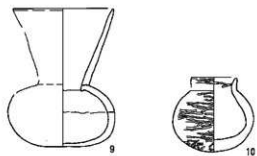
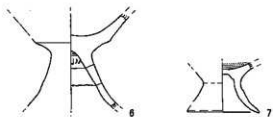
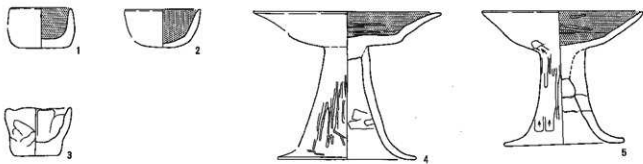


0 0:0 10cm

第112圖 Ut21号土器集積址出土土器実測圖〈2〉

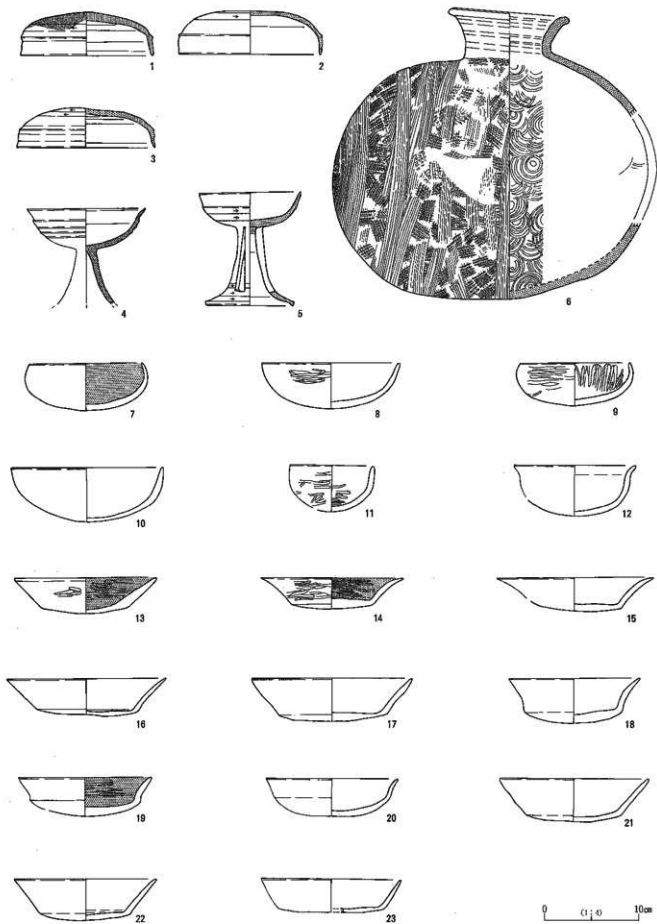


第113图 U₁t₂₁号土器集積址出土土器実測図〈3〉

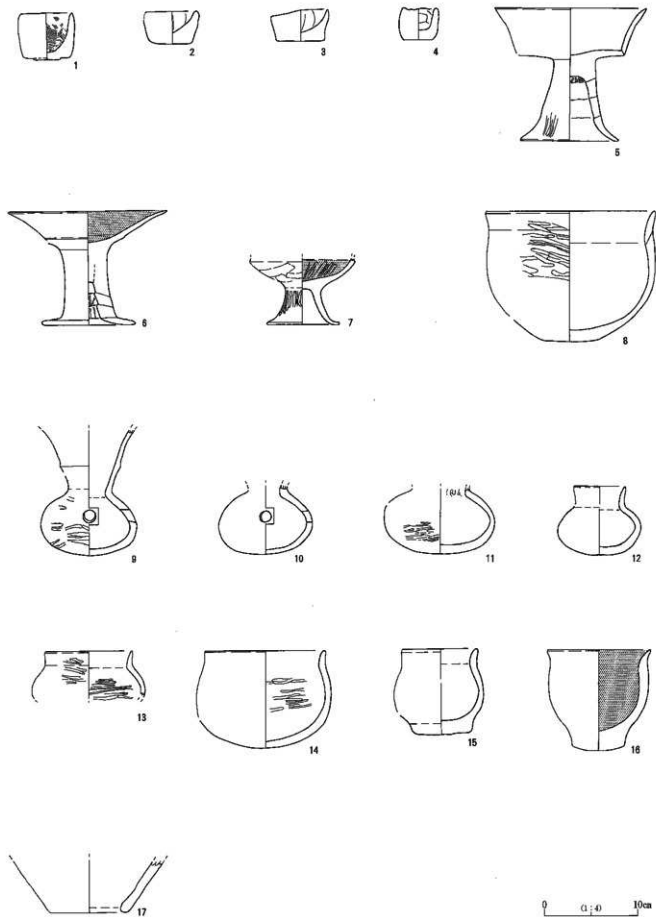


0 1:4 10cm

第114型 U121号土器集禮社出土土器実測図〈4〉



第116图 Urt22土器集種址出土土器実測図〈1〉



第117图 U122号土器集横址出土土器实测图(2)